

青森県埋蔵文化財調査報告書 第318集

笹ノ沢(3)遺跡Ⅱ

—八戸環状道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2002年2月

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書 第318集

笹ノ沢(3)遺跡Ⅱ

—八戸環状道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2002年2月

青森県教育委員会

序

八戸市笹ノ沢(3)遺跡は、東北縦貫自動車道八戸線（八戸～八戸）の建設工事に先立って、平成10・11年度に当センターが調査を行いました。この調査の際に調査区の北側隣接部が県道八戸環状線の建設予定区域に含まれていることが新たにわかり、平成12年度から当センターが調査を行っています。

平成12年度の調査では、竪穴住居跡は確認されませんでした。新たに円形のフラスコ状土坑12基が発見されました。地下貯蔵穴と見られる遺構で、従来知られていた縄文時代中期初等のものよりも古く、前期末葉にさかのぼるものであることから、この集落跡は従来考えられていたよりも長期であったことが判明しました。また、細長い形態のおとし穴も新たに24基発見されました。狩猟用の落とし穴と見られる縄文時代の遺構で、この地域が縄文時代には狩猟場としても利用されていたことが再度確認されました。

この報告書は、平成12年度の調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の調査資料として、今後この地域の埋蔵文化財の調査・研究、文化財の保護・活用に役立てていただければ幸いです。

調査の実施から報告書の刊行にいたるまで、種々ご指導・御協力くださった関係各位に対し、厚くお礼を申し上げます。

平成14年2月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 中島 邦夫

例 言

1. 本報告書は、八戸環状道路建設事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成12年度に発掘調査を実施した八戸市笹ノ沢(3)遺跡の発掘調査報告書である。
2. 出土した石器の石質鑑定は松山 力(八戸市文化財審議委員)氏に依頼した。
3. 本報告書に掲載した地図は、国土交通省国土地理院発行の5万分の1地形図「三戸」・「八戸」である。
4. 本書を編集するに当たり下記の機関及び諸氏にお世話になった(順不同 敬称略)。
北上市立埋蔵文化財センター (財)岩手県埋蔵文化財センター 稲野裕介

凡 例

- 1 遺構の表記は青森県埋蔵文化財調査センターで定めた下記の略号を使用している。
S B 掘立柱建物跡 S D 溝跡 S E 井戸跡 S I 住居跡
S K 土坑 S N 焼土遺構 S Q 配石・集石遺構 S R 土器埋設遺構
S T 捨て場 S V 溝状土坑 S X その他の遺構
- 2 挿図中の北方位は、座標北である。
- 3 挿図の縮尺は、各挿図にスケールとともに示した。ただし、座標の表示のあるものについてはスケールを示していない場合がある。
- 4 挿図中で用いたスクリーントーンの指示は次の通りである。



- 5 縄文原体の表記は『日本先史土器の縄文』(山内清男、1979年)に従ったが、観察表中では略記したことがある。(羽状縄文結束第○種→羽状結束○種 単軸絡条体→単軸 多軸絡条体→多軸 第○類→○類)
また、表中に単に縦位・横位とある場合は原体の回転方向を表している。
- 6 観察表中の胎土の項目は混和物に主眼をおき、略号を用い表記した。(繊維→織 海綿骨針→骨 風化した岩片→岩 酸化鉄→鉄 浮石→浮 凝灰岩→凝 雲母→雲 黒色鉱物→黒 長石→長)
また、書体により量の多寡を表した。(ゴシック：多 明朝：中 アンダーライン：少 イタリック：微)
- 7 遺物写真の縮尺は、特に断りのない場合以下のとおりである。
土器・礫石器：1/3 剥片石器：1/2

目 次

序

例言・凡例

目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査要項	1
第2節 既往の調査	1
第3節 調査の方法	1
第4節 調査の経過	3
第2章 遺跡の層序	5
第3章 検出遺構とその出土遺物	7
第1節 検出遺構の概要	7
第2節 検出遺構	8
第4章 遺構外出土遺物	45
第1節 土 器	45
第2節 石 器	46
参考文献	62
写真図版	63

抄録

奥付

第1章 調査の経過

第1節 調査要項

- 1 調査目的 八戸環状道路建設事業の実施に先立ち当該地区に所在する笹ノ沢(3)遺跡の発掘調査を行い、その記録を保存し、地域社会の文化財の活用に資する。
- 2 調査期間 平成12年4月18日から同年9月14日まで
- 3 遺跡名及び 笹ノ沢(3)遺跡 (青森県遺跡台帳番号 03042)
所在地 八戸市大字尻内町字下毛合清水7-7、外
- 4 調査対象面積 8,400㎡
- 5 調査委託者 青森県県土整備部
- 6 調査受託者 青森県教育委員会
- 7 調査担当機関 青森県埋蔵文化財調査センター
- 8 調査体制

調査指導員	村越 潔 (考古学 青森大学教授)
調査員	松山 力 (地質学 八戸市文化財審議委員)
	工藤竹久 (考古学 八戸市教育委員会文化課副参事)
調査担当者	青森県埋蔵文化財調査センター
所長	中島 邦夫
次長	成田 誠治
総務課長	西口 良一
調査第二課長	福田 友之
文化財保護主事	中村 哲也 竹内 誠司 (現青森市立横内中学校教諭)
調査補助員	新谷 幸子 佐藤 淑 小野 亜沙美 坂本 光子

第2節 既往の調査

笹ノ沢(3)遺跡は、平成10・11年度に、東北自動車道八戸線(八戸～八戸)建設事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが調査を実施し、その成果は既に公表されている(青森県教育委員会2001)。このときの調査区域は、本書で報告する区域(図2斜線部・アミ掛け部)の西側隣接地に当たり、沢地形を挟んで、南側の尾根で縄文時代中期初頭の集落、北側の尾根で溝状土坑群が検出されている。縄文時代の集落はほぼ円筒上層a式期に限定され、短期間に営まれた集落であり、同時に2～3軒の住居が存在したと考えられている。溝状土坑は長軸が等高線に平行になるよう構築されており、時期は縄文時代後期が想定されている。

第3節 調査の方法

グリッド設定・B.M.移設 グリッドの原点・規模・呼称等は、平成10・11年度調査時のもの(青森県教育委員会2001)を踏襲した。ただし、本年度の調査対象区域は、平成10・11年度のグリッドでカバーしきれず、東西軸のAライン以东を0(アラビア数字の0)とアルファベットの小文字a～yの組み合わせ(0a、0b…0y)で、南北軸の0ライン以北を一桁目に0をつけた数字(01、02、03、04…)で表わした。東西軸・南北軸とも0を頭に用い、また南北軸に- (マイナス)記号を用いなかったのは、以下の理由による。①当センターでは注記を機械で行っており、大文字と小文字の区別

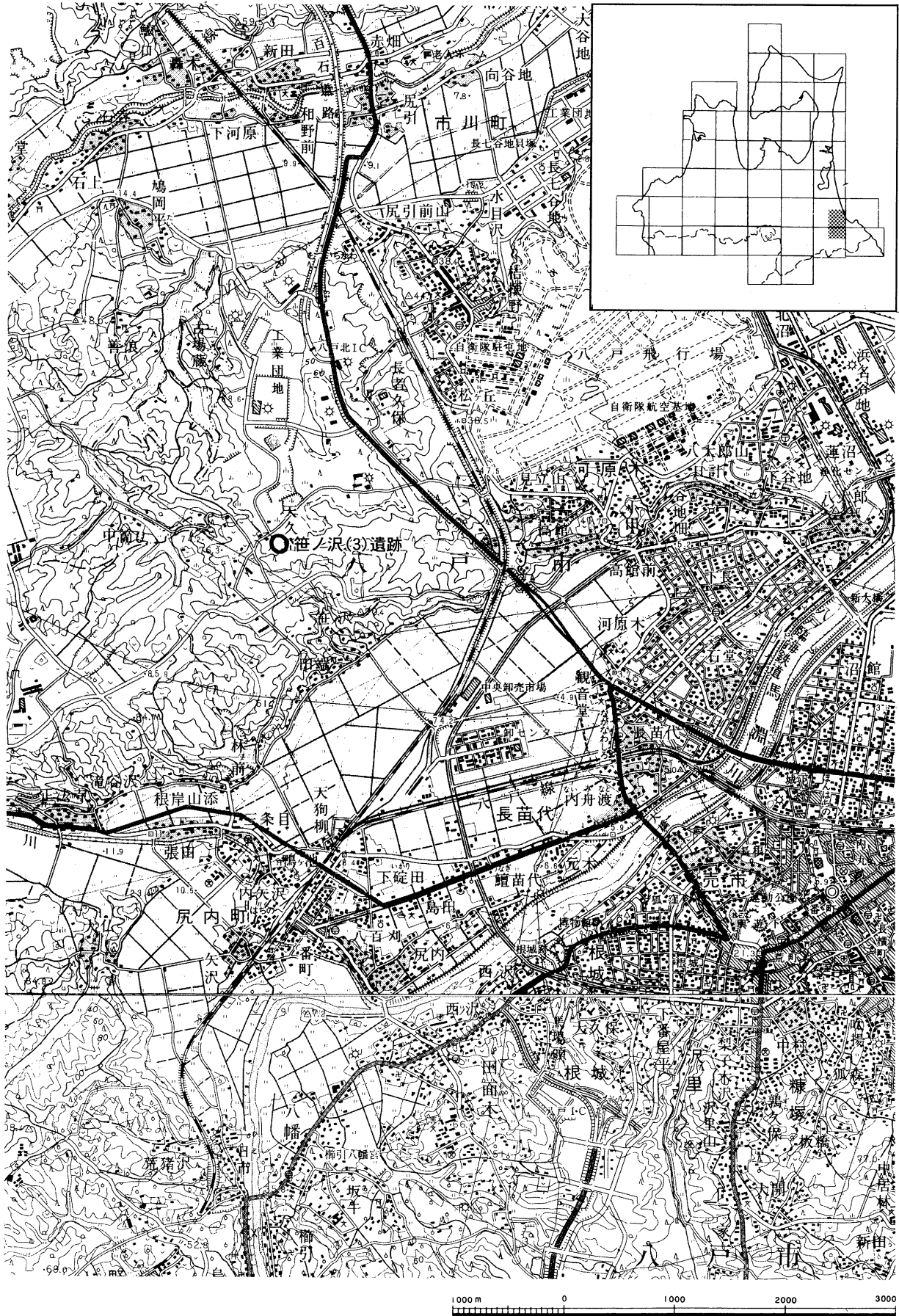


図1 遺跡位置図 (S = 1/50,000)

がつきにくいアルファベットがあること。②- (マイナス) 記号は- (ハイフン) と混同しやすい。

グリッド杭は、路線杭設置のため遺跡内に設置された4級測量基準点を用いて設置した。

なお、前回報告書(青森県教育委員会 2001)で明示されなかったグリッド原点A-0の公共座標値は、第X系、X=59,900 (m) Y=50,880 (m) である。

包含層の掘進 包含層の掘進は重機による表土除去を基本とし、表土直下からは人力で掘り下げた。ただし、進捗状況によって表土から人力で掘り下げた部分も多い。遺構・遺物の分布の希薄な部分はトレンチ調査を行った。本遺跡の北側・東側の隣接地では砂鉄の露天採掘が1970年代まで行われており、調査対象区域内でもこれに相当すると考えられた区域が確認された(図2斜線部)。この区域では数カ所に重機を用いてトレンチを設定し現地地表下約3mまで調査を行ったが、全て盛土であった。周辺地形と考えあわせて、地形の改変が相当の深度まで行われたものと考えられ、トレンチ調査のみで精査を終了した。B.M.は付近に設置されていた工事用仮ベンチマーク(70.858m)から移設して用いた。

遺構外出土遺物の取り上げ 遺構外の層序はローマ数字を以て表記した。遺構外出土遺物は層位とグリッドを記録して取り上げた。

遺構の精査と記録 遺構は種別ごと・検出順に名称を付した。調査後、攪乱と判明した場合は欠番とした。土坑は2分法を採用し、分層発掘に努めた。層序は算用数字を以て表記した。遺構から出土した遺物は遺構内堆積土の層位ごとに取り上げ、必要に応じて出土位置を記録した。具体的には、半截の際、堆積土を薄く水平に掘削し、遺物が出土した段階で、すぐに垂直方向の断面を分層し、また、垂直方向断面の下端に連続する水平方向の掘削面の分層を対比して遺物の出土層位の帰属を決定した。実測図は1/20縮尺で作成した。写真は35mmカラーリヴァーサルフィルム・35mmモノクロフィルム(ISO400)、35mmカラーネガフィルム(ISO100)を用いて撮影した。

第4節 調査の経過 4月18日、当初は8月11日までの予定で調査を開始した。正午頃、機材を搬入した。午後、調査対象区域の雑木移動・B.M.の移設を開始する。調査区の旧状は山林・畑で、枝打ちされた雑木の移動に手間取った。4月20日、B.M.移設を終了し、グリッド杭打設開始。4月21日、優先的に調査を求められた橋脚部分から粗掘を開始した。4月26日、溝状土坑を検出。以後、遺構検出と精査を主体に行う。6月1日、橋脚部分の調査を終えたが、この間、調査を優先的に行う区域の追加を打診され、承諾した。6月1日以降、追加優先区域の精査と同時並行で他の部分の調査を実施した。6月末、^{ゼロ}0Kライン以東に重機によりトレンチを設定した。概ね0fライン以東は砂鉄の採掘により相当深度まで掘削を受けていることが明らかとなり、調査不要と判断された。調査終了予定期日以前に当初予定された区域の調査を終える見込みとなり、一方、次に発掘調査が予定されていた、県道八戸三沢線建設事業に係る林ノ前遺跡の用地買収が不調だったため、予定された調査範囲を超えて笹ノ沢(3)遺跡の調査を継続することとなり、30ライン以南の一部と15ライン以北の調査を開始した。7月末、林ノ前遺跡の用地買収が可能となり、調査開始は9月18日からと決定された。そのため、8月11日に新たにプレハブを設置し、旧プレハブの跡地を含む15ライン以北と30ラインまでの調査を同時に調査を行った。30ライン以南は、精査の途中で調査を中止し、翌年度以降に調査を持ち越した。9月14日には調査を全て終えた。遺跡上空は海上自衛隊八戸駐屯地の管制区域となっており、空中撮影の日程は厳しく制限されていたが、調整をとり9月16日に撮影を行った。

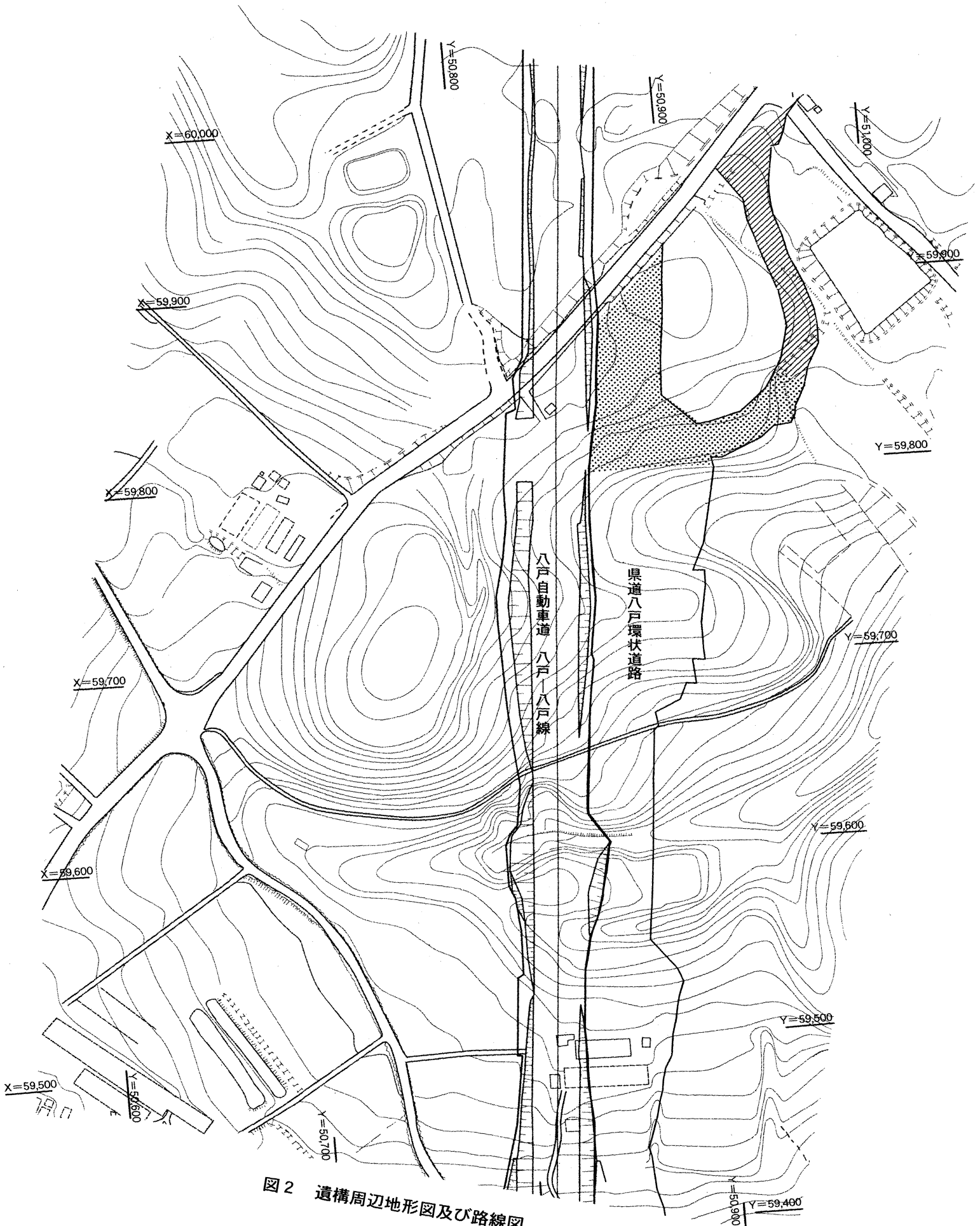


図2 遺構周辺地形図及び路線図

第2章 遺跡の層序

平成12年度の調査区は、北側の尾根と、その南斜面、谷底部に当たる。大別で7層を確認した。調査区内の微地形は変化に富み、また、畑地や山林として利用されてきた結果も手伝ってか、一部の層が欠如する部分も多い。今回の調査では、土層の堆積が比較的良好だった尾根頂部付近の層序を以て基本層序とした。以下、調査区内の土層について記述する。

第Ⅰ層 10YR1.7/1 黒色シルト To-b軽石を含む。

第Ⅱ層 10YR2/1 黒色砂質シルト To-b軽石、To-Cuの細粒含む。谷底に近い30ライン付近の北側調査区境界ではTo-bを含むⅡa層とTo-bを含まないⅡb層に細分できる。斜面部は段差などの地形改変が認められ、畑地として利用されていたとも思われる。そのためか本層が全体に薄く、10cm以下の部分もある。尾根上の平坦面では概ね5ライン以南、Aライン以西が削平されており、本層から第Ⅳ層までを欠如する。

第Ⅲ層 10YR3/3 暗褐色砂質シルト To-Cuがやや黒色化している。南側斜面部は地形的な要因のためか、本層を欠如する。

第Ⅳ層 10YR4/4 褐色シルト To-CuとTo-Nbかと思われる黄褐色浮石を含む。南側斜面部では本層を欠如する。

第Ⅴ層 褐色～黄褐色の堅くしまった火山灰土で、八戸火山灰層上部に相当する。土色や混入物から第Ⅴa層と第Ⅴb層に細分が可能である。

第Ⅴa層 10YR4/6 褐色シルト質火山灰土 φ3mmの黄褐色浮石微量。

第Ⅴb層 10YR5/6 黄褐色シルト質火山灰土 φ3mmの黄褐色浮石多量含む。

第Ⅵ層 八戸火山灰層下部。今回の調査では以下のように細分した。

第Ⅵa層 10YR7/8 黄橙色砂質火山灰層 堅くしまっている。八戸火山灰第Ⅴ層。

第Ⅵb層 10YR6/6 明黄褐色浮石層 φ3mm。八戸火山灰第Ⅳ層。

第Ⅵc層 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質火山灰層 八戸火山灰第Ⅲ層。

第Ⅵd層 10YR7/6 明黄褐色浮石層 土層断面図作成地点では風化が著しい。ただし、地点によってあまり風化していない部分がある。粗粒の浮石層である。八戸火山灰第Ⅱ層。

第Ⅵe層 10YR8/2 灰白色粘土質火山灰層 八戸火山灰第Ⅰ層。

第Ⅵf層 10YR8/2 灰白色浮石層 八戸火山灰第Ⅰ層中に含まれる浮石層に相当する。

第Ⅵg層 10YR8/2 灰白色粘土質火山灰層 八戸火山灰第Ⅰ層の下部。

第Ⅶ層 7.5YR4/4 褐色粘土質火山灰土 高館火山灰層上部。最上部は5YR4/1褐色灰色粘土質火山灰土である。

遺物はほとんどが尾根の南側斜面から出土しており、主要な遺物包含層は第Ⅱ層である。第Ⅱ層はTo-bの有無を指標として第Ⅱa層と第Ⅱb層に細分可能である。この事実は遺構の埋没時期を限定するのに重要である。To-bの降下年代はほぼ縄文時代晩期末葉以降、弥生時代の初め頃と考えられており(松山 1983)、To-bが遺構堆積土に含まれない場合、遺構の埋没年代をほぼ縄文時代に限定できる。

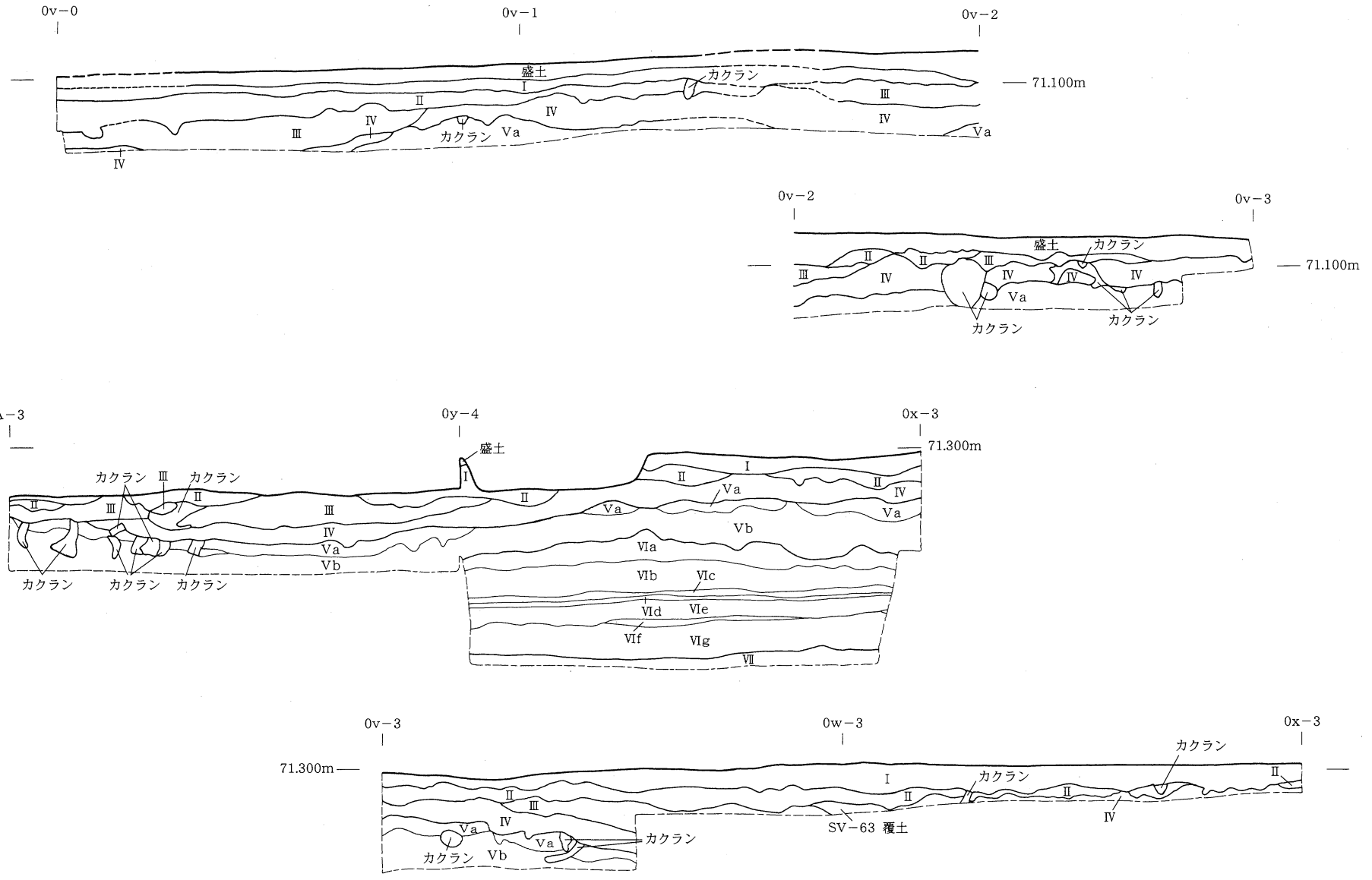


図3 基本層序 (S=1/50)

第3章 検出遺構とその出土遺物

第1節 検出遺構の概要

平成12年度の調査で検出された遺構は土坑21基、溝状土坑24基、溝跡22条、焼土遺構2基である。

フラスコ状土坑 土坑のうち12基はフラスコ状土坑で、標高64mから68mの斜面に位置し、10基が65m～67mの等高線の間にとまる。堆積土の主体は基本層序第Ⅱ層に類似し、To-bを含まないことから特に第Ⅱb層に類似する。遺物が伴うものはほとんど無く時期決定が難しい。しかし、第199号土坑からは、土器片200片が出土し、すべて円筒下層d式と考えられ、周辺に廃棄された土器が流れ込んだものと考えられた。また、フラスコ状土坑群付近から出土した土器は前期末～中期初頭のものも多く、フラスコ状土坑群はこの時期の所産である可能性が高い。付近からは住居跡は検出されていない。住居跡から離れた位置に形成されたフラスコ状土坑群であると考えられる。

その他の土坑 フラスコ状土坑以外の土坑は堆積土の主体が基本層序第Ⅰ層に類似し、比較的新しい時期の所産と考えられる。そのうち2基は壁や底面に焼面が認められ、このうち1基(第208号土坑)は底面直上層全面から多量の炭化物が出土した。一種の炭窯の可能性も考えられる。

溝状土坑 尾根頂部から南側斜面にかけて、ほとんどが、長軸が等高線に平行になるよう構築されている。全て自然堆積と判断できた。堆積土にはTo-bを含まず、基本層序第Ⅱb層に類似し、このことから縄文時代に属するものと考えられる。第54号溝状土坑の堆積土上位及び遺構の周辺(層位的には確認面より上位)からは縄文時代後期末～晩期初頭の土器片が出土しており、これが後世の移動によるものでないとするればこの溝状土坑はこのころまでには埋没していたと考えられる。第70・71号溝状土坑は一方が埋没した後もう一方が構築されたことは明らかで、溝状土坑が構築された期間には一定の時間幅があることも想定できる。以上から溝状土坑の構築・使用時期は縄文時代後期を中心とした時期が想定できる。ただし、その下限が縄文時代後期の時間幅の中に収まるかどうかは明らかにできない。

溝跡 堆積土の土質は基本層序第Ⅰ層に類似する。用途を特定することは難しいが、この地が畑地や山林として利用されてきたことに関連する可能性が考えられる。調査開始以前には、北西—南東方向にのびる第4・5・7・20・22号溝跡の上には防火帯かと思われる土手が築かれていた。土手は、黒色土で形成されていたため、これらの第Ⅴ層を掘り込んだ溝が現在の土手を構築するためのものとは考えにくい。土手以前の土地区画を反映している可能性も考えられるが、その上限は明らかでない。

地滑り 人間の生活には直接の関連は見いだせないものの、地滑りの痕跡が検出された。平成10・11年度の調査でも確認されており、全て八戸火山灰第Ⅳ層と同第Ⅲ層の間で生じていることが指摘されている(青森県教育委員会 2001:P8)。縄文時代の遺構はほとんどが地滑りにより変形しているが、変形していない第66号溝状土坑が変形している第214号土坑とわずかに重複している事実から、地滑りが生じた後に構築された溝状土坑がある可能性は十分に考えられる。第70・71号土坑の重複も、溝状土坑の構築・使用時期に一定の時間幅があることを示している。しかし、地滑りによるズレの量は個別の遺構により異なるし、同一遺構のうちでも異なる例(第54号溝状土坑)もあり、地滑り量にミクロなレベルでの差異が生じる要因は複雑なものと予想される。従って、溝状土坑の地

滑りによる変形の有無は時間差が要因であると断定することは難しい。地滑りが生じた時期は溝状土坑が継続的に構築されていた縄文時代後期かそれよりも後と考えざるを得ない。

第2節 検出遺構

検出遺構の位置・規模等は以下の一覧にまとめた。基本的な形状は実測図を参照されたい。一覧では表現できない事項のある各遺構については特記することとする。特に、遺構の埋没状態は、実測図・土層注記がその判断の根拠となるよう留意したつもりだが、その特徴を十分に表現できていないものも多い。また、考古学研究者間で堆積状態を判別するためのモデルが必ずしも共有されていないと思われる。判断が難しいものがあることも事実だが、堆積状態は遺跡・遺構によって千差万別であり、全てパターン化して提示することが困難であること、どのような指標が有効であるか整備されていないこと、などが原因と思われる。どのような指標が有効であるか整備されていないことが不十分な注記の原因でもあり、文章で説明する必要があると考えた。

遺構一覧

凡例

1. 平面規模は遺構下端の数値を用いた。縄文時代およびそれ以後の遺構は一般に黒色土中から掘り込まれており、火山灰土の崩落土も一般的に認められることから、黒色系統の土層の崩落土が遺構内の堆積土として存在することが当然推定できる。従って、遺構の上端は、遺構の埋没過程において崩落による変形を生じるのが当然のことと考えられる。検出面における上端の計測値は、周辺土層の堆積の厚さと掘り込み面のレベルや検出時の掘り下げの程度によって若干の変化が生じる。従って、上端の計測値は、遺構の垂直方向の任意の位置における数値であり、それが変化する要因も一定でないことは明らかで、遺構の法量を表す基準値として用いるのは不相当であると考えられる。下端は崩落による変化がないので、基準値として用いるのにより適当である。
2. 土坑・溝状土坑の深さは、1/20セクション図・エレベーション図で遺構底面の最も低いところから最も高いところまでの計測値である。溝は、溝に概ね直交するラインの上端と下端のレベル差のうちの最大値を採用した。いずれも周辺土層の堆積の厚さと掘り込み面のレベルや検出時の掘り下げの程度によって若干の変化が生じる性質のものであり、その取り扱いには注意を要する。
3. 溝の長さは1/50の実測図をキュルビメーターを用いて計測した。キュルビメーターの読みとり精度により、有効数字は0.1mとなった。
4. 一覧中の略号や記号の意味は次に示すとおりである。
 <SK-O:SK-Oと重複しSK-Oより古い () :発掘調査部分の数値 イタリック:下端の凹凸が激しく、上端の数値を示したもの
 >SK-O:SK-Oと重複しSK-Oより新しい ゴシック: (青森県教育委員会 2001) の数値を用いたもの

遺構名	遺構記号	検出グリッド	検出層位	底面	規模 (単位: m)			地滑りに よるズレ	備考
					長軸	短軸	深さ		
第197号土坑	SK-197	D-24・25	V	V	1.88	1.08	0.33	無	人為堆積
第198号土坑	SK-198	A-23・24	V	VIe~VII	2.48	2.24	1.24	有	自然堆積
第199号土坑	SK-199	0y-23・24	V	VII	2.43	2.04	1.10	有	自然堆積 斑状構造
第200号土坑	SK-200	A・0y-23	V	VIe~VII	2.32	2.20	1.55	有	自然堆積
第201号土坑	SK-201	0w-23	V	VIc	2.27	1.71	1.24	有	<SD-4・5 自然堆積
第202号土坑	SK-202	0w・x-24・25	V	VII	2.44	2.45	1.14	有	自然堆積
第203号土坑	SK-203	0v・0w-21	V	VIe~VIg	1.96	1.47	1.21	有	自然堆積 斑状構造
第204号土坑	SK-204	0u・0w-23	V	VIc	1.66	1.14	1.06	有	<SD-6・7 自然堆積

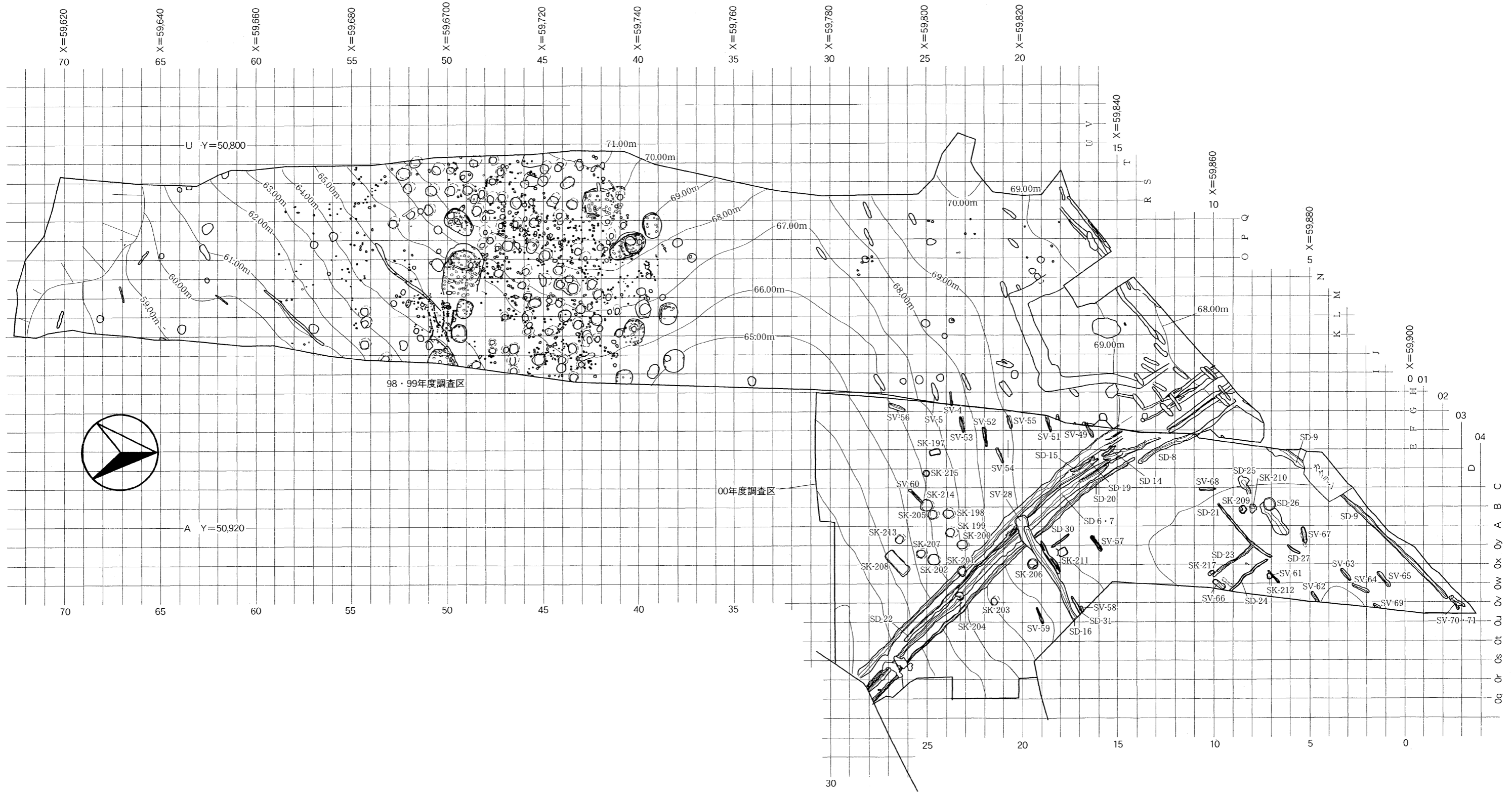


図4 笹ノ沢(3)遺跡遺構配置図(S=1/800)

遺構名	遺構 記号	検出グリッド	検出 層位	底面	規模 (単位: m)			地滑りに よるズレ	備考
					長軸	短軸	深さ		
第205号土坑	SK-205	A-24・25	V	Vlc	2.04	1.64	1.26	有	自然堆積 斑状構造
第206号土坑	SK-206	0w・0x-19	V	V	1.75	1.42	0.41	無	人為堆積
第207号土坑	SK-207	0x-25	V	Vlc	2.16	2.14	0.93	有	自然堆積
第208号土坑	SK-208	0w・0x-27・28	V	V	5.50	2.00	0.54	無	壁底面に焼面、炭化物多 量出土 堆積不明
第209号土坑	SK-209	A-9	V	V	1.23	1.21	0.36	無	人為堆積
第210号土坑	SK-210	A-8・9	V	V	1.72	1.56	0.48	無	人為堆積
第211号土坑	SK-211	0x-17・18	V	V	1.65	1.41	0.26	無	人為堆積
第212号土坑	SK-212	0w-7	V	V	0.95	0.86	0.22	無	自然堆積
第213号土坑	SK-213	0y・A-26	V	Vlc	2.50	1.74	1.03	有	自然堆積 斑状構造
第214号土坑	SK-214	A・B-25・26	V	VII	2.49	2.17	1.94	有	<SV-60 自然堆積 斑 状構造
第215号土坑	SK-215	C-25	V	V	1.20	1.16	1.61	無	自然堆積
第217号土坑	SK-217	0w-10	V	V	0.96	0.50	0.09	無	人為堆積
第218号土坑	SK-218		V	V				無	壁に焼面 <SD-4・5・ 6・7・8
第4号溝状土坑	SV-4	G-23・24	V	VId~VIg	3.30	0.17	0.85	無	自然堆積
第5号溝状土坑	SV-5	G・H-24・25	V		3.40	0.22	1.47	有	自然堆積
第49号溝状土坑	SV-49	E・F-16	V	VIa	4.66	0.24	1.04	無	自然堆積
第51号溝状土坑	SV-51	E・F-18・19	V		3.38	0.11	1.13	無	自然堆積
第52号溝状土坑	SV-52	D・E-22	V	Vlc	4.06	0.06	0.78	有	自然堆積
第53号溝状土坑	SV-53	E・F-23	V	Vlc	3.60	0.15	1.11	有	自然堆積
第54号溝状土坑	SV-54	D-21	V		3.27	0.14	1.30	有	自然堆積
第55号溝状土坑	SV-55	E・F-20・21	V	VlcorVle~	2.96	0.07	1.14	有	自然堆積
第56号溝状土坑	SV-56	F・G-26・27	V	gVlc	3.60	0.12	1.68	有	自然堆積
第57号溝状土坑	SV-57	0x・0y-16	V	Vlc	3.36	0.11	1.26	有	自然堆積
第58号溝状土坑	SV-58	0w-17	V		(1.45)	(0.11)	1.20	無	自然堆積
第59号溝状土坑	SV-59	0v・0w-19	V		3.49	0.11	1.22	無	自然堆積
第60号溝状土坑	SV-60	B-25・26	V		3.46	0.14	1.28	無	>SK214 自然堆積
第61号溝状土坑	SV-61	0v・0w-6・7	V		3.03	0.10	1.02	無	自然堆積
第62号溝状土坑	SV-62	0u・0v-4・5	V		2.48	0.40	1.24	無	自然堆積
第63号溝状土坑	SV-63	0v・0w-3	V		3.06	0.10	1.44	無	自然堆積
第64号溝状土坑	SV-64	0v-2	V		3.52	0.12	1.46	無	自然堆積
第65号溝状土坑	SV-65	0v・0w-1	V		3.64	0.15	1.30	有	自然堆積
第66号溝状土坑	SV-66	0v・0w-10・11	V	VId~VIg	2.36	0.20	1.30	有	自然堆積
第67号溝状土坑	SV-67	0w・0x-5	V	Vlc	3.16	0.13	0.98	有	自然堆積
第68号溝状土坑	SV-68	B-10	V		3.19	0.07	1.10	無	自然堆積

遺構名	遺構 記号	検出グリッド	検出 層位	底面	規模 (単位:m)			地滑りに よるズレ	備考
					長軸	短軸	深さ		
第69号溝状土坑	SV-69	0u-1	V		(1.26)	(0.10)	1.22	無	自然堆積
第70号溝状土坑	SV-70	0u・0v-03	V		3.15	0.13	1.10	無	<SV-71 自然堆積
第71号溝状土坑	SV-71	0u・0v-03	V		3.58	0.12	1.48	無	>SV-70 自然堆積
第1号焼土	SN-1	0t・0s-29	II		2.15	1.0			廃棄ないし攪乱を受けた可能性大
第2号焼土	SN-2	0q-27	II		0.48	0.31			
第4・5号溝跡	SD-4・5					2.26	0.60	無	<SK-218
第6・7号溝跡	SD-6・7		V			2.52	0.57	無	<SK-218
第8号溝跡	SD-8		V		13.0	0.52	0.43	無	>SK-204 <SK-218
第9号溝跡	SD-9		V		49.1	0.74	0.53	無	
第14号溝跡	SD-14		V		3.5	0.63	0.17	無	
第15号溝跡	SD-15		V		5.1	0.52	0.27	無	
第16号溝跡	SD-16		V		(21.5)	0.87	0.62	無	>SK-218
第17号溝跡	SD-17		V		6.3	0.48	0.09	無	
第18号溝跡	SD-18		V		6.3	0.46	0.11	無	
第19号溝跡	SD-19		V		3.50	0.62	0.60	無	
第20号溝跡	SD-20		V	V		0.99	0.50	無	
第21号溝跡	SD-21		V		15.3	0.30	0.15	無	
第22号溝跡	SD-22		V			1.30	0.41	無	
第23号溝跡	SD-23		V		10.0	0.20	0.17	無	
第24号溝跡	SD-24		V		10.0	(0.34)	0.18	無	
第25号溝跡	SD-25		V		2.9	0.90	0.16	無	
第26号溝跡	SD-26		V		5.0	0.86	0.17	無	
第27号溝跡	SD-27		V		7.5	0.92	0.11	無	
第30号溝跡	SD-30		V		6.00	0.42	0.16	無	
第31号溝跡	SD-31		V		4.75	0.61	0.12	無	

フラスコ状土坑の堆積土について

フラスコ状土坑内の堆積土を観察した結果、今回の調査ではほぼ全ての土坑に共通するパターンが認められた。その内容を以下に列挙する。

- ① 基本層序第Ⅱb層に類似する黒色・黒褐色の砂質シルトを主体とする。中振浮石を主要な母材とすると考えられる。シルト・粘土粒子のレベルで、八戸火山灰層や高館火山灰層の風化した粘土質・浮石質の土層が多量に混入することはない。
- ② 黒色・黒褐色の砂質シルト中には塊状の火山灰土が認められない。認められても、径数mmのものが少量で、人為的に攪拌・混合されたとは考えにくい。

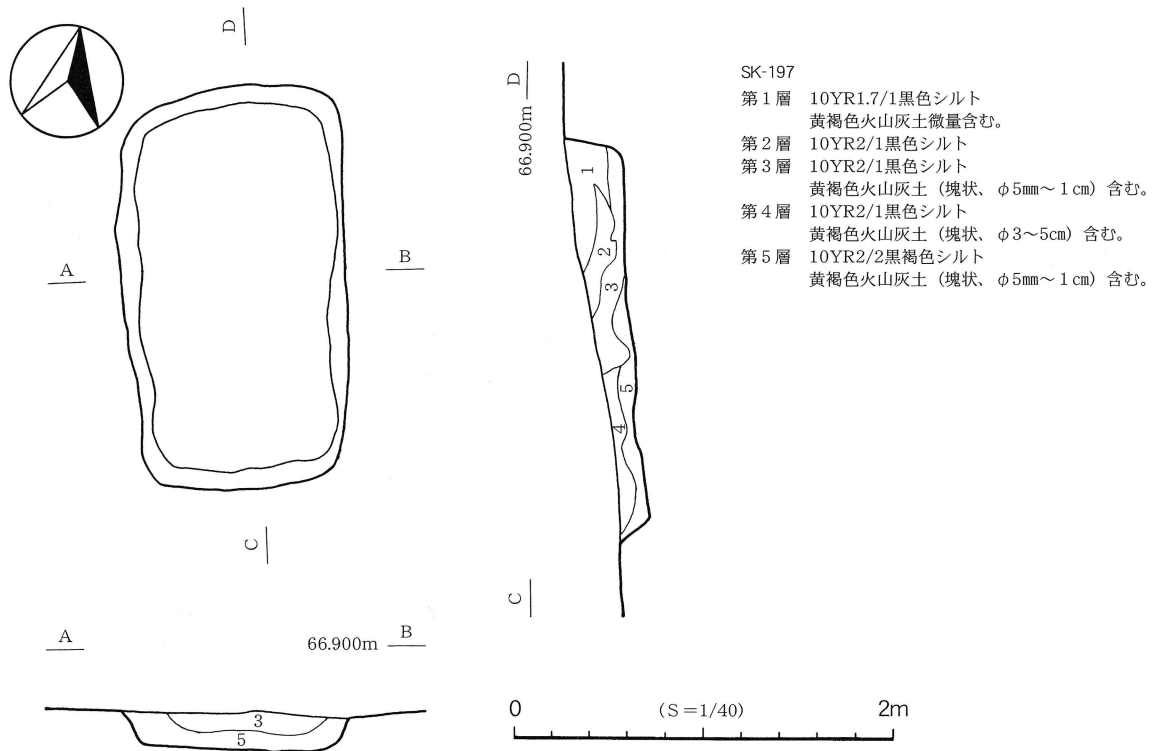
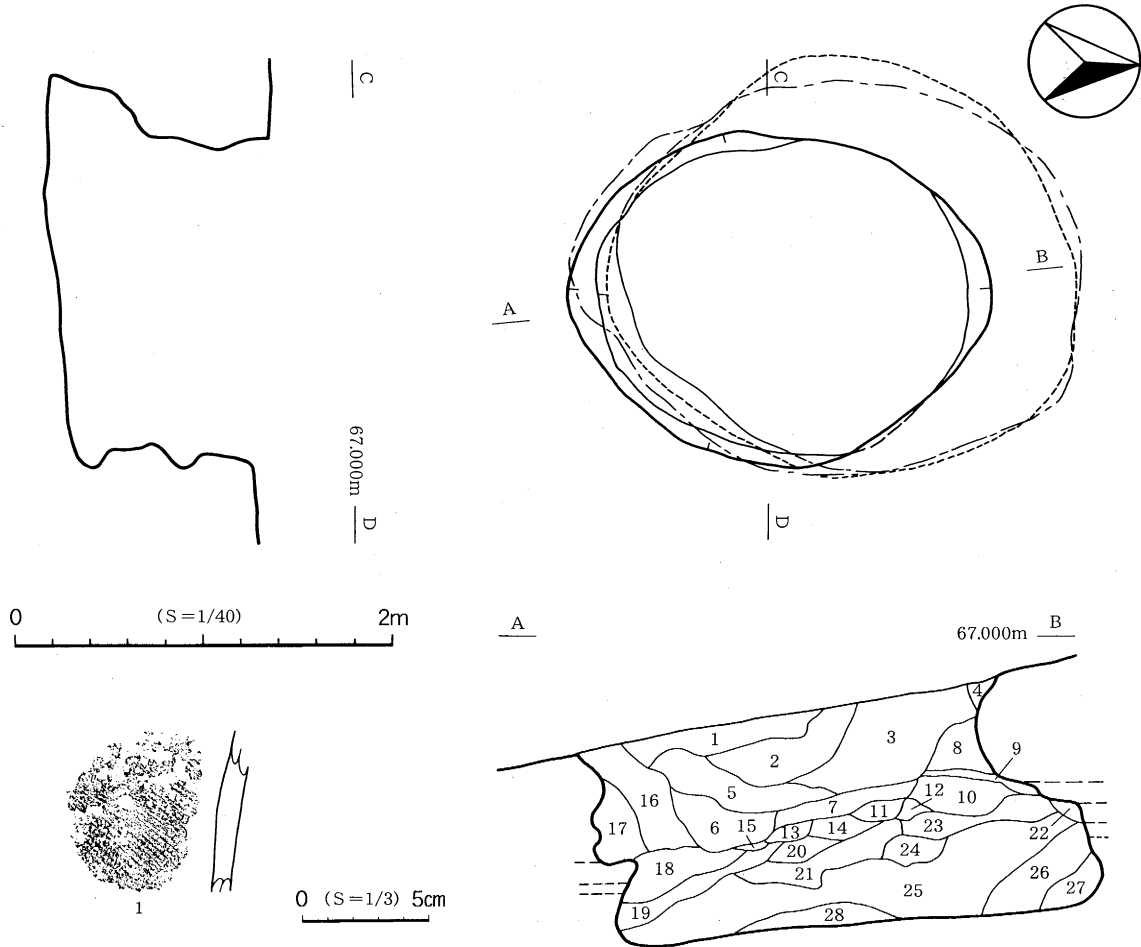


図5 第197号土坑

- ③ 壁際には火山灰土と、堆積の主体をなしている黒色・黒褐色の砂質シルトの混合した土層が認められるが、中央部には認められない。これは、壁の火山灰土が気温の変化や含有水分量の変化、あるいは凍結・融解などの自然営力によって風化し、黒色・黒褐色の砂質シルトと混合したものである。
- ④ 黒色・黒褐色の砂質シルトと混じり合わない純粋な火山灰土が壁際に認められる。多量にある場合、土色・土質・粒径などの特徴から複数の層に細分可能である。その細分層の上下関係は、特徴が一致する壁の火山灰土の上下関係と一致し、壁の火山灰土の複数層序が塊状に崩落したものと考えられる場合が多い。
- ⑤ 堆積土内に認められる火山灰土は、遺構の壁においてそれが起源すると思われる層序の上端よりも低いレベルで認められる。逆にいえば、堆積土内に認められた火山灰土は、遺構の壁においてそれが起源すると思われる層序の上端より高いところには堆積していない。崩落土である限り、それが起源する火山灰土より高い位置にあることは物理的にあり得ない。

以上により、フラスコ状土坑は自然堆積であると考えた。

堆積土の一部には若干土色の異なる砂質シルトが、互いに円形を呈し、その境界が不明瞭で、その配置は規則的であるという構造が認められた(写真図版4-18)。報告者はこれを斑状構造と仮称している(中村 2001)。斑状構造は粒径の明らかに異なる二種の土(たとえば粘土質火山灰土と砂質シルト)の間でも認められ、また(粘土質火山灰土と砂質シルトほど違わないという程度の意味で)同質の土でも認められることが明らかになった。二種の土が規則的な配列を示すことから、自然営力により生じた可能性が高いと考えられる。



SK-198

- 第1層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
- 第2層 10YR2/1黒色砂質シルト
- 第3層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石微量。
- 第4層 10YR4/4褐色シルト質火山灰土 壁の崩落土。
- 第5層 10YR2/1黒色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石微量。
- 第6層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石微量。
- 第7層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石微量。
- 第8層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土 壁の崩落土。
- 第9層 10YR3/2黒褐色砂質シルト φ2~3mmの黄褐色浮石微量。
- 第10層 10YR4/4褐色シルト質火山灰土 壁の崩落土。
- 第11層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土 壁の崩落土。
- 第12層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土 壁の崩落土。
- 第13層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
- 第14層 10YR2/3黒褐色砂質シルト

- 第15層 10YR3/2黒褐色シルト
- 第16層 10YR3/2黒褐色砂質シルト
- 第17層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第18層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土 壁の崩落土。
- 第19層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
- 第20層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
- 第21層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第22層 10YR6/6明黄褐色シルト質火山灰土 壁の崩落土。
- 第23層 10YR5/8黄褐色火山灰土と暗褐色シルトの混合土
- 第24層 10YR5/6黄褐色シルト質火山灰土 壁の崩落土。
- 第25層 10YR6/8明黄褐色シルト質火山灰土 壁の崩落土。
- 第26層 10YR6/8明黄褐色シルト質火山灰土 壁の崩落土。
- 第27層 7.5YR5/6明褐色粘土質火山灰土 壁の崩落土。
- 第28層 10YR2/1黒色砂質シルト

SK-198

番号	層位	外面文様等	内面調整等	胎土	時期	備考
1	2層	RLR横位回転	縦方向のナデ	織骨石英	前期末~中期初	

図6 第198号土坑

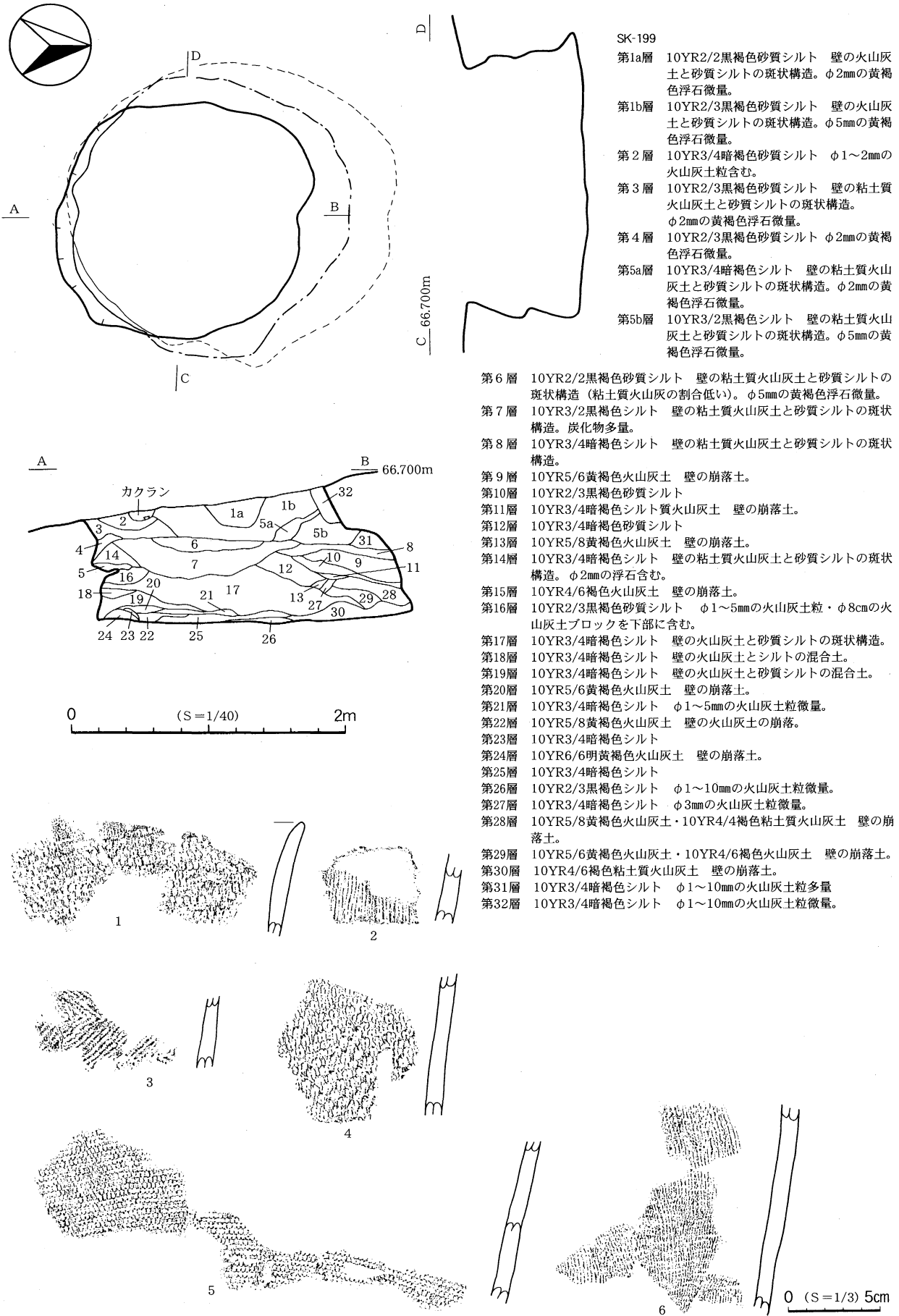


図7 第199号土坑・出土遺物 (1)

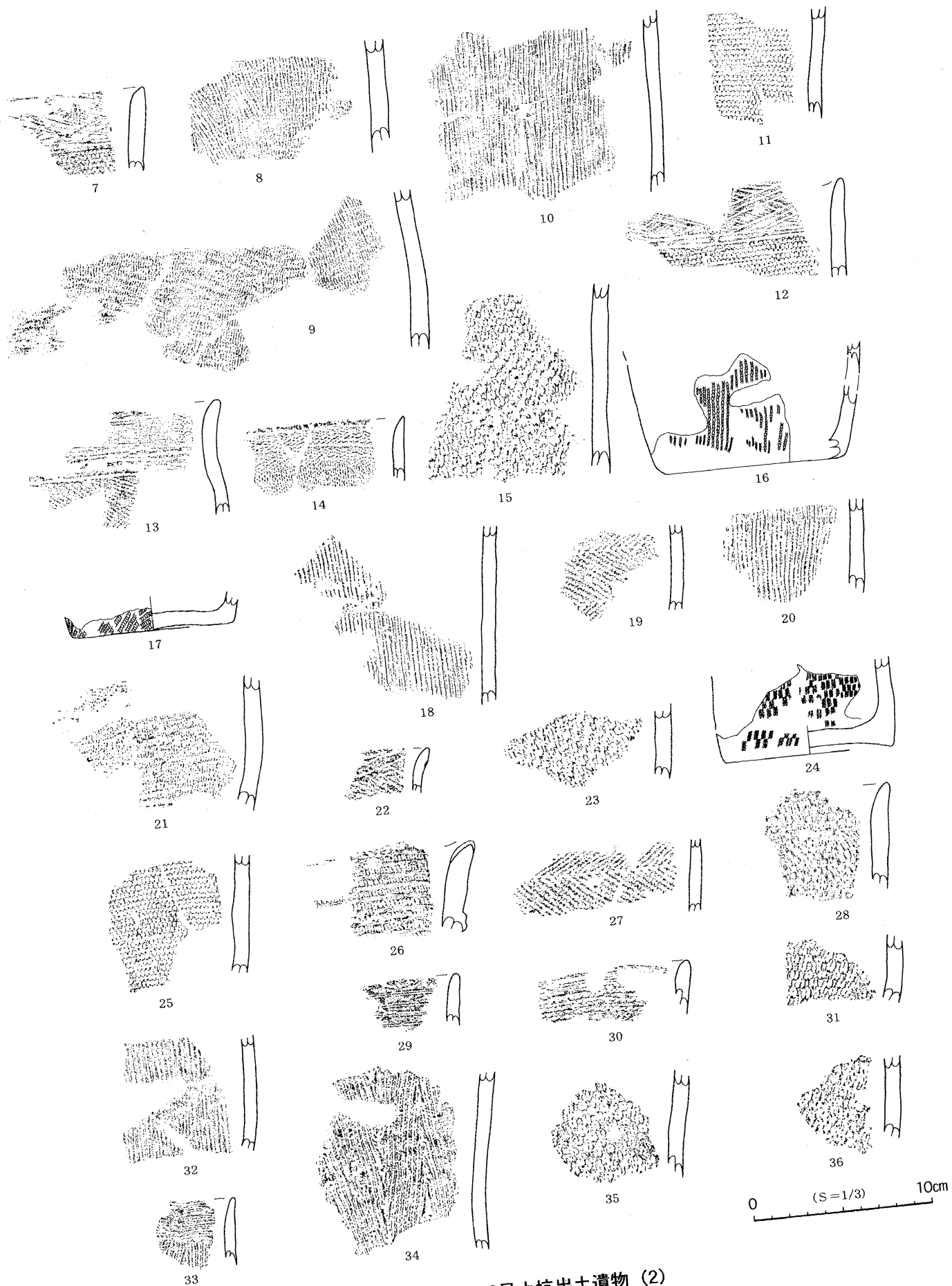


图8 第199号土坑出土遗物(2)

SK-199

番号	層位・取り上げ番号	外面文様等	内面調整等	胎土	時期	備考
7-1	7層:P154・155 17層:P163	多軸(R+R 二本一組)縦位	やや風化 横方向のナデ	織骨鉄石英黒岩	円筒下層d	個体3
7-2	17層:P-125	単軸1類(R) 縦位	縦方向のナデ	織石英黒岩	円筒下層d	個体2
7-3	1層:P-5 7層:P-118 17層:P-X	羽状結束1種横位	風化	織鉄	円筒下層d	個体4
7-4	確認面	多軸(R+R 二本一組)縦位	縦方向のミガキ	織骨石英黒	円筒下層d	個体6
7-5	1層:P-15・46 6層:P-32・87 19層:P-165	多軸(R+R 二本一組)縦位	縦方向のナデ	織骨鉄石英黒	円筒下層d	個体1
7-6	6層:P-82・X 7層:P-160 12層:P-162	単軸1類(R) 縦位	縦方向のナデ	織石英黒岩	円筒下層d	個体2
8-7	18層:P-124	口縁部:燃糸側面圧痕(R) 頸部:多軸圧痕 胴部:多軸(R+R 二本一組)縦位	横方向のナデ	織石英	円筒下層d	個体1
8-8	7層:P-101	単軸1類(R) 縦位	縦方向のナデ	織鉄石英	円筒下層d	個体2
8-9	2層:P-135 6層:84・88・94 7層:P-102	単軸1類(R) 縦位	縦方向のナデ	織骨鉄石英黒	円筒下層d	個体2
8-10	6層:P-89 7層:P-111・116・117	単軸1類(R) 縦位	縦方向のナデ	織石英岩	円筒下層d	個体5
8-11	7層:P-105 A-25 II層P-X	多軸(R+R 二本一組)縦位	縦方向のナデ	織骨鉄石英黒	円筒下層d	個体1
8-12	1b層:P-66 7層:P-121	口縁部:燃糸側面圧痕(R) 頸部:多軸圧痕 胴部:多軸(R+R 二本一組)縦位	横方向のミガキ	織鉄石英黒	円筒下層d	個体1
8-13	1b層:P-137 SK-198-2・5・7層:P-X	口縁部:単軸6A類 頸部:燃糸側面圧痕 胴部:多軸(R+R 二本一組)縦位	口縁:ヨコ 頸部以下:縦方向のナデ	織骨石英	円筒下層d	個体10
8-14	1b層:P-X 3層:P-130 7層:P-110	口縁部:燃糸側面圧痕(L,R)、結節回転文(L,R) 胴部:単軸1類(R) 縦位	横方向のミガキ	織骨石英黒	円筒下層d	個体11
8-15	1b層:P-61・80 7層:P-99	多軸(R+R 二本一組)縦位	縦方向のナデ	織浮骨鉄	円筒下層d	個体6
8-16	1b層:P-1・142・143 5b層:P-79	単軸1類(R) 縦位	やや風化 ナデ	織石英岩	円筒下層d	個体5
8-17	5b層:P-78 Oy-26 I層	LR横位(羽状の一部?)	板状工具によるナデ	織鉄石英黒岩	円筒下層d	個体4
8-18	3層:P-55	単軸1類(R) 縦位(二段の縄を母胎にした白縄白巻?)	縦方向のナデ	織石英黒	円筒下層d	個体5
8-19	1b層:P-138 6層:P-149	羽状結束1種横位	縦方向のナデ	織鉄浮	円筒下層d	個体4
8-20	6層:P-86	単軸1類(R) 縦位	縦方向のナデ	織浮鉄石英	円筒下層d	個体5
8-21	1層:P-55 6層:P-88	単軸1類(R) 縦位	縦方向のナデ	織鉄骨石英黒	円筒下層d	個体2
8-22	6層:P-90	RL側面圧痕	横方向のミガキ	織鉄骨石英黒	円筒下層d	個体8
8-23	1b層:P-72	多軸(R+R 二本一組)縦位	縦方向のナデ	織浮石英	円筒下層d	個体6
8-24	1b層:P-140・144 6層:P-148・151 7層:P-106・153	多軸(L) 縦位回転	剥落多	織黒骨	円筒下層d	個体3
8-25	1b層:P-64 A-25 II層	多軸(R+R 二本一組)縦位	縦方向のナデ	織石英黒	円筒下層d	個体1
8-26	1層:P-44 2層:P-133	単軸1類(R-L)側面圧痕	横~斜方向のミガキ	織浮	円筒下層d	個体9
8-27	1層:P-21 6層:P-81	羽状結束1種横位	やや風化 縦方向のナデ	織浮黒	円筒下層d	個体4
8-28	1b層:P-65	多軸(L+L 二本一組)縦位	やや風化	織浮石英黒	円筒下層d	個体3
8-29	1層:P-2・3	燃糸側面圧痕(L)	横方向のナデ	織	円筒下層d	個体13
8-30	1層:P-28 1b層:P-76	口縁部:単軸1類(R)横位 頸部:LR側面圧痕 胴部:LR(羽状の一部)	横方向のナデ	織骨浮石英	円筒下層d	個体4
8-31	1層:P-37	多軸(R+R 二本一組)縦位	縦方向のミガキ	織鉄石英	円筒下層d	個体6
8-32	1層:P-2・3	単軸1類(R) 縦位	風化	織浮	円筒下層d	個体5
8-32	1b層:P-123	口縁部:単軸6A類 胴部:単軸1A類(R+L二本一組)縦位	横方向のミガキ	織骨	円筒下層d	個体12
8-34	1層:P-52 5b層:P-77	単軸(R+L 二本一組)縦位	風化	織骨浮	円筒下層d	個体7
8-35	1層:P-38	多軸(R+R 二本一組)縦位	縦方向の工具ナデ	織浮鉄	円筒下層d	個体6
8-36	1b層:P-30・57	多軸(R+R 二本一組)縦位	縦方向のミガキ	織鉄石英黒	円筒下層d	個体6

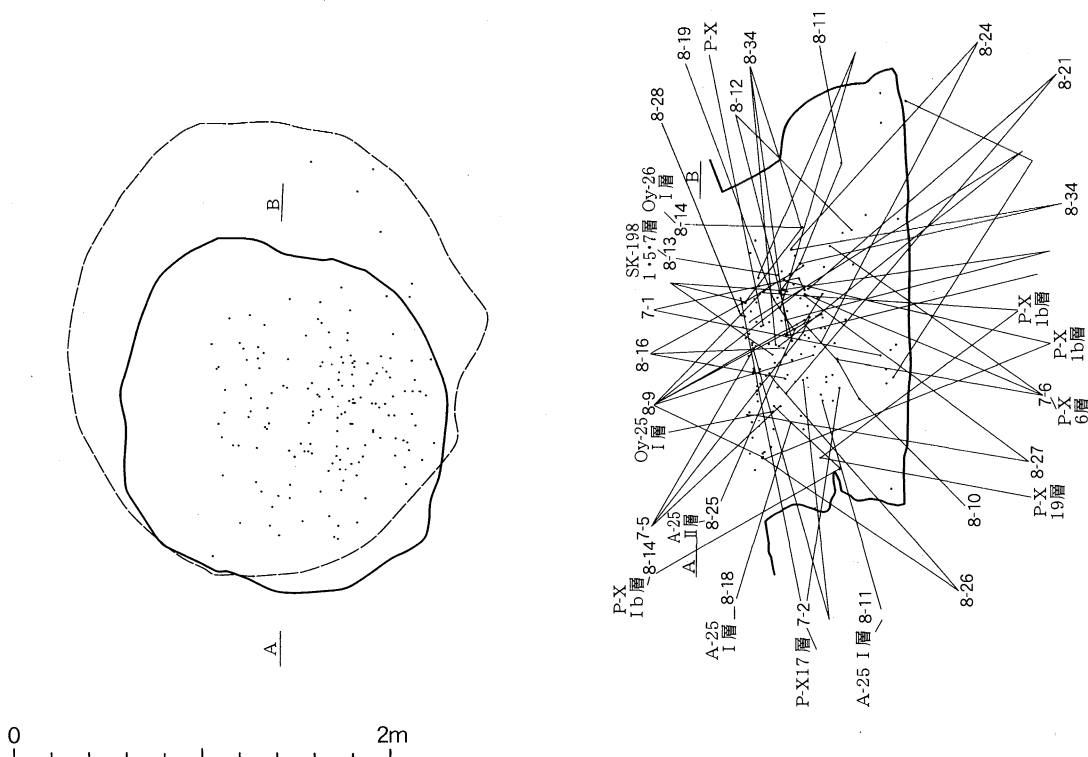
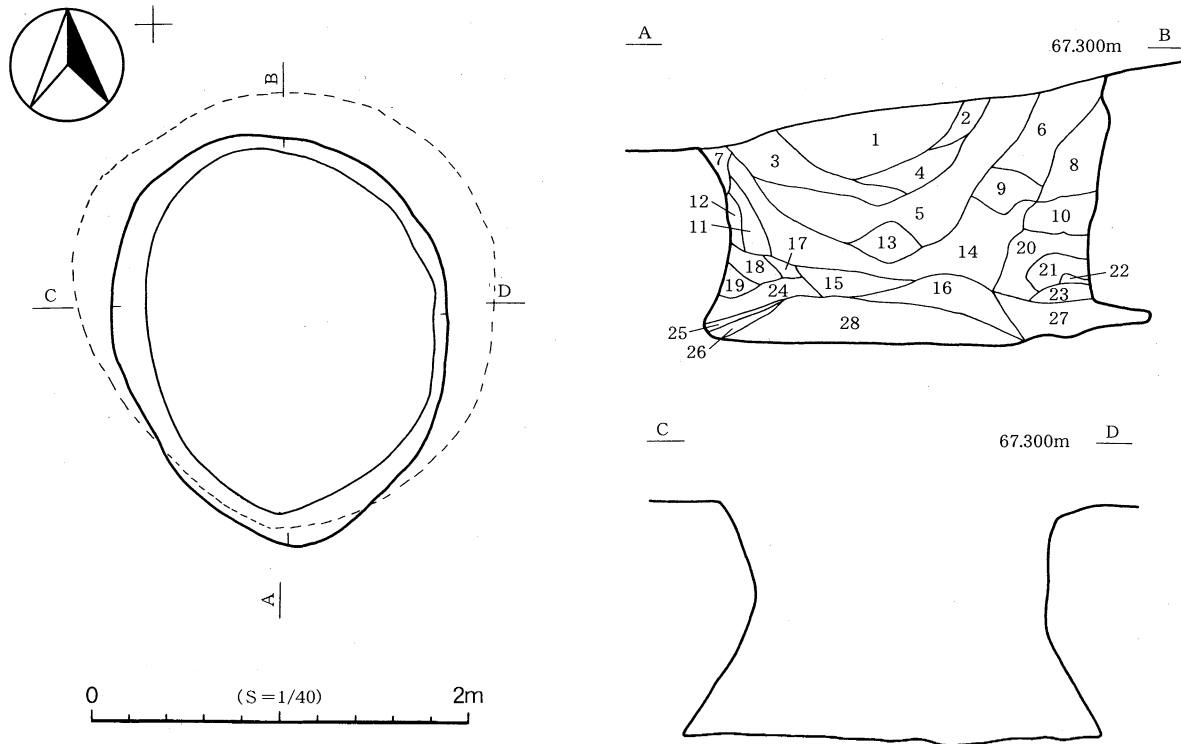


図9 第199号土坑遺物出土状況・接合状況(ゴシックは実測図番号)



SK-200

- 第1層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ5~10mmの黄褐色浮石含む。
- 第2層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ3~5mmの黄褐色浮石含む。
- 第3層 10YR3/4暗褐色砂質シルト シルトと壁の火山灰土の混合土。
- 第4層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ3~5mmの黄褐色浮石含むが、第2層より少ない。
- 第5層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ1~10mmの黄褐色浮石が上部に多く認められる。
- 第6層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ3~5mmの黄褐色浮石含む。
- 第7層 10YR4/6褐色シルト 黒色系シルトと壁の火山灰土の混合土。
- 第8層 10YR4/6褐色シルト 黒色系シルトと壁の火山灰土の混合土。
- 第9層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
- 第10層 10YR5/8黄褐色シルト 黒色系シルトと壁の火山灰土の混合土。
- 第11層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石含む。
- 第12層 10YR4/6褐色シルト φ3~5mmの黄褐色浮石含む
- 第13層 10YR2/3黒褐色シルト φ5~10mmの黄褐色浮石、φ3~5mmの黄褐色火山灰土含む。
- 第14層 10YR2/3黒褐色シルト φ5~10mmの黄褐色浮石、φ3~5mmの黄褐色火山灰土含む。

- 第15層 10YR3/4暗褐色シルト φ1~10mmの黄褐色浮石含む。
- 第16層 10YR3/4暗褐色シルト φ1~5mmの黄褐色浮石含む。
- 第17層 10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/6褐色シルトの混合土 φ1~20mmの黄褐色浮石含む。
- 第18層 10YR5/8黄褐色シルト 壁の火山灰土と褐色シルトの混合土。
- 第19層 10YR5/8黄褐色火山灰土壁の火山灰土の崩落土。
- 第20層 10YR5/6黄褐色シルト 黒褐色シルトと壁の火山灰土との混合土。
- 第21層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土
- 第22層 10YR5/8黄褐色粘土質火山灰土
- 第23層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土
- 第24層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第25層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第26層 10YR5/8黄褐色シルト
- 第27層 10YR2/3黒褐色シルト
- 第28層 10YR3/4暗褐色シルト

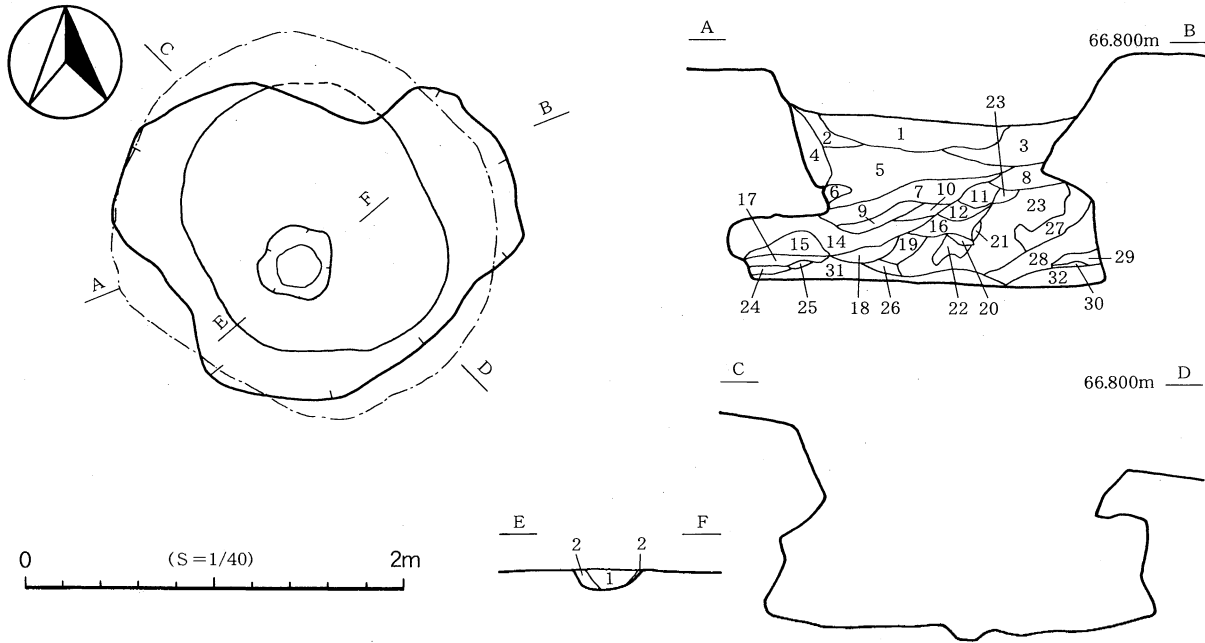
図10 第200号土坑

第199号土坑遺物出土状況・接合状況について (図7~9)

第199号土坑からは200片の土器片が出土した。うち、166片について出土位置を記録して取り上げた。その他は細片のため出土位置を記録しなかったか、遺構確認時・精査時に若干移動したため出土位置を記録できなかったものである。これらの遺物も層位を記録して取り上げることを基本とした。しかし、細片などは整理時の手違いで、層位を読みとれなくなったものが若干ある。出土遺物の帰属層位を決定する方法は第1章第3節に述べているのでここでは繰り返さない。

土器は、縄文時代前期末葉~中期初頭のもののみが出土した。口縁部破片は全て円形下層d1式である。また、胴部破片は第4章の当該時期の文様分類ク (p45) が見られず、円筒下層d1式に限られる可能性が高いと考えられる。

土器の垂直方向の分布は確認面から底面まで認められるが、多くは遺構の垂直方向における上位2/3に集中する。層中から出土し、層理面に集中する傾向は認められない。平面における遺物の分布



SK-201

A-B C-D

- 第1層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石含む。
- 第2層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ5~10mmの黄褐色浮石含む。
- 第3層 10YR4/4褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石含む。
- 第4層 10YR3/4暗褐色シルト 壁の崩落と思われるφ5mmの浮石含む。
- 第5層 10YR2/2黒褐色砂質シルト 3~5mmの黄褐色浮石含む。
- 第6層 10YR6/8明黄褐色火山灰土 壁の崩落土。
- 第7層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2mmの黄褐色浮石含む。
- 第8層 10YR3/1黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石含む。
- 第9層 10YR3/4暗褐色シルト 火山灰土粒微量含む。
- 第10層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石含む。
- 第11層 10YR2/3黒褐色シルト φ5mmの黄褐色浮石含む。
- 第12層 10YR4/4褐色シルト φ3mmの黄褐色浮石多量含む。
- 第13層 10YR5/6黄褐色シルト質火山灰土 ブロック状に崩落した壁の崩落土と考えられ、堅い。
- 第14層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ3~5mmの黄褐色浮石含む。
- 第15層 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 火山灰土粒多量含む。
- 第16層 10YR2/2黒褐色シルト 火山灰土粒含む。
- 第17層 10YR4/4褐色シルト質火山灰土 壁の崩落土。

- 第18層 10YR5/6黄褐色火山灰土・浮石壁の崩落土。
- 第19層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
- 第20層 10YR3/1黒褐色砂質シルト
- 第21層 10YR5/8黄褐色浮石 壁の火山灰土の崩落土。
- 第22層 10YR5/8黄褐色浮石 壁の火山灰土の崩落土。
- 第23層 10YR6/6明黄褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。
- 第24層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。
- 第25層 10YR3/2黒褐色砂質シルト 壁の火山灰土の崩落土。
- 第26層 10YR5/6黄褐色浮石 壁の火山灰土の崩落土。
- 第27層 10YR4/6褐色浮石 壁の火山灰土の崩落土。
- 第28層 10YR6/4にぶい黄褐色粘土質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。
- 第29層 10YR4/4褐色粘土質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。
- 第30層 10YR6/6明黄褐色粘土質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。
- 第31層 10YR1.7/1黒色砂質シルト
- 第32層 10YR4/6褐色粘土質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。

E-F

- 第1層 10YR2/3黒褐色シルト φ2~5mmの浮石少量。10YR5/4にぶい黄褐色粘土質火山灰少量含む。
- 第2層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ2~10mmの浮石少量。

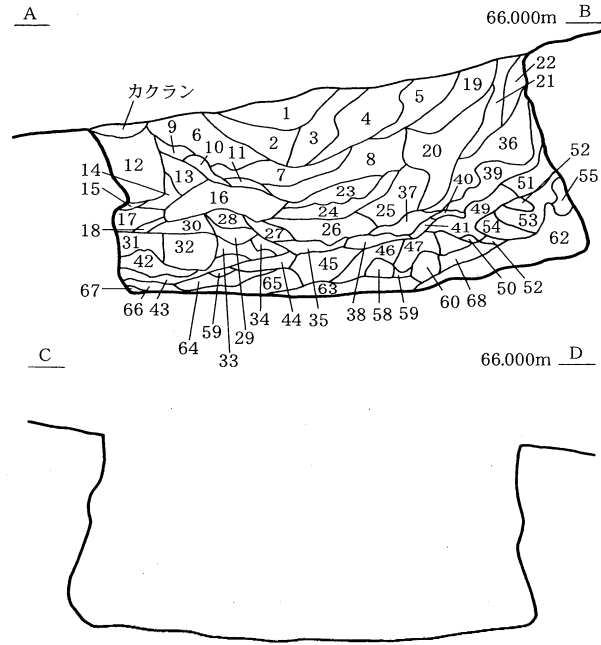
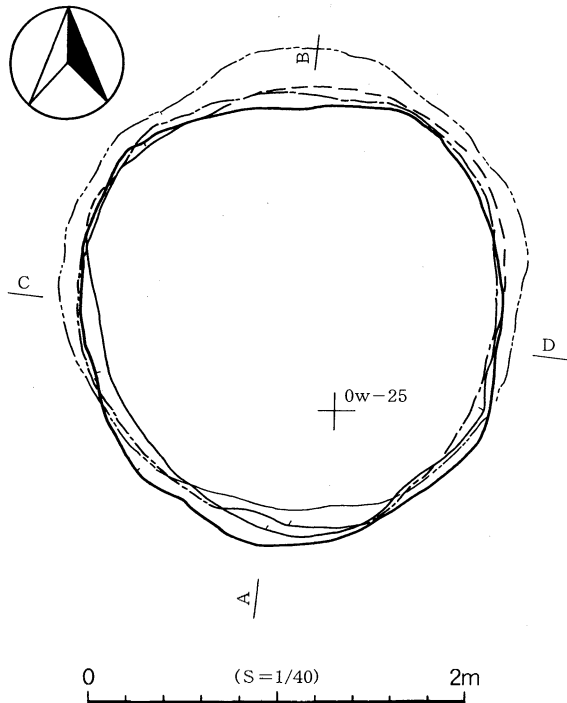
図11 第201号土坑

は、多くは開口部より内側に分布している。

接合例は35例認められた。数十cmのレベル差のものが接合する場合がある。また、遺構外の遺物と接合する例、遺構間接合する例がある。

土器の数量は、口縁部で14点（10個体：（ ）内は個体識別を行った場合の個体数）、底部が6点（5個体）、口縁部と胴部の組み合わせが不明なものがあるため、口縁部・胴部・底部すべてについて個体識別を行った場合は13個体分を識別することができる。同一個体でも出土位置に相当程度のレベル差・層位差が認められる。

以上の点から、第199号土坑出土遺物は、周辺に廃棄された遺物が自然営力によって移動し、時間差を持って土壌とともに流入したものと考えられ、堆積土の様相とも調和的である。従って、遺物の出土状況からも遺構堆積土の形成過程をある程度復元することは可能であると考えられる。

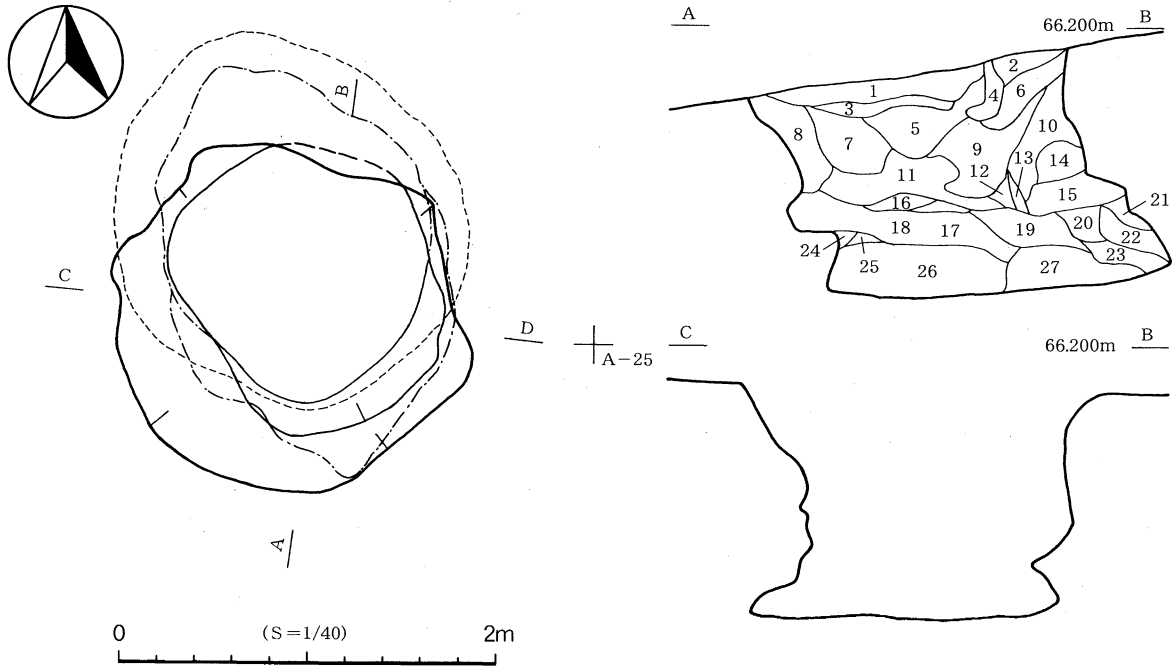


SK-202

- 第1層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第2層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第3層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石微量。炭化物粒微量。暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第4層 10YR4/4褐色シルト 上半部は暗褐色砂質シルトとの斑状構造。
- 第5層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第6層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第7層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1cmの黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第8層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第9層 10YR2/3黒褐色砂質シルト 暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第10層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第11層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土
- 第12層 10YR5/6黄褐色シルト質火山灰土と暗褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第13層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第14層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石微量。
- 第15層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土
- 第16層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2mmの黄褐色浮石微量。
- 第17層 10YR4/6褐色砂質シルト 壁の崩落による火山灰土ブロック含む。
- 第18層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
- 第19層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ1cmの黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第20層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石少量。暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第21層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石微量。暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトの斑状構造。
- 第22層 10YR5/6黄褐色シルト φ5mmの浮石少量。壁の崩落による黄褐色火山灰土ブロック含む。
- 第23層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ2mmの浮石少量。
- 第24層 10YR3/2黒褐色砂質シルト φ2mmの黄褐色浮石少量。
- 第25層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 火山灰土ブロック含む。
- 第26層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石少量。
- 第27層 10YR4/4褐色火山灰土
- 第28層 10YR5/8黄褐色火山灰土

- 第29層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
- 第30層 10YR4/6褐色火山灰土
- 第31層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 火山灰土ブロック含む。
- 第32層 10YR6/6明黄褐色シルト質火山灰土 ブロック状に崩落したものと考えられ、非常に堅い。
- 第33層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土。
- 第34層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
- 第35層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
- 第36層 10YR3/4暗褐色砂質シルトと10YR4/6褐色火山灰土が不均一に混合したもの。
- 第37層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土と10YR3/3暗褐色砂質シルトの混合土
- 第38層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
- 第39層 10YR4/6褐色火山灰土 黒褐色砂質シルトを一部に含む。
- 第40層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
- 第41層 10YR4/4褐色砂質シルト
- 第42層 10YR6/6明黄褐色火山灰土
- 第43層 10YR4/4褐色砂質シルト
- 第44層 10YR3/2黒褐色砂質シルト
- 第45層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ2mmの黄褐色浮石少量。
- 第46層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ5cmの火山灰土ブロック含む。
- 第47層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
- 第48層 10YR6/8明黄褐色浮石 φ2mm。
- 第49層 10YR5/8黄褐色火山灰土
- 第50層 10YR5/2灰黄褐色火山灰土
- 第51層 10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土
- 第52層 10YR7/6明褐色砂質火山灰土
- 第53層 10YR5/4にぶい黄褐色粘土質火山灰土
- 第54層 10YR6/6明黄褐色シルト質火山灰土
- 第55層 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質火山灰土
- 第56層 10YR5/3にぶい黄褐色粘土質火山灰土
- 第57層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
- 第58層 10YR6/6明黄褐色火山灰土 ブロック状に崩落したものとと思われる。堅い。
- 第59層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
- 第60層 10YR6/6明黄褐色火山灰土 ブロック状に崩落したものとと思われる。
- 第61層 10YR7/6明褐色火山灰土
- 第62層 10YR5/4にぶい黄褐色粘土質火山灰土
- 第63層 10YR3/2黒褐色砂質シルト
- 第64層 10YR4/6褐色火山灰土
- 第65層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
- 第66層 10YR6/4にぶい黄褐色火山灰土
- 第67層 10YR5/3にぶい黄褐色粘土質火山灰土

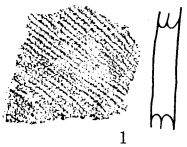
図12 第202号土坑



SK-205

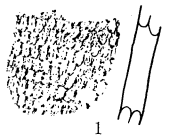
- 第1層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2mmの黄褐色浮石含む。
- 第2層 10YR3/4暗褐色砂質シルト 火山灰土を斑状に含む。
- 第3層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ2mmの黄褐色浮石微量。
- 第4層 10YR2/2黒褐色砂質シルト 木痕による攪乱。
- 第5層 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石含む。
10YR2/3黒褐色砂質シルトを葉理状に含む。
- 第6層 10YR2/3黒褐色砂質シルト 10YR3/4暗褐色砂質シルトが斑状に認められる。φ2mmの黄褐色浮石含む。
- 第7層 10YR2/2黒褐色砂質シルト 10YR3/3暗褐色砂質シルトが斑状に認められる。φ10mmの黄褐色浮石含む。
- 第8層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 10YR4/4暗褐色砂質シルトが斑状に認められる。φ2mmの黄褐色浮石含む。
- 第9層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ5mmの黄褐色浮石含む。
- 第10層 10YR3/2黒褐色砂質シルト 10YR3/3暗褐色砂質シルトが斑状に認められる。φ5mmの黄褐色浮石含む。
- 第11層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1cmの黄褐色浮石含む。

- 第12層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 10YR3/2 暗褐色砂質シルトが斑状に認められる。
- 第13層 10YR2/3黒褐色砂質シルト 木痕による攪乱。
- 第14層 10YR4/4褐色火山灰土と10YR2/3黒褐色砂質シルトの混合土
- 第15層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ3mmの浮石含む。
- 第16層 10YR3/2黒褐色砂質シルト φ5mmの浮石含む。
- 第17層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
- 第18層 10YR3/2黒褐色砂質シルト
- 第19層 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト 10YR4/6 褐色火山灰土が葉理状に認められる。
- 第20層 10YR4/6褐色火山灰土と黒色砂質シルトの互層
- 第21層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
- 第22層 10YR6/6明黄褐色粘土質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土
- 第23層 10YR4/6褐色シルト
- 第24層 10YR5/6黄褐色火山灰土 掘りすぎ。
- 第25層 10YR4/4褐色浮石と黒色砂質シルトの混合土。
- 第26層 10YR3/2黒褐色シルト φ3mmの黄褐色石微量。
- 第27層 10YR2/2黒褐色砂質シルト



SK-205

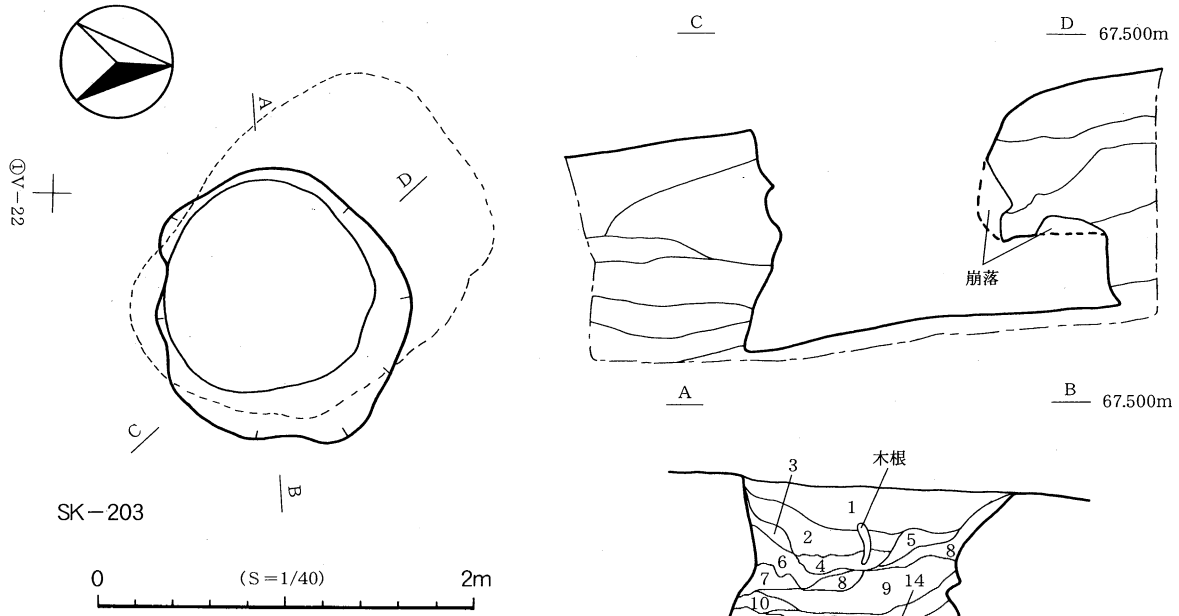
番号	層位	外面文様等	内面調整等	胎土	時期	備考
1	4層	RLR横位回転	縦方向のミガキ	繊維石英	前期末～中期初	



SK-202

番号	層位	外面文様等	内面調整等	胎土	時期	備考
1	2層	多軸(R+L 二本一組)縦位	縦方向のミガキ	繊維鉄石英黒	前期末～中期初	

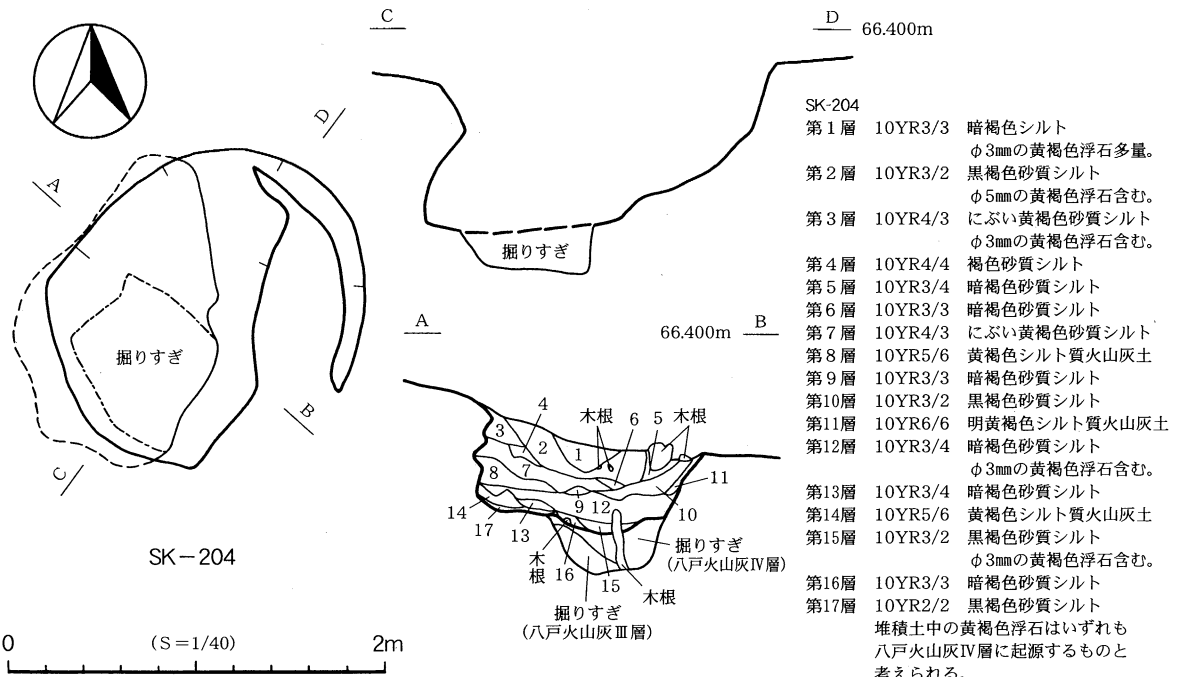
図13 第205号土坑・第202号土坑出土遺物



SK-203

- | | | | |
|------|---------|---------------|----------------|
| 第1層 | 10YR2/3 | 黒褐色砂質シルト | φ3mmの黄褐色浮石微量。 |
| 第2層 | 10YR3/3 | 暗褐色砂質シルト | φ5mmの黄褐色浮石含む。 |
| 第3層 | 10YR3/4 | 暗褐色砂質シルト | φ3mmの黄褐色浮石含む。 |
| 第4層 | 10YR3/2 | 黒褐色砂質シルト | φ3mmの黄褐色浮石含む。 |
| 第5層 | 10YR3/3 | 暗褐色砂質シルト | |
| 第6層 | 10YR3/2 | 黒褐色砂質シルト | |
| 第7層 | 10YR3/4 | 暗褐色シルト質火山灰土 | 壁の火山灰土の崩落土。 |
| 第8層 | 10YR3/3 | 暗褐色砂質シルト | |
| 第9層 | 10YR2/3 | 黒褐色砂質シルト | |
| 第10層 | 10YR4/6 | 褐色シルト質火山灰土 | 壁の火山灰土の崩落土。 |
| 第11層 | 10YR2/3 | 黒褐色砂質シルト | φ3mmの黄褐色浮石含む。 |
| 第12層 | 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 壁の火山灰土の崩落土を含む。 |
| 第13層 | 10YR3/3 | 暗褐色シルト質火山灰土 | |
| | 10YR5/6 | 黄褐色砂質シルト質火山灰土 | どちらも壁の火山灰土の崩落。 |
| 第14層 | 10YR3/2 | 黒褐色砂質シルト | |

-
- | | | |
|------|---------|------------------------------|
| 第15層 | 10YR2/2 | 黒褐色砂質シルト |
| 第16層 | 10YR3/2 | 黒褐色砂質シルト |
| | 10YR5/6 | 黄褐色火山灰土ブロック50%。 |
| 第17層 | 10YR2/3 | 黒褐色砂質シルト |
| 第18層 | 10YR4/4 | 褐色シルト質火山灰土。壁の火山灰土の崩落土。 |
| 第19層 | 10YR2/3 | 黒褐色砂質シルト |
| 第20層 | 10YR3/3 | 暗褐色砂質シルト |
| 第21層 | 10YR3/4 | 暗褐色砂質シルト |
| 第22層 | 10YR4/2 | 灰黄褐色シルト |
| 第23層 | 10YR3/3 | 暗褐色砂質シルト |
| 第24層 | 10YR3/3 | 暗褐色砂質シルト質火山灰土
壁の火山灰土の崩落土。 |
| 第25層 | 10YR2/3 | 黒褐色砂質シルト |

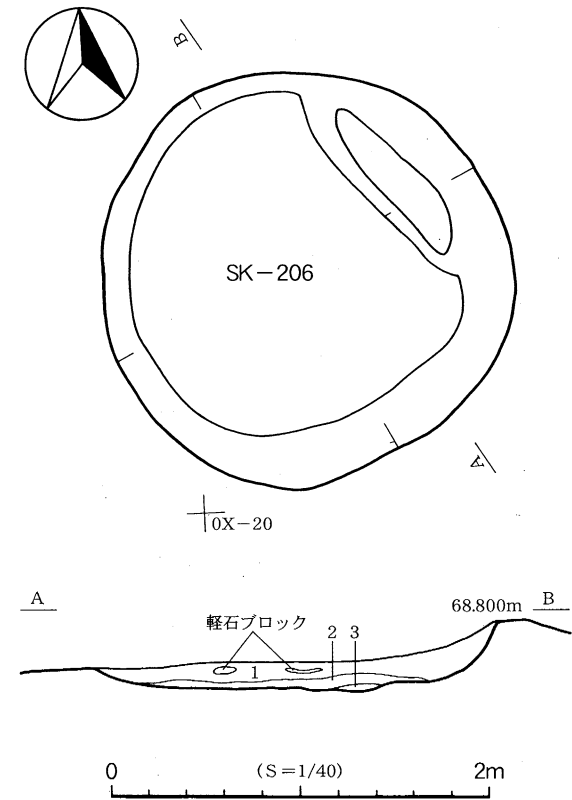


SK-204

SK-204

- | | | | |
|------|---------|--------------|---------------------------------------|
| 第1層 | 10YR3/3 | 暗褐色シルト | φ3mmの黄褐色浮石多量。 |
| 第2層 | 10YR3/2 | 黒褐色砂質シルト | φ5mmの黄褐色浮石含む。 |
| 第3層 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色砂質シルト | φ3mmの黄褐色浮石含む。 |
| 第4層 | 10YR4/4 | 褐色砂質シルト | |
| 第5層 | 10YR3/4 | 暗褐色砂質シルト | |
| 第6層 | 10YR3/3 | 暗褐色砂質シルト | |
| 第7層 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色砂質シルト | |
| 第8層 | 10YR5/6 | 黄褐色シルト質火山灰土 | |
| 第9層 | 10YR3/3 | 暗褐色砂質シルト | |
| 第10層 | 10YR3/2 | 黒褐色砂質シルト | |
| 第11層 | 10YR6/6 | 明黄褐色シルト質火山灰土 | |
| 第12層 | 10YR3/4 | 暗褐色砂質シルト | φ3mmの黄褐色浮石含む。 |
| 第13層 | 10YR3/4 | 暗褐色砂質シルト | |
| 第14層 | 10YR5/6 | 黄褐色シルト質火山灰土 | |
| 第15層 | 10YR3/2 | 黒褐色砂質シルト | φ3mmの黄褐色浮石含む。 |
| 第16層 | 10YR3/3 | 暗褐色砂質シルト | |
| 第17層 | 10YR2/2 | 黒褐色砂質シルト | 堆積土中の黄褐色浮石はいずれも八戸火山灰IV層に起源するものと考えられる。 |

図14 第203・204号土坑

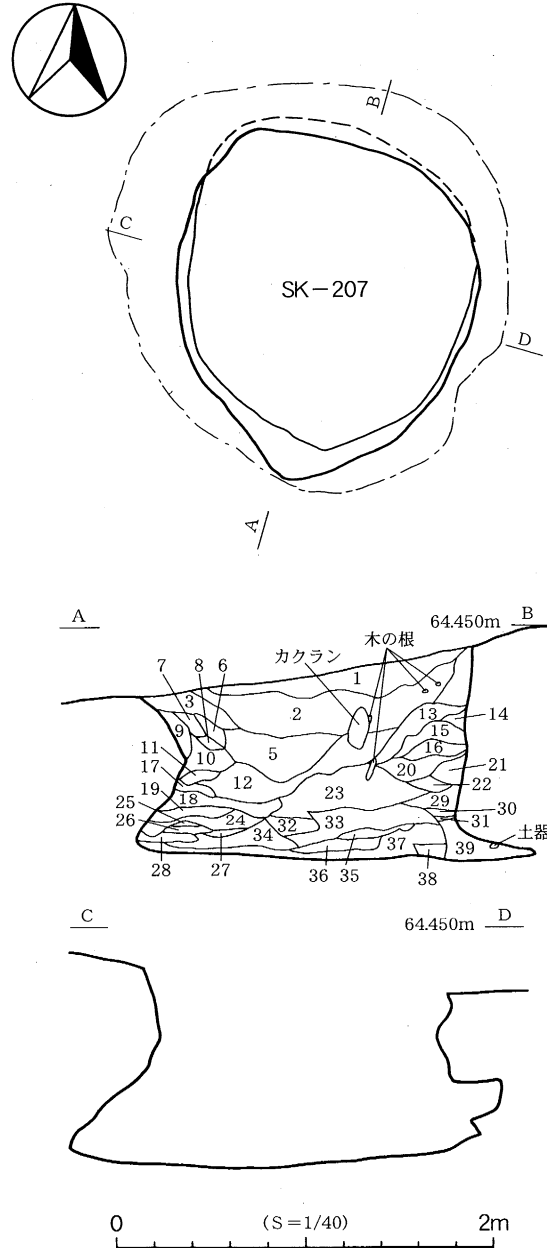


SK-206

- 第1層 10YR2/2黒褐色シルト 10YR7/6明黄褐色の軽石ブロック多量含む。
- 第2層 10YR4/6褐色シルト φ4~8mmの浮石少量含む。
- 第3層 10YR3/3暗褐色シルト

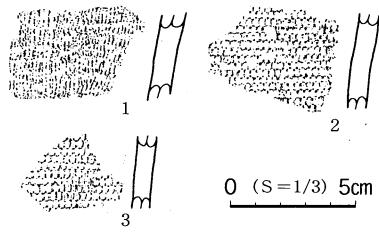
SK-207

- 第1層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第2層 10YR2/1黒色砂質シルト φ2~8mmの黄褐色浮石微量。
- 第3層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
- 第4層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第5層 10YR1.7/1黒色砂質シルト φ1~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第6層 10YR2/3黒褐色シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
- 第7層 10YR4/4褐色砂質シルト φ1~5mmの黄褐色浮石少量。
- 第8層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
- 第9層 10YR5/8黄褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。堅くしまっている。
- 第10層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第11層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。堅くしまっている。φ2~5mmの浮石微量。
- 第12層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第13層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第14層 10YR3/4暗褐色シルト質火山灰土 ブロック状に崩落したと思われる、堅くしまっている。壁の火山灰土の崩落土。φ2~5mmの浮石微量。
- 第15層 10YR3/2黒褐色砂質シルト φ1~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第16層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第17層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第18層 10YR3/2黒褐色砂質シルト φ3~5mmの浮石微量。壁際に、崩落土と思われる10YR4/6褐色土が幅10cm混じる。
- 第19層 10YR4/6褐色火山灰土 壁の崩落土。φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
- 第20層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
- 第21層 10YR4/6褐色火山灰土 壁の崩落土。φ3~10mmの黄褐色浮石微量。
- 第22層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第23層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第24層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ1~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第25層 10YR4/6褐色土 壁の崩落土。
- 第26層 10YR3/4暗褐色シルト φ3~10mmの黄褐色浮石含む。
- 第27層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。堅くしまっている。



- 第28層 10YR5/8黄褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。堅くしまっている。φ1~3mmの浮石微量。
- 第29層 10YR6/8明黄褐色シルト質火山灰土
- 第30層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
- 第31層 10YR3/4暗褐色土 壁の崩落土。堅くしまっている。
- 第32層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ1~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第33層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第34層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第35層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ2~10mmの黄褐色浮石微量。
- 第36層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第37層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2~10mmの黄褐色浮石微量。
- 第38層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第39層 10YR2/1黒色砂質シルト φ2~10mmの黄褐色浮石微量。

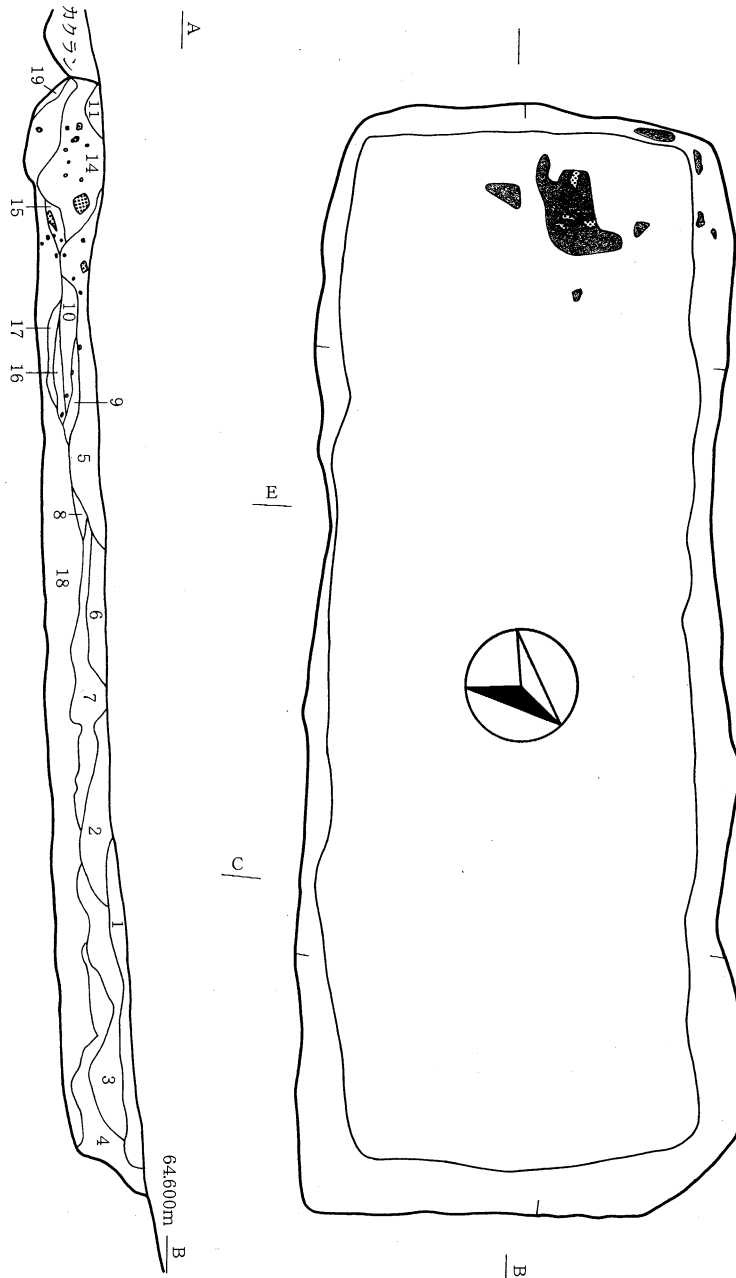
図15 第206・207号土坑



SK-205

番号	層位	外面文様等	内面調整等
1	2層	単軸1類 (R) 縦位回転	やや風化 縦方向のミガキ
2	2層	単軸1類 (R+R 二本一組) 縦位	やや風化 縦方向のミガキ
3	39層	単軸1類 (R+R 二本一組) 縦位	風化

胎土	時期	備考
織石英	前期末～中期初頭	
鉄石英 黒	前期末～中期初頭	
鉄浮石英黒	前期末～中期初頭	



SK-208

- 第1層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2～5mmの黄褐色浮石微量。
- 第2層 10YR2/1黒色砂質シルト φ1～3mmの黄褐色浮石微量。
- 第3層 10YR1.7/1黒色砂質シルト φ2～10mmの黄褐色浮石微量。
- 第4層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ2～5mmの黄褐色浮石微量。
- 第5層 10YR1.7/1黒色砂質シルト φ1～3mmの黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
- 第6層 10YR1.7/1黒色砂質シルト φ1～3mmの黄褐色浮石微量。
- 第7層 10YR2/2黒褐色シルト φ3～10mmの黄褐色浮石微量。
- 第8層 10YR1.7/1黒色砂質シルト φ1mmの黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
- 第9層 10YR1.7/1黒色砂質シルト φ2～5mmの黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
- 第10層 10YR2/1黒色砂質シルト φ2～5mmの黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
- 第11層 10YR2/3黒褐色シルト φ1～3mmの黄褐色浮石微量。
- 第12層 10YR3/1黒褐色砂質シルト φ1mmの黄褐色浮石微量。
- 第13層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1～3mmの黄褐色浮石微量。
- 第14層 10YR2/1黒色砂質シルト φ1mmの黄褐色浮石微量。炭化材多量出土。
- 第15層 10YR3/3暗褐色砂質シルト φ1mmの黄褐色浮石微量。炭化材多量出土。
- 第16層 10YR1.7/1黒色砂質シルト φ1mmの黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
- 第17層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1mmの黄褐色浮石微量。炭化材少量出土。
- 第18層 10YR2/1黒色砂質シルト φ1mmの黄褐色浮石微量。炭化材出土層。
- 第19層 10YR3/4暗褐色砂質シルト 炭化材出土層。

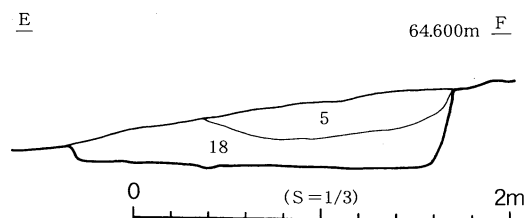
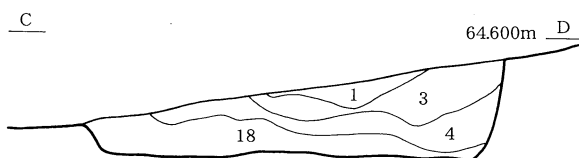
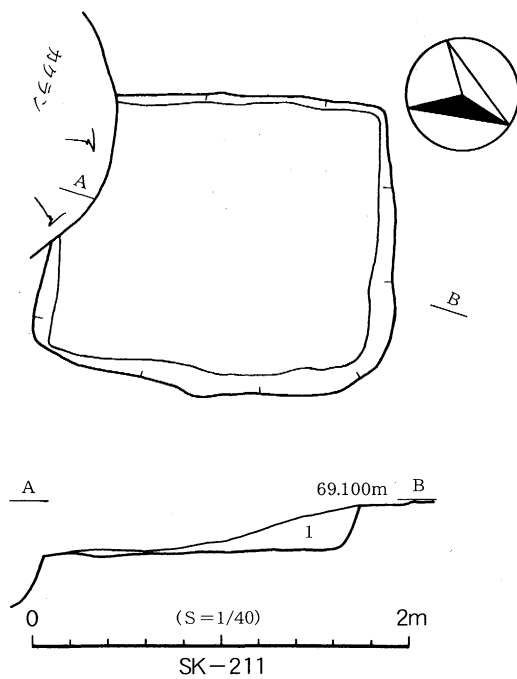
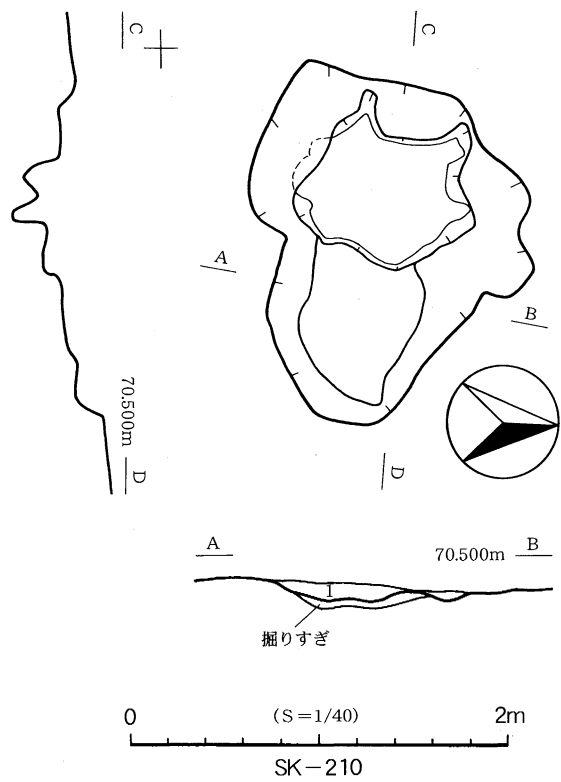
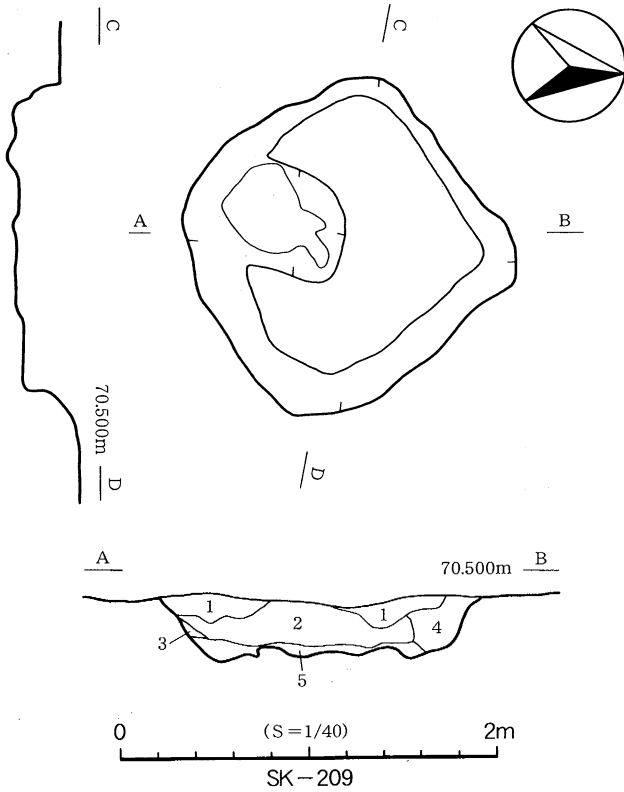


図16 第207号土坑出土遺物・第208号土坑



SK-209

- 第1層 10YR4/4 褐色シルト φ4~6mmの火山灰土粒含む。
- 第2層 10YR1.7/1 黒色シルト φ2~5mmの火山灰土粒少量。
- 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト φ1~2mmの火山灰土粒少量。
- 第4層 10YR3/4 暗褐色シルト φ1~20mmの火山灰土粒多量。
- 第5層 10YR5/6 黄褐色シルト φ7~10cmの火山灰土粒多量。

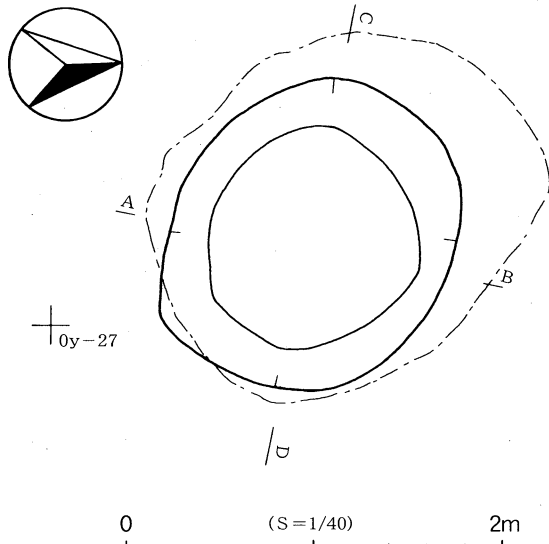
SK-210

- 第1層 10YR3/4 暗褐色シルト φ1~20mmの火山灰土粒含む。
下層部に火山灰土粒が密集する。
10YR4/6褐色シルト15%含む。

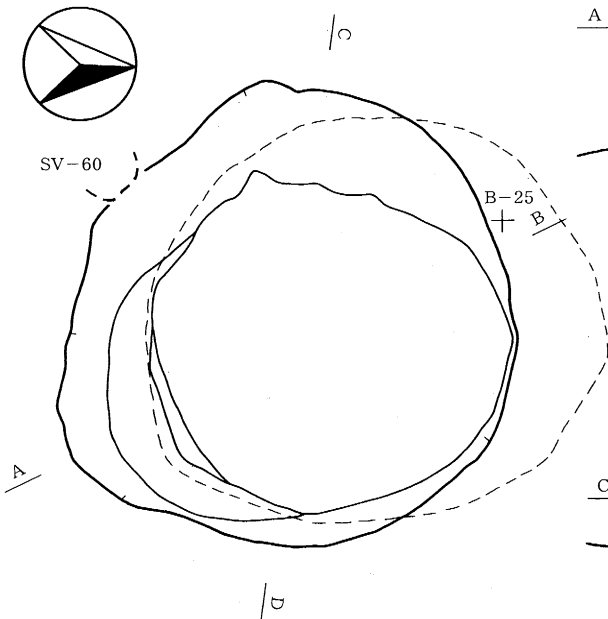
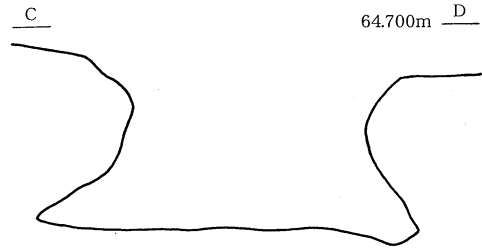
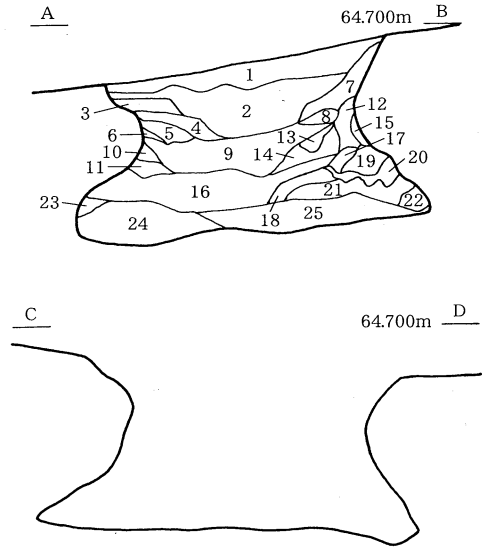
SK-211

- 第1層 10YR2/2 黒褐色砂質シルト
φ1~20mmの火山灰土粒25%含む。

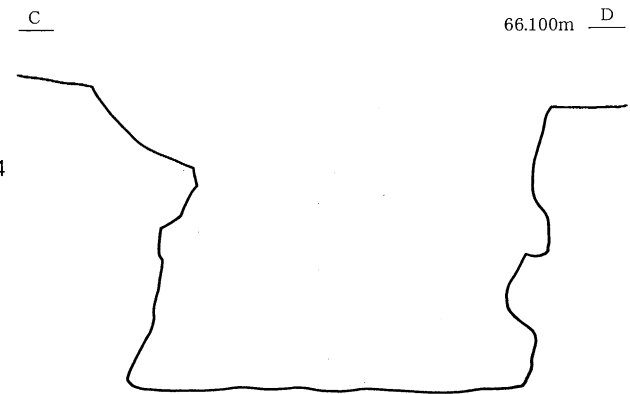
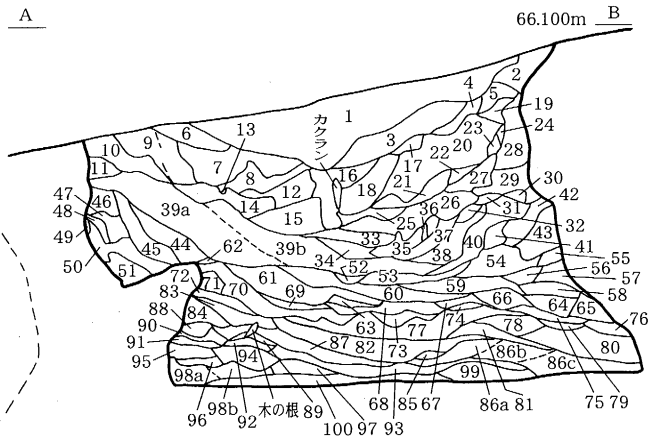
図17 第209・210・211号土坑



SK-213

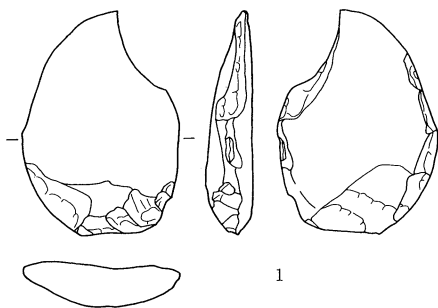


SK-214



0 (S=1/40: 遺構) 2m

0 (S=1/3: 遺物) 2m



番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
1	SK-214	16			8.8	6.3	1.9	105.8	ホルンフェルス	

図18 第213・214号土坑

SK-213

第1層	10YR2/2黒褐色砂質珪	φ1~3mmの浮石微量。
第2層	10YR2/2黒褐色砂質珪	斑状構造。
第3層	10YR2/3黒褐色砂質珪	φ1~3mmの浮石微量。
第4層	10YR2/2黒褐色砂質珪	φ1~5mmの浮石微量。
第5層	10YR2/3黒褐色砂質珪	φ1mmの浮石微量。
第6層	10YR2/3黒褐色珪	φ1mmの浮石微量。
第7層	10YR3/4暗褐色珪	φ2~5mmの浮石微量。
第8層	10YR2/3黒褐色砂質珪	φ1mmの浮石微量。
第9層	10YR2/3黒褐色砂質珪	φ1~5mmの浮石微量。
第10層	10YR3/3暗褐色珪	φ1mmの浮石微量。壁の火山灰土の崩落土。
第11層	10YR3/4暗褐色珪	φ2~5mmの浮石微量。壁の火山灰土の崩落土。
第12層	10YR3/4暗褐色珪	φ2~5mmの浮石微量。崩落土。
第13層	10YR3/3暗褐色砂質珪	φ1~3mmの浮石微量。
第14層	10YR3/2黒褐色砂質珪	φ1~3mmの浮石微量。左側に斑状構造

SK-214

第1層	10YR2/3黒褐色砂質珪	焼土粒微量。φ3mmの黄褐色浮石含む。
	10YR2/2黒褐色砂質珪との斑状構造。	
第2層	10YR3/4暗褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石含む。
第3層	10YR2/3黒褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石含む。斑状構造。
第4層	10YR3/3暗褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石微量。
第5層	10YR2/3黒褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石含む。
第6層	10YR2/1黒色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石微量。
第7層	10YR2/3黒褐色砂質珪	φ5mmの黄褐色浮石多量。炭化物微量。
第8層	10YR2/2黒褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石含む。
第9層	10YR3/2黒褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石含む。
第10層	10YR5/6黄褐色珪質火山灰土	右半は黒色土と混じり合う。
第11層	10YR2/3黒褐色砂質珪	φ2mmの黄褐色浮石微量。
第12層	10YR2/3黒褐色砂質珪	焼土粒微量。
第13層	10YR3/3暗褐色砂質珪	
第14層	10YR2/2黒褐色砂質珪	φ5mmの黄褐色浮石含む。
第15層	10YR3/3暗褐色砂質珪	
第16層	10YR3/2黒褐色砂質珪	φ5mmの黄褐色浮石含む。
第17層	10YR3/3暗褐色砂質珪	φ5mmの黄褐色浮石含む。
第18層	10YR2/3黒褐色砂質珪	φ5mmの黄褐色浮石多量。
第19層	10YR3/3暗褐色砂質珪	
第20層	10YR2/2黒褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石微量。
第21層	10YR2/3黒褐色砂質珪	斑状構造。
第22層	10YR2/2黒褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石微量。
第23層	10YR3/4暗褐色珪	
第24層	10YR3/3暗褐色珪	
第25層	10YR2/3黒褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石微量。焼土粒微量。
第26層	10YR3/3暗褐色砂質珪	φ5mmの黄褐色浮石微量。
第27層	10YR2/2黒褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石含む。
第28層	10YR3/3暗褐色珪	φ3mmの黄褐色浮石含む。
第29層	10YR4/6褐色珪	φ5mmの火山灰土粒多量。
第30層	10YR3/3暗褐色珪	
第31層	10YR2/2黒褐色砂質珪	
第32層	10YR2/2黒褐色砂質珪	
第33層	10YR3/3暗褐色砂質珪	φ2mmの黄褐色浮石多量。
第34層	10YR3/4暗褐色砂質珪	φ5mmの黄褐色浮石多量。
第35層	10YR2/2黒褐色砂質珪	
第36層	10YR3/2黒褐色砂質珪	φ7mmの黄褐色浮石含む。
第37層	10YR3/3暗褐色砂質珪	φ7mmの黄褐色浮石含む。
第38層	10YR3/2黒褐色砂質珪	φ7mmの黄褐色浮石含む。
第39a層	10YR3/4暗褐色砂質珪	
第39b層	10YR3/3暗褐色砂質珪	φ5mmの黄褐色浮石多量。
第40層	10YR2/2黒褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石微量。
第41層	10YR3/2黒褐色砂質珪	
第42層	10YR5/8黄褐色火山灰土	Vb~VIa層の崩落土。
第43層	10YR6/6明黄褐色火山灰土	VIa層の崩落土。
第44層	10YR3/2黒褐色砂質珪	
第45層	10YR2/2黒褐色砂質珪	
第46層	10YR3/4暗褐色砂質珪	
第47層	10YR3/3暗褐色砂質珪	φ2mmの黄褐色浮石微量。
第48層	10YR3/3暗褐色珪	
第49層	10YR3/2黒褐色砂質珪	
第50層	10YR3/3暗褐色砂質珪	
第51層	10YR6/8明黄褐色珪質火山灰土	掘りすぎ。
第52層	10YR3/3暗褐色砂質珪	10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土含む。
第53層	10YR3/3暗褐色砂質珪	φ5mmの黄褐色浮石多量。

を持つ。

第15層	10YR3/4暗褐色珪	φ2~5mmの浮石微量。崩落土と思われる。
第16層	10YR2/2黒褐色砂質珪	φ1~5mmの浮石微量。
第17層	10YR3/3暗褐色珪	φ1~3mmの浮石微量。崩落土と思われる。
第18層	10YR3/2黒褐色砂質珪	φ1~3mmの浮石微量。
第19層	10YR4/4褐色珪	φ1~10mmの浮石少量。崩落土と思われる。
第20層	10YR2/3黒褐色珪	φ1~10mmの浮石少量。右側部分崩落土が多く確認される。
第21層	10YR3/4暗褐色珪	φ2~5mmの浮石微量。
第22層	10YR5/6黄褐色崩落土	と思われる。φ3~5mmの浮石多量。もろく崩れやすい。
第23層	10YR4/3にぶい黄褐色珪	崩落土と思われる。堅くしまりがある。φ1~3mmの浮石微量。
第24層	10YR2/3黒褐色砂質珪	φ3~5mmの浮石微量。
第25層	10YR2/3黒褐色砂質珪	φ1~3mmの浮石微量。
第54層	10YR2/2黒褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石含む。
第55層	10YR6/6明黄褐色火山灰土	VIa層の崩落土。
第56層	10YR3/3暗褐色珪	
第57層	10YR5/6黄褐色粘土質火山灰土	VIc層の崩落土。
第58層	10YR5/8黄褐色火山灰土	Vb・VIa・VIb層の混合。
第59層	10YR5/3にぶい黄褐色砂質珪	
第60層	10YR2/3黒褐色砂質珪	φ7mmの黄褐色浮石含む。
第61層	10YR2/2黒褐色砂質珪	φ5mmの黄褐色浮石少量。
第62層	10YR3/3暗褐色砂質珪	
第63層	10YR3/4暗褐色砂質珪	
第64層	10YR5/4にぶい黄褐色火山灰土	VIa層を主体にした崩落土。
第65層	10YR6/4にぶい黄褐色粘土質火山灰土	VIc層の崩落土。
第66層	10YR2/2黒褐色砂質珪	
第67層	10YR3/2黒褐色砂質珪	
第68層	10YR2/3黒褐色砂質珪	
第69層	10YR4/4褐色砂質珪	
第70層	10YR3/3暗褐色砂質珪	φ2mmの黄褐色浮石含む。
第71層	10YR3/3暗褐色砂質珪	10YR4/6褐色火山灰土含む。
第72層	10YR3/3暗褐色砂質珪	
第73層	10YR4/4褐色砂質珪	左半は火山灰土主体。
第74層	10YR3/4暗褐色砂質珪	
第75層	10YR4/4褐色砂質珪	
第76層	10YR4/6褐色珪質火山灰土	
第77層	10YR2/3黒褐色砂質珪	
第78層	10YR5/8黄褐色火山灰土	VIa層を主体にした崩落土。
第79層	10YR6/8明黄褐色火山灰土	VIa層を主体にした崩落土。
第80層	10YR7/4にぶい黄褐色粘土質火山灰土	VIc層を主体にした崩落土。
第81層	10YR2/2黒褐色砂質珪	
第82層	10YR4/3にぶい黄褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石多量。
第83層	10YR3/3暗褐色砂質珪	
第84層	10YR4/6褐色火山灰土	VIa層を主体にした崩落土。
第85層	10YR2/2黒褐色砂質珪	
第86a層	10YR3/3暗褐色砂質珪	
第86b層	10YR4/6褐色粘土質珪	
第86c層	10YR7/4にぶい黄褐色粘土質珪	
第87層	10YR3/3暗褐色砂質珪	φ3mmの黄褐色浮石多量。
第88層	10YR5/4にぶい黄褐色火山灰土	VIa層を主体にした崩落土。
第89層	10YR3/3暗褐色砂質珪	
第90層	10YR4/6褐色火山灰土	VIa層を主体にした崩落土。
第91層	10YR3/3暗褐色砂質珪	
第92層	10YR3/4暗褐色砂質珪	
第93層	10YR3/3暗褐色砂質珪	
第94層	10YR5/4にぶい黄褐色砂質珪	VIa層を主体にした崩落土。
第95層	10YR6/3にぶい黄褐色粘土質火山灰土	VIc層を主体にした崩落土。
第96層	10YR2/3黒褐色砂質珪	
第97層	10YR3/3暗褐色砂質珪	
第98a層	2.5Y5/4 褐色粘土質火山灰土	Vb層を主体にした崩落土。
第98b層	10YR5/3にぶい黄褐色粘土質火山灰土	VIa層を主体にした崩落土。
第99層	10YR5/6黄褐色砂質珪と浮石の混合土	VIa層と黒色砂質珪の混合土。
第100層	10YR2/3黒褐色砂質珪	白色粘土質火山灰土粒含む。

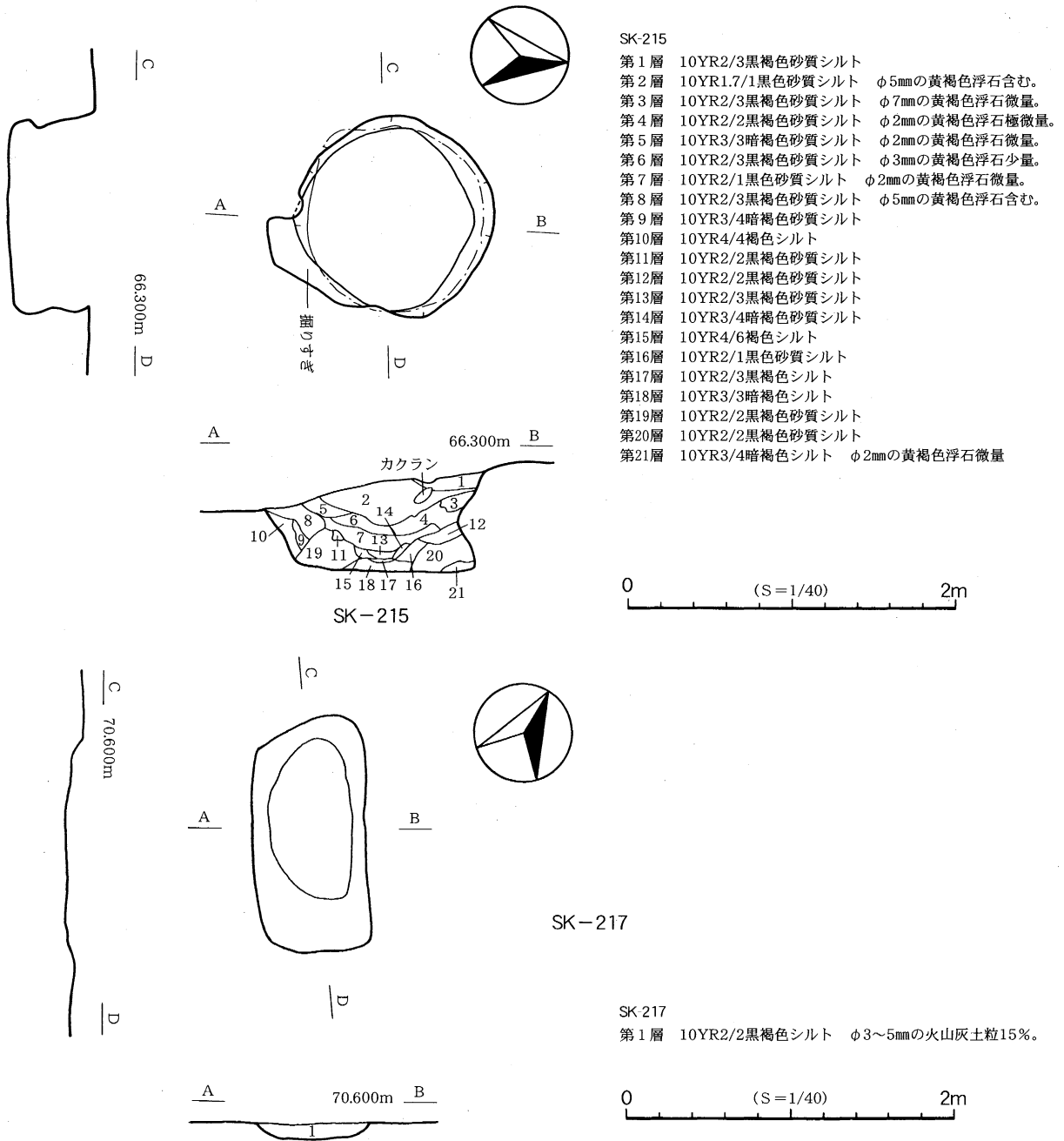
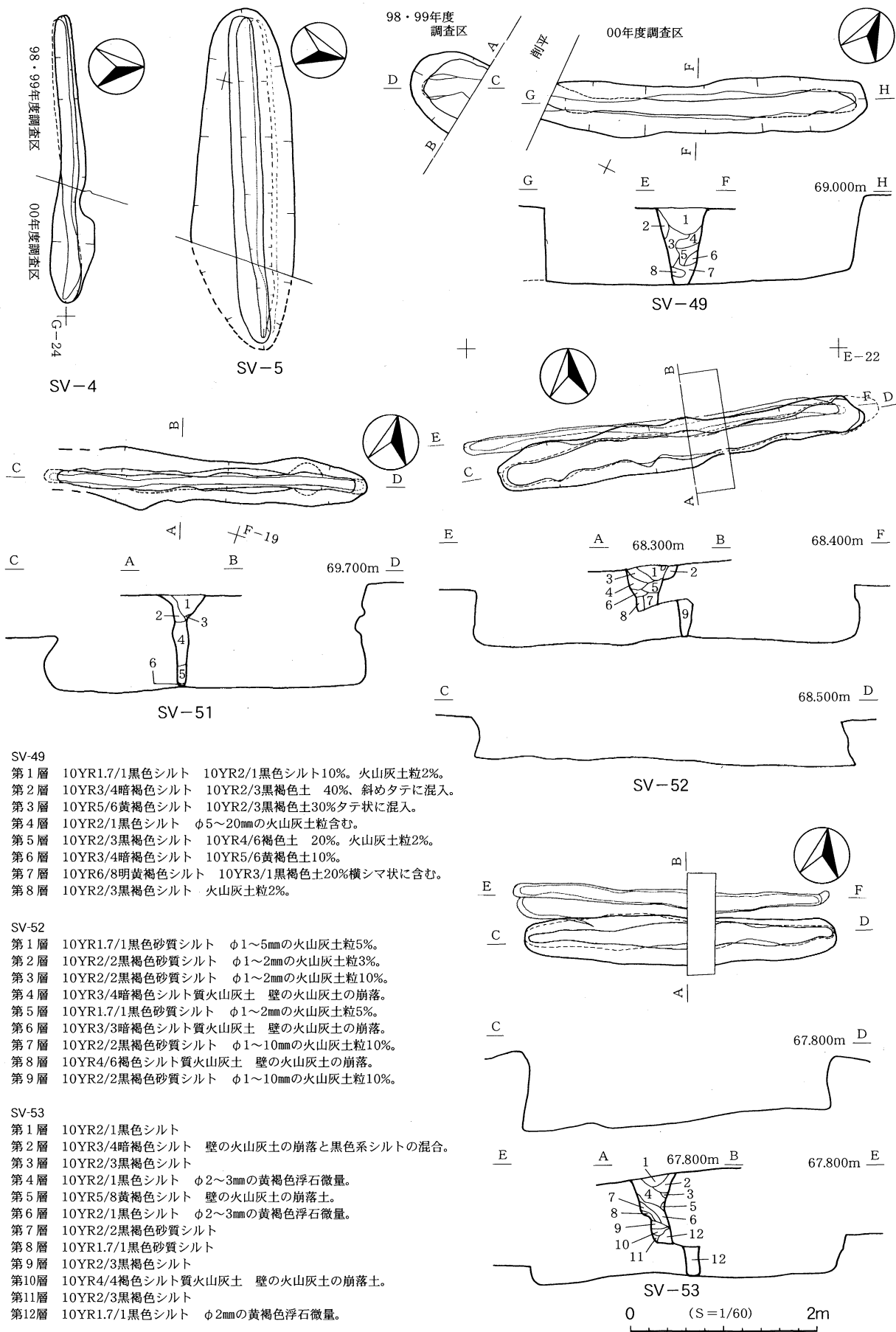


図19 第215・217号土坑

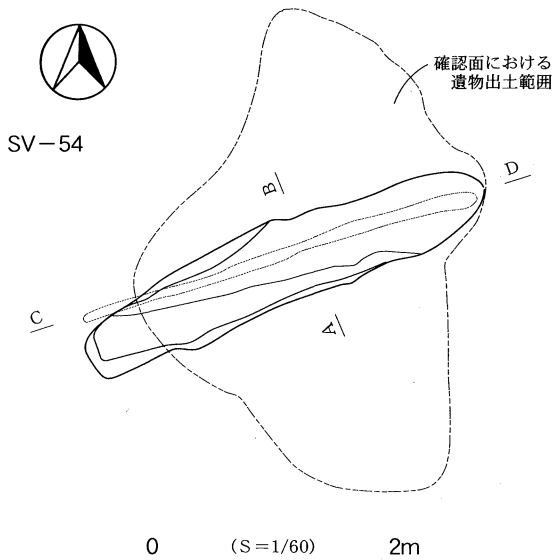


- SV-49
- 第1層 10YR1.7/1黒色シルト 10YR2/1黒色シルト10%。火山灰土粒2%。
 - 第2層 10YR3/4暗褐色シルト 10YR2/3黒褐色土 40%、斜めタテに混入。
 - 第3層 10YR5/6黄褐色シルト 10YR2/3黒褐色土30%タテ状に混入。
 - 第4層 10YR2/1黒色シルト φ5~20mmの火山灰土粒含む。
 - 第5層 10YR2/3黒褐色シルト 10YR4/6褐色土 20%。火山灰土粒2%。
 - 第6層 10YR3/4暗褐色シルト 10YR5/6黄褐色土10%。
 - 第7層 10YR6/8明黄褐色シルト 10YR3/1黒褐色土20%横シマ状に含む。
 - 第8層 10YR2/3黒褐色シルト 火山灰土粒2%。

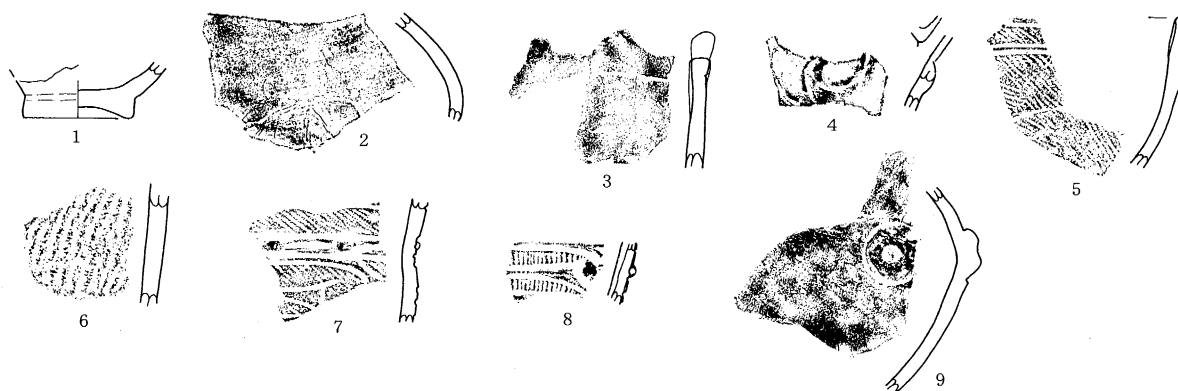
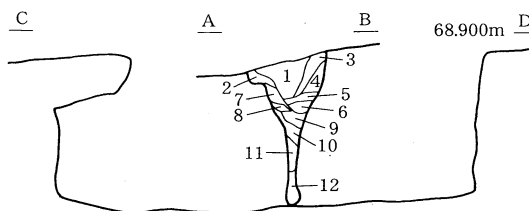
- SV-52
- 第1層 10YR1.7/1黒色砂質シルト φ1~5mmの火山灰土粒5%。
 - 第2層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1~2mmの火山灰土粒3%。
 - 第3層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1~2mmの火山灰土粒10%。
 - 第4層 10YR3/4暗褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落。
 - 第5層 10YR1.7/1黒色砂質シルト φ1~2mmの火山灰土粒5%。
 - 第6層 10YR3/3暗褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落。
 - 第7層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1~10mmの火山灰土粒10%。
 - 第8層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落。
 - 第9層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1~10mmの火山灰土粒10%。

- SV-53
- 第1層 10YR2/1黒色シルト
 - 第2層 10YR3/4暗褐色シルト 壁の火山灰土の崩落と黒色系シルトの混合。
 - 第3層 10YR2/3黒褐色シルト
 - 第4層 10YR2/1黒色シルト φ2~3mmの黄褐色浮石微量。
 - 第5層 10YR5/8黄褐色シルト 壁の火山灰土の崩落土。
 - 第6層 10YR2/1黒色シルト φ2~3mmの黄褐色浮石微量。
 - 第7層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
 - 第8層 10YR1.7/1黒色砂質シルト
 - 第9層 10YR2/3黒褐色シルト
 - 第10層 10YR4/4褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。
 - 第11層 10YR2/3黒褐色シルト
 - 第12層 10YR1.7/1黒色シルト φ2mmの黄褐色浮石微量。

図20 第4・5・49・51・52・53号溝状土坑



- SV-54
- 第1層 10YR1.7/1黒色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石微量。
 - 第2層 10YR2/1黒色砂質シルト
 - 第3層 10YR3/1黒褐色砂質シルト
 - 第4層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
 - 第5層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 - 第6層 10YR2/1黒色砂質シルト
 - 第7層 10YR3/4暗褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。
 - 第8層 10YR2/2黒褐色シルト
 - 第9層 10YR3/4暗褐色シルト
 - 第10層 10YR3/2黒褐色シルト φ5mmの火山灰土粒含む。
 - 第11層 10YR2/3黒褐色砂質シルト 火山灰土粒多量含む。
 - 第12層 10YR2/2黒褐色砂質シルト



SV-54

番号	層位	外面文様等	内面調整等	胎土	時期	備考
1	覆土	ミガキ	ミガキ	石英黒岩	後期末～晩期初	
2	確認面	横方向のミガキ	横方向のミガキ	石英岩	後期末～晩期初	
3	確認面	口縁部：二股の突起 斜方向のミガキ	縦方向のミガキ	浮石英黒	後期末～晩期初	
4	確認面	ミガキ	ナデ	浮	後期末～晩期初	
5	確認面	平行沈線 RL横位回転	斜方向のミガキ	浮	後期末～晩期初	
6	確認面	LR横位回転	縦方向のミガキ	鉄石英岩	後期末～晩期初	
7	確認面	地文：RL横位回転 口縁部：平行沈線 頸部：平行沈線と沈線間の粘土瘤貼付 胴部：入り組み文	風化	石英長黒	後期末～晩期初	
8	確認面	縦位の刻みで充填された入り組み文 入り組み文の曲折部に刻みの施された 粘土瘤貼付。	剥落	石英長	後期末～晩期初	
9	確認面	ミガキ	工具ナデ	石英岩	後期末～晩期初	

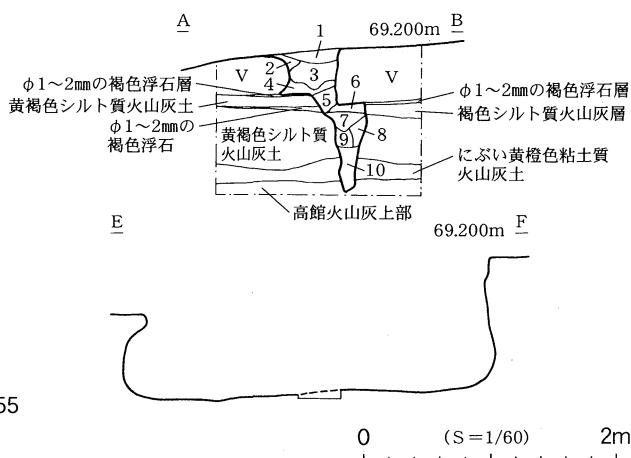
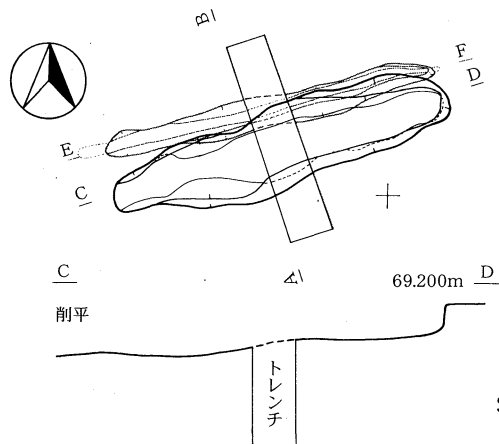
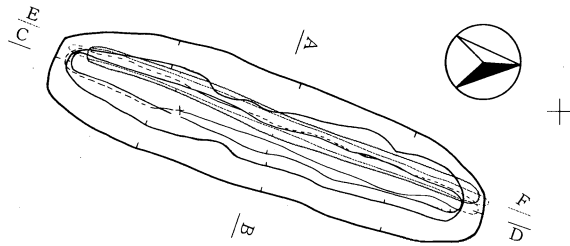


図21 第54・55号溝状土坑

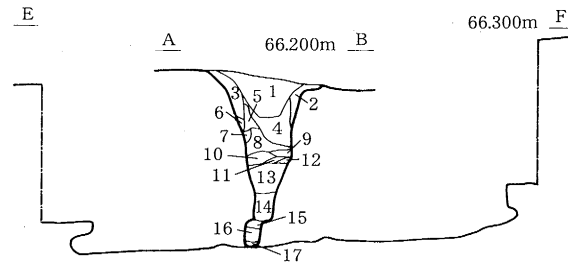
SV-55

- 第1層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
- 第2層 10YR2/3黒褐色シルト
- 第3層 10YR1.7/1黒色シルト
- 第4層 10YR2/3黒褐色シルト
- 第5層 10YR3/3暗褐色シルト φ3~5mmの黄褐色浮石少量。
- 第6層 10YR2/3黒褐色シルト φ3~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第7層 10YR3/4暗褐色シルト φ3~5mmの黄褐色浮石多量。
- 第8層 10YR3/4暗褐色シルト φ3~5mmの黄褐色浮石多量。
- 第9層 10YR2/3黒褐色シルト 黄褐色火山灰土をブロック状に含む。
- 第10層 10YR4/6褐色火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。φ1~2mmの浮石多量。

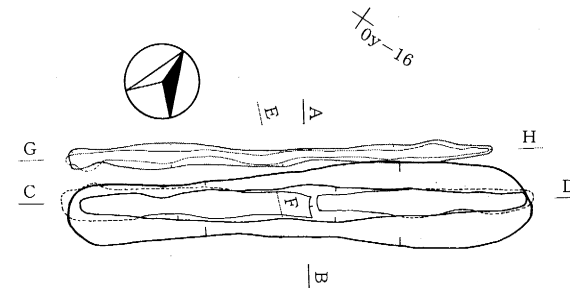
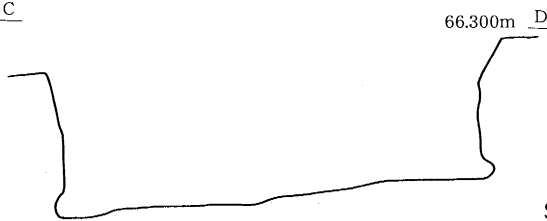


SV-56

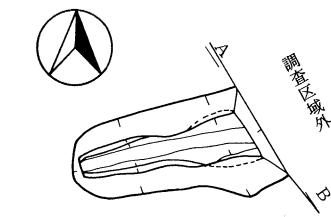
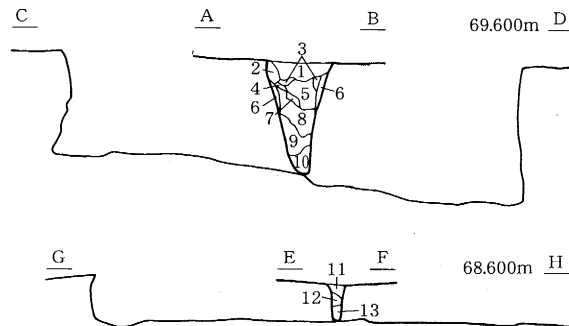
- 第1層 10YR1.7/1黒色シルト
- 第2層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第3層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第4層 10YR2/2黒褐色シルト
- 第5層 10YR2/3黒褐色シルト
- 第6層 10YR3/3暗褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落。
- 第7層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落。
- 第8層 10YR2/1黒色シルト
- 第9層 10YR2/2黒褐色シルト
- 第10層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第11層 10YR2/2黒褐色シルト
- 第12層 10YR4/4褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落。
- 第13層 10YR4/6褐色浮石 壁の火山灰土の崩落。
- 第14層 10YR1.7/1黒色シルト
- 第15層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第16層 10YR2/3黒褐色シルト
- 第17層 10YR3/3黒褐色シルト



SV-56



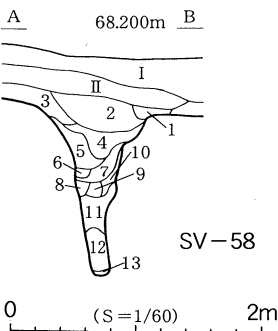
SV-57



SV-57

- 第1層 10YR3/1黒褐色砂質シルト
- 第2層 10YR4/4褐色シルト
- 第3層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
- 第4層 10YR3/2黒褐色砂質シルト
- 第5層 10YR1.7/1黒色シルト
- 第6層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土
- 第7層 10YR2/2黒褐色シルト質火山灰土

- 第8層 10YR2/1黒色シルト φ2cmの黄褐色火山灰土のブロック含む。
- 第9層 10YR2/2黒褐色シルト 黄褐色浮石含む。
- 第10層 10YR1.7/1黒色シルト 黄褐色火山灰土含む。
- 第11層 10YR3/3暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色浮石の混合土 黄褐色浮石は壁の崩落土
- 第12層 10YR2/2黒褐色シルト
- 第13層 10YR5/4にぶい黄褐色浮石 壁の壁の火山灰土の崩落土。

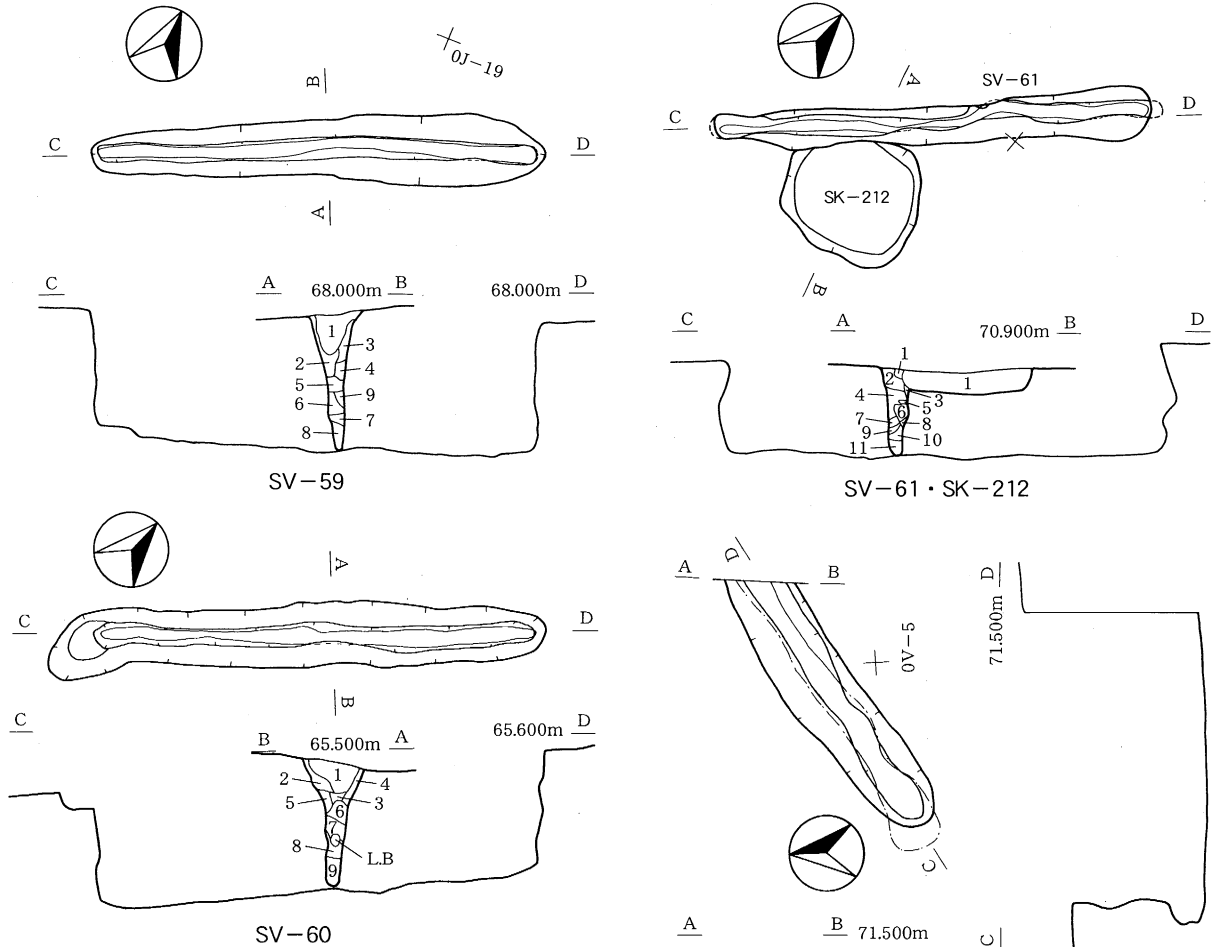


SV-58

- 第1層 10YR1.7/1黒色シルト 攪乱。
- 第2層 10YR1.7/1黒色砂質シルト
- 第3層 10YR2/1黒色砂質シルト
- 第4層 10YR2/1黒色砂質シルト
- 第5層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ2~4mmの黄褐色浮石少量。
- 第6層 10YR4/3にぶい黄褐色シルト φ2~4mmの黄褐色浮石少量。
- 第7層 10YR1.7/1黒色砂質シルト
- 第8層 10YR4/6褐色シルト 壁の崩落土。φ2mmの黄褐色浮石含む。
- 第9層 10YR4/4褐色シルト 黒色系シルトと壁の崩落土と考えられる褐色土の混合層。

- 第10層 10YR3/1黒褐色砂質シルト壁の崩落土。
- 第11層 10YR5/8黄褐色シルト
- 第12層 10YR3/4暗褐色シルト壁の火山灰土の崩落と考えられる火山灰土ブロック多量。
- 第13層 10YR3/2黒褐色粘土質シルト

図22 第56・57・58号溝状土坑



SV-59

- 第1層 10YR1.7/1黒色砂質シルト
- 第2層 10YR2/2黒褐色シルト
- 第3層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
- 第4層 10YR2/3黒褐色シルト
- 第5層 10YR2/2黒褐色シルト
- 第6層 10YR3/3暗褐色シルト φ10mmの壁の崩落土と考えられる褐色土多量。
- 第7層 10YR3/4暗褐色シルト 壁の火山灰土の崩落土と砂質シルトの混合土。
- 第8層 10YR2/1黒色シルト
- 第9層 10YR2/2黒褐色シルト

SV-60

- 第1層 10YR2/1黒色シルト φ3mmの黄褐色浮石含む。
- 第2層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
- 第3層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
- 第4層 10YR2/2黒褐色シルト
- 第5層 10YR3/4暗褐色シルト
- 第6層 10YR2/3黒褐色シルト φ2mmの黄褐色浮石微量。
- 第7層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
- 第8層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第9層 10YR1.7/1黒色砂質シルト

SV-61

- 第1層 10YR2/3黒褐色シルト
- 第2層 10YR2/2黒褐色シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
- 第3層 10YR3/3暗褐色シルト φ3~5mmの黄褐色浮石少量。
- 第4層 10YR3/4暗褐色シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
- 第5層 10YR2/1黒色シルト
- 第6層 10YR5/6黄褐色シルト 壁の崩落土。
- 第7層 10YR5/8黄褐色シルト 壁の崩落土。
- 第8層 10YR6/4にぶい黄褐色シルト 壁の崩落土。
- 第9層 10YR3/3暗褐色シルト
- 第10層 10YR5/8黄褐色浮石
- 第11層 10YR4/4褐色シルト 壁の崩落土。

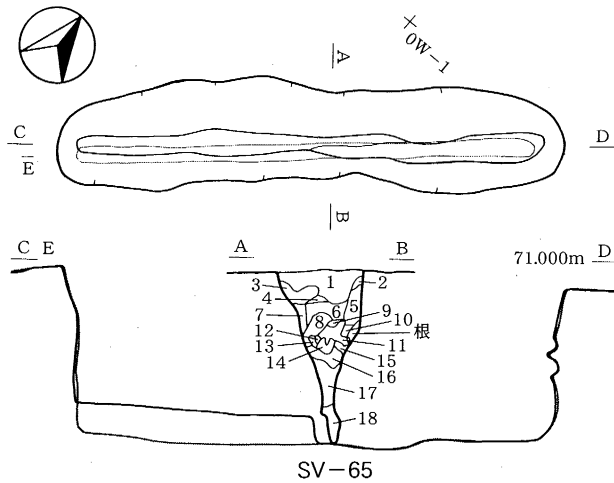
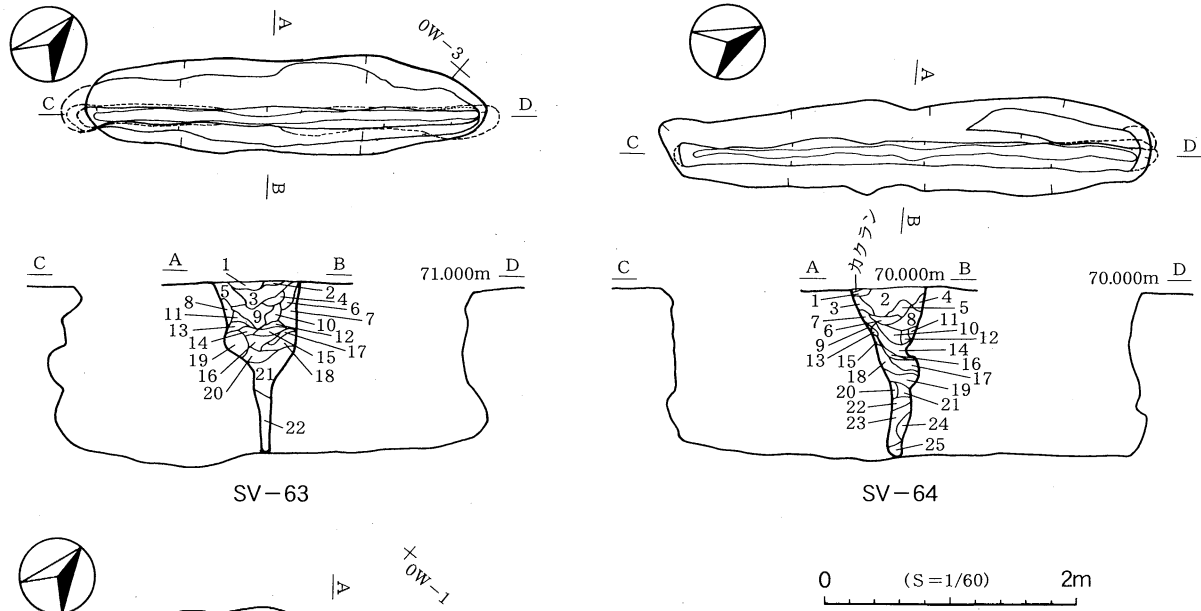
SV-62

- 第1層 10YR1.7/1黒色シルト 黄褐色浮石微量。
- 第2層 10YR2/1黒色シルト 黄褐色浮石微量。
- 第3層 10YR2/2黒褐色シルト 黄褐色浮石微量。
- 第4層 10YR2/2黒褐色シルト 黄褐色浮石少量。
- 第5層 10YR2/1黒色シルト
- 第6層 10YR2/2黒褐色シルト φ3~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第7層 10YR4/6褐色シルト 黄褐色浮石微量。
- 第8層 10YR2/1黒色シルト 黄褐色浮石微量。
- 第9層 10YR3/3暗褐色シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
- 第10層 10YR4/6褐色土 φ3~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第11層 10YR2/2黒褐色シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
- 第12層 10YR3/3暗褐色シルト 黄褐色浮石微量。
- 第13層 10YR3/3暗褐色シルト φ1~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第14層 10YR5/6黄褐色土 壁の崩落土。
- 第15層 10YR3/4暗褐色シルト 黄褐色浮石微量。
- 第16層 10YR3/4暗褐色シルト 黄褐色浮石微量。
- 第17層 10YR5/6黄褐色土壁の崩落土。黄褐色浮石微量。
- 第18層 10YR2/2黒褐色シルト 黄褐色浮石微量。
- 第19層 10YR5/8黄褐色土 壁の崩落土。黄褐色浮石微量。
- 第20層 10YR4/4褐色土 黄褐色浮石微量。
- 第21層 10YR4/4褐色シルト φ1~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第22層 10YR5/6黄褐色土 φ3~5mmの黄褐色浮石微量。
- 第23層 10YR3/4暗褐色シルト 黄褐色浮石微量。
- 第24層 10YR6/6明黄褐色土 φ1~3mmの黄褐色浮石微量。壁の崩落土。
- 第25層 10YR3/4暗褐色シルト 黄褐色浮石微量。

SK-212

- 第1層 10YR1.7/1黒色シルト 10YR3/3暗褐色土10%含む。火山灰土粒5%含む。

図23 第59・60・61・62号溝状土坑 第212号土坑



- SV-63
- 第1層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
 - 第2層 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルト
 - 第3層 10YR1.7/1黒色砂質シルト
 - 第4層 10YR3/4暗褐色砂質シルト 基本層序第IV層に類似。
 - 第5層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 - 第6層 10YR4/4褐色シルト
 - 第7層 10YR4/6褐色シルト
 - 第8層 10YR4/4褐色シルト質火山灰土
 - 第9層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ3mmの黄褐色浮石含む。
 - 第10層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 - 第11層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 - 第12層 10YR2/1黒色砂質シルト
 - 第13層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
 - 第14層 10YR3/4暗褐色シルト
 - 第15層 10YR4/4褐色シルト質火山灰土
 - 第16層 10YR2/3黒褐色砂質シルト
 - 第17層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 - 第18層 10YR5/6黄褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。
 - 第19層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。
 - 第20層 10YR4/4褐色シルト 黒色系シルトと壁の火山灰土の崩落の混合土。
 - 第21層 10YR4/4褐色シルト 黒色系シルトと壁の火山灰土の崩落の混合土。
 - 第22層 10YR3/4暗褐色砂質シルト φ3~5mmの火山灰土粒含む。

- SV-64
- 第1層 10YR4/4褐色シルト
 - 第2層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
 - 第3層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 - 第4層 10YR3/3暗褐色シルト 壁の火山灰土の崩落土と黒色系シルトの混合。
 - 第5層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1mmの黄褐色浮石微量。
 - 第6層 10YR2/1黒色砂質シルト
 - 第7層 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
 - 第8層 10YR2/2黒褐色砂質シルト 黒色砂質シルトと壁の火山灰土の崩落との混合土。
 - 第9層 10YR5/6黄褐色火山灰土 壁の火山灰土の崩落。
 - 第10層 10YR2/1黒色砂質シルト φ2mmの黄褐色浮石少量。
 - 第11層 10YR3/3暗褐色シルト
 - 第12層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
 - 第13層 10YR3/3暗褐色シルト 壁の火山灰土の崩落と黒色系シルトの混合土。
 - 第14層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1mmの黄褐色浮石含む。
 - 第15層 10YR2/2黒褐色砂質シルト
 - 第16層 10YR2/1黒色砂質シルト
 - 第17層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 壁の崩落土と思われる火山灰土含む。
 - 第18層 10YR5/6黄褐色シルト質火山灰土
 - 第19層 10YR3/4暗褐色砂質シルト 壁の崩落土と思われる火山灰土多量。
 - 第20層 10YR3/2黒褐色砂質シルト
 - 第21層 10YR4/6褐色シルト質火山灰土
 - 第22層 10YR4/4褐色シルト
 - 第23層 10YR3/2黒褐色砂質シルト
 - 第24層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 - 第25層 10YR5/2灰黄褐色火山灰土 壁の火山灰土の崩落土。

- SV-65
- 第1層 10YR2/1黒色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
 - 第2層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 - 第3層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 - 第4層 10YR3/4暗褐色砂質シルト
 - 第5層 10YR5/6黄褐色シルト 壁の火山灰土の崩落土。 φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
 - 第6層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
 - 第7層 10YR5/6黄褐色シルト 壁の火山灰土の崩落土。
 - 第8層 10YR4/6褐色シルト 壁の火山灰土の崩落土と10YR3/4暗褐色シルトの混合土。
 - 第9層 10YR3/3暗褐色砂質シルト
 - 第10層 10YR5/8黄褐色シルト 壁の火山灰土の崩落土。 φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
 - 第11層 10YR2/2黒褐色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
 - 第12層 10YR5/8黄褐色シルト 壁の火山灰土の崩落土。 φ2mmの黄褐色浮石微量。
 - 第13層 10YR2/3黒褐色砂質シルト φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
 - 第14層 10YR4/6褐色シルト φ2~5mmの黄褐色浮石微量。
 - 第15層 10YR5/6黄褐色シルト 壁の火山灰土の崩落土。 φ1~3mmの黄褐色浮石微量。
 - 第16層 10YR3/4暗褐色砂質シルト 壁の崩落土と思われる火山灰土を多量に含む。
 - 第17層 10YR6/6明黄褐色シルト 壁の火山灰土の崩落土。
 - 第18層 10YR3/3暗褐色砂質シルト 壁の火山灰土の崩落土。

図24 第63・64・65号溝状土坑

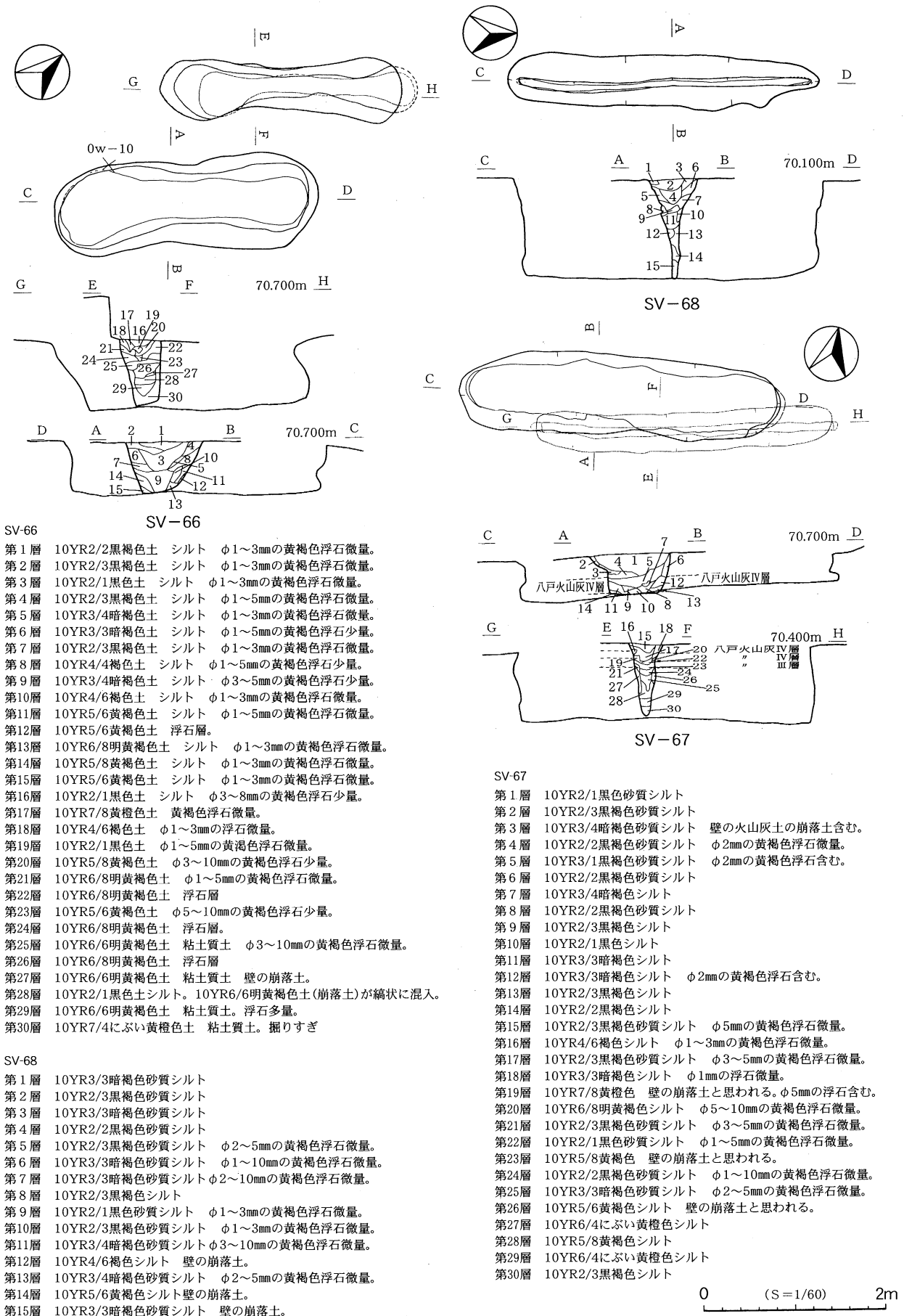


図25 第66・67・68号溝状土坑

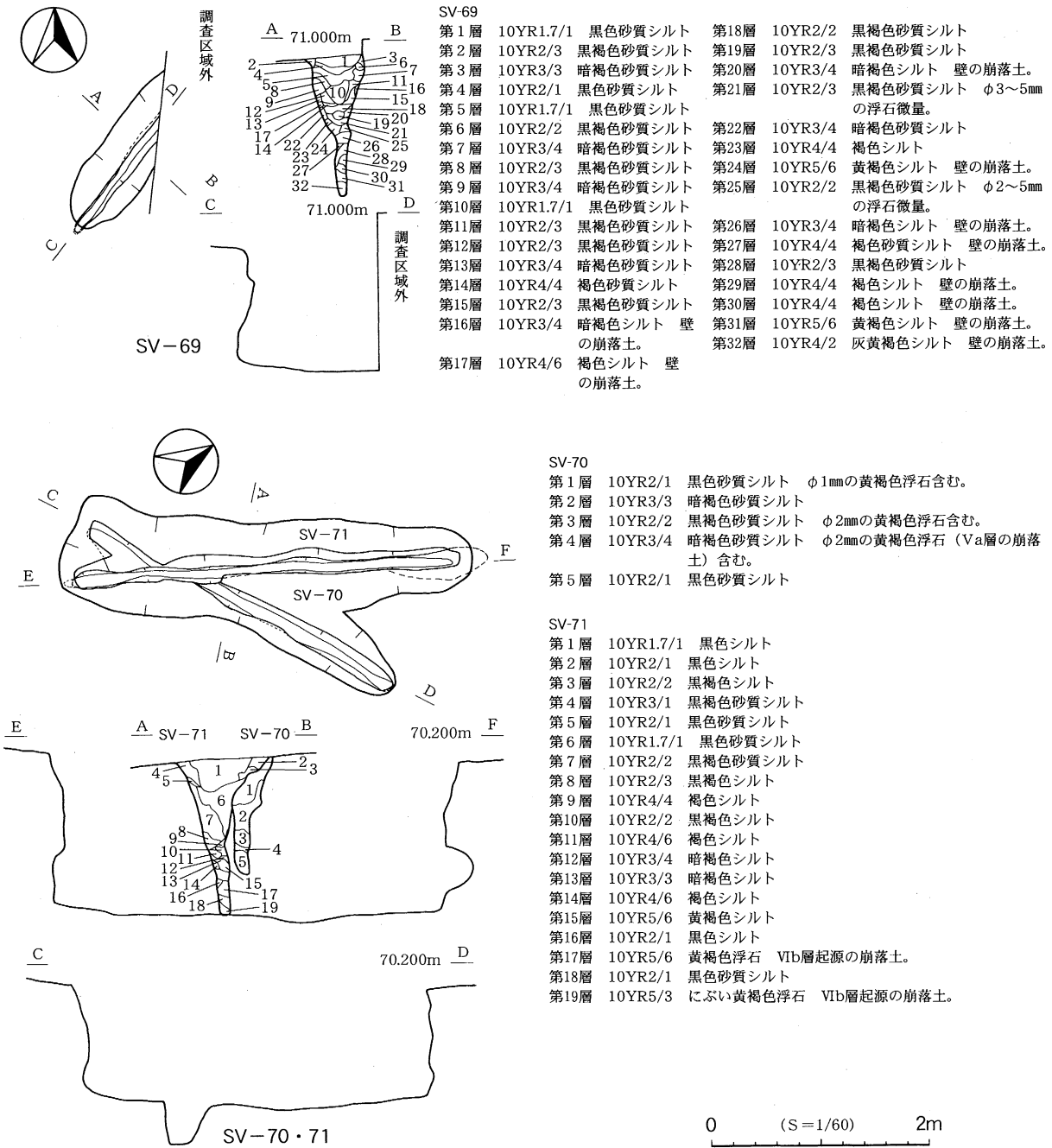


図26 第69・70・71号溝状土坑

溝状土坑の堆積土について

溝状土坑についてもフラスコ状土坑と同様の判断基準により自然堆積であると判断され、詳述しない。ここでは第70・71号溝状土坑の堆積土について若干留意されたことを述べる。

第70・71号溝状土坑は重複し、第70号溝状土坑が古く、第71号溝状土坑が新しい。堆積土は第70号溝状土坑に比べて第71号溝状土坑の方が黒味が強く、砂質の度合いも弱い。このことから第70号溝状土坑の埋没時期と第71号溝状土坑の埋没時期との間で堆積環境に差があった可能性も考えらる。この場合、どのようなレベルで二つの遺構の時間差を見積もればよいのか明らかでない。理論的には季節的な差といったミクロなレベル、数年単位での気候の較差のレベル、縄文時代後期～晩期への移行といった数十年から百年単位でのマクロな気候や植生の較差など各種のレベルが考えられる。第54号溝状土坑の埋没時期を以て、溝状土坑群が構築されなくなった時期と考えるわけにはいかない理由である。仮に、堆積土の様相に堆積環境が反映されており、それがマクロなレベルでの時間差に規定されるのであれば、堆積土の比較により遺構の時間差の推定が可能であったかもしれない。特に、遺物から埋没時期を推定できた第54号溝状土坑との比較は重要であったと考えられる。しかし、第70・71号溝状土坑は調査の最終盤で検出・精査したため、上記の視点での調査は実施できなかった。

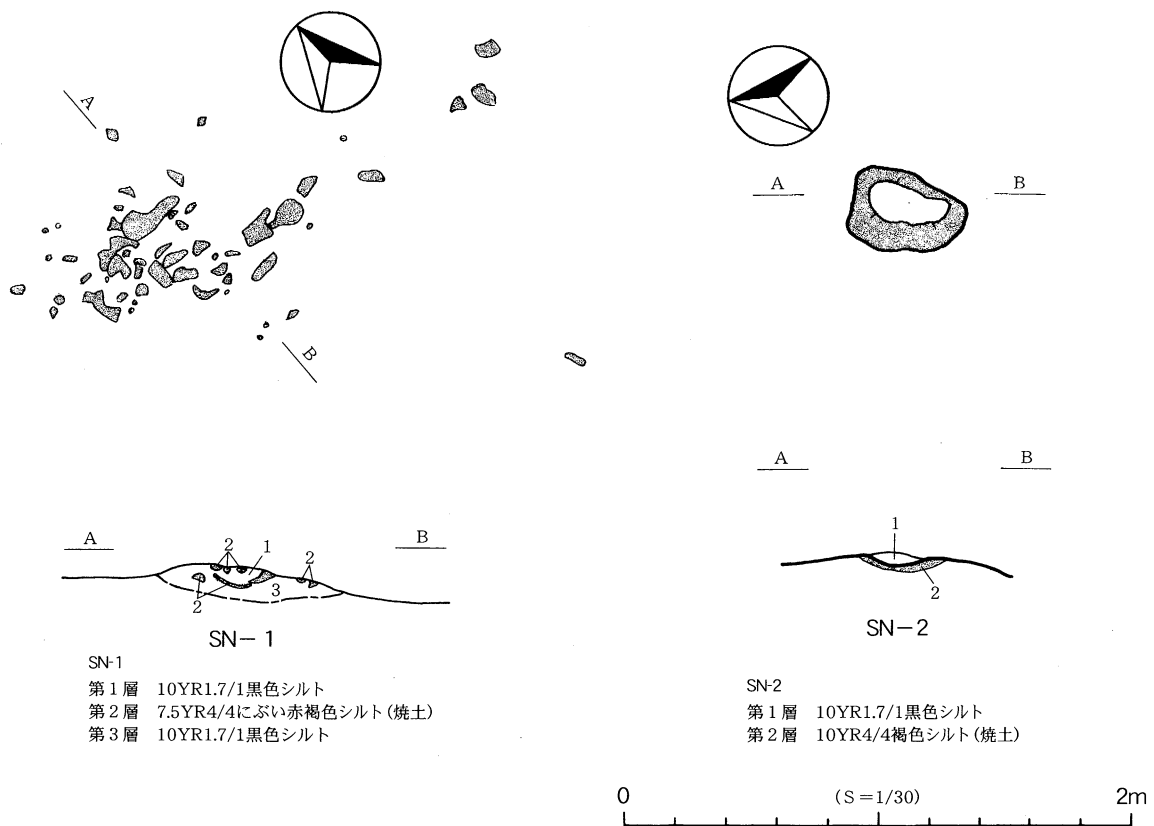


図27 第1・2号焼土遺構

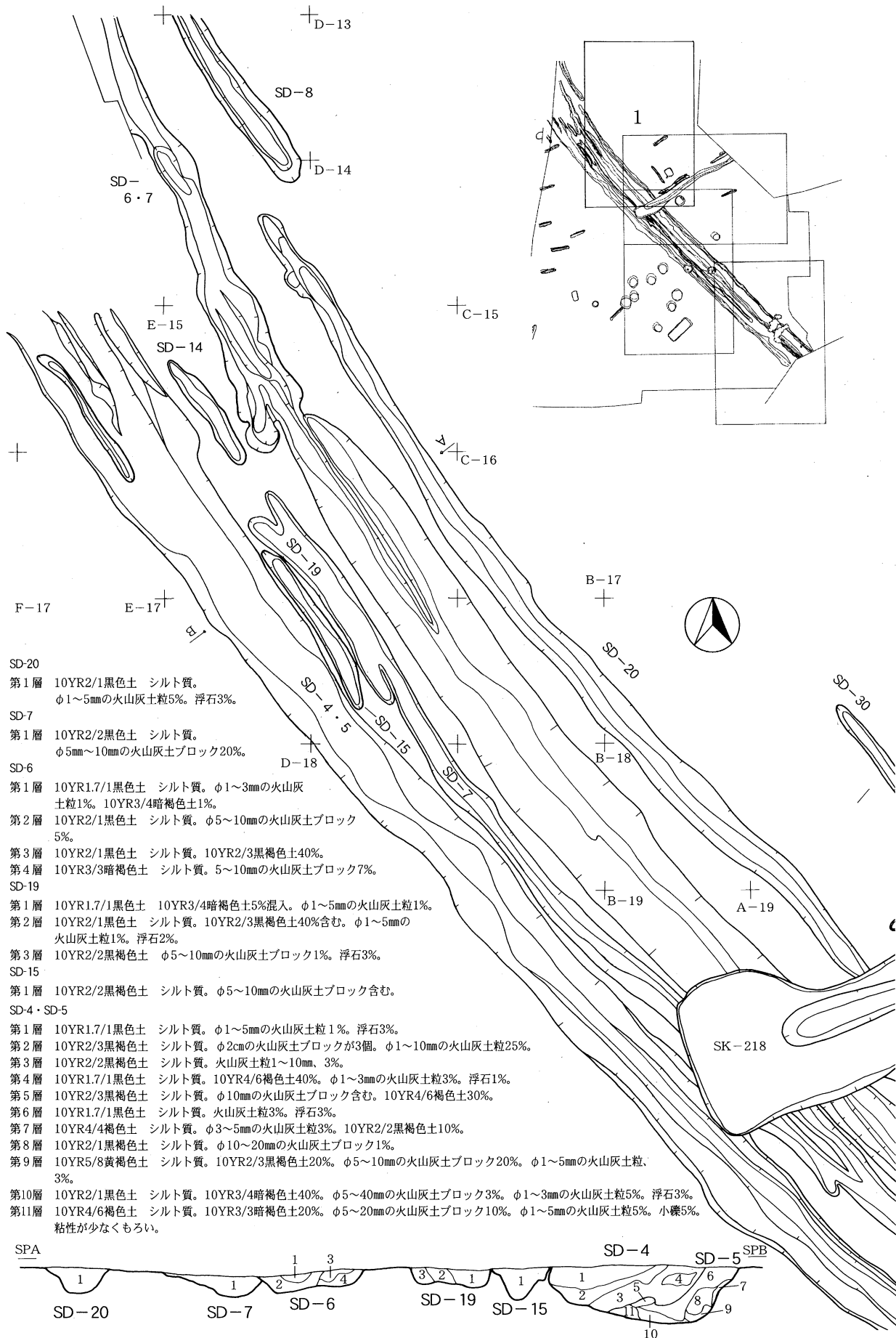


図28 溝跡群(1) (S=1/150)

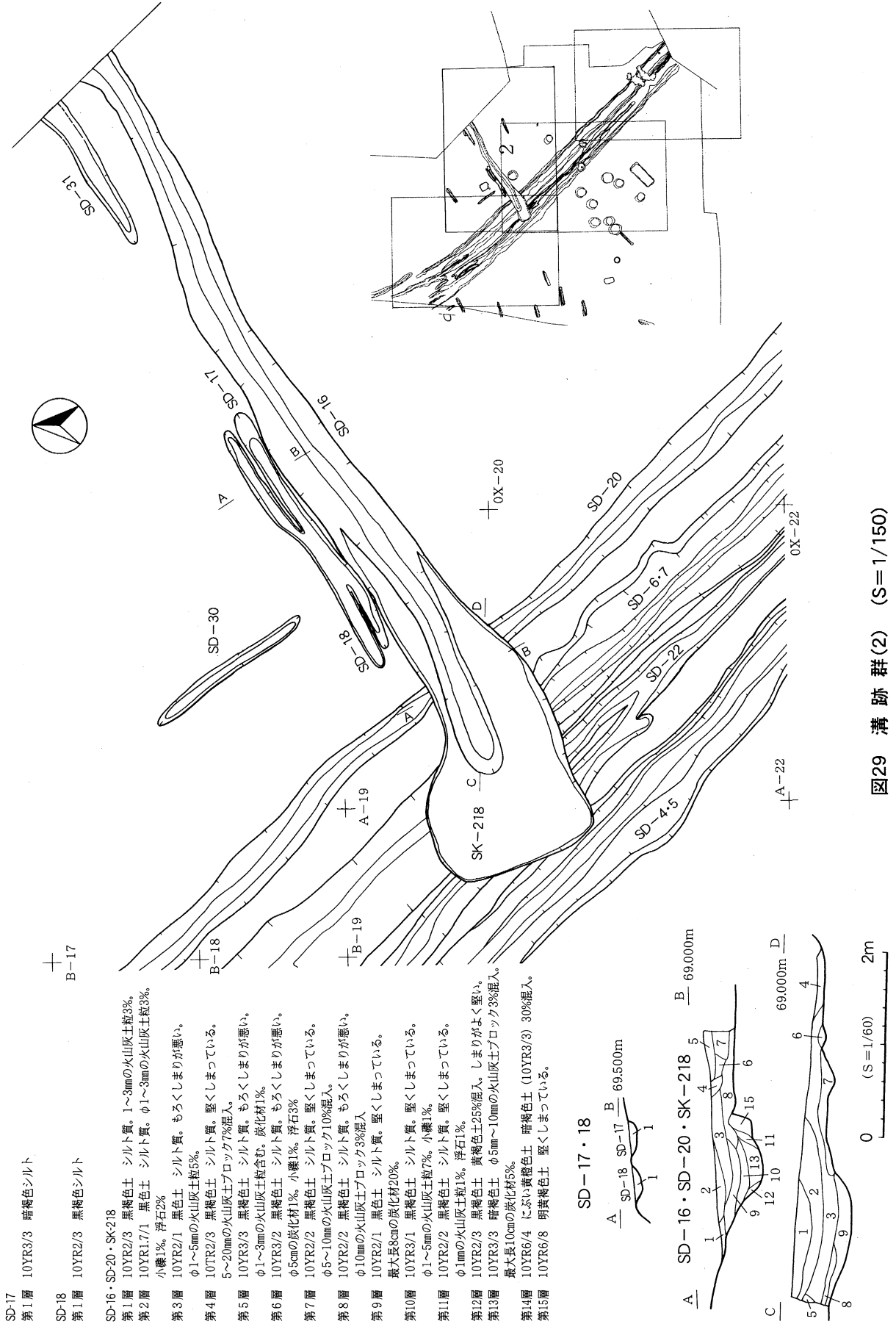
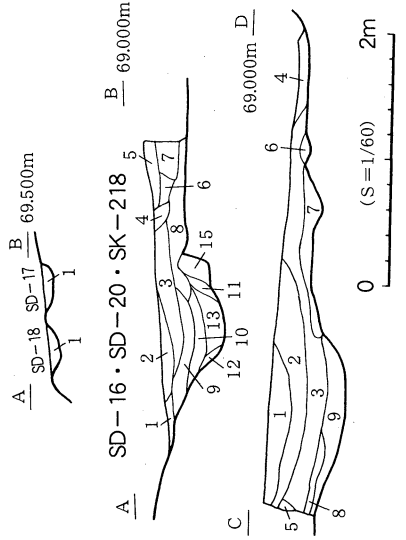


図29 溝跡群(2) (S=1/150)

- SD-17 第1層 10YR3/3 暗褐色シルト
- SD-18 第1層 10YR2/3 黒褐色シルト
- SD-16・SD-20・SK-218 第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質。1~3mmの火山灰土粒3%。
- 第2層 10YR1.7/1 黒色土 シルト質。φ1~3mmの火山灰土粒3%。小礫1%。浮石2%
- 第3層 10YR2/1 黒色土 シルト質。もろくしまりが悪い。φ1~5mmの火山灰土粒5%。
- 第4層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質。堅くしまっている。5~20mmの火山灰土ブロック7%混入。
- 第5層 10YR3/3 黒褐色土 シルト質。もろくしまりが悪い。φ1~3mmの火山灰土粒含む。炭化材1%。
- 第6層 10YR3/2 黒褐色土 シルト質。もろくしまりが悪い。φ5cmの炭化材1%。小礫1%。浮石3%
- 第7層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質。堅くしまっている。φ5~10mmの火山灰土ブロック10%混入。
- 第8層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質。もろくしまりが悪い。φ10mmの火山灰土ブロック3%混入
- 第9層 10YR2/1 黒色土 シルト質。堅くしまっている。最大径8cmの炭化材20%。
- 第10層 10YR3/1 黒褐色土 シルト質。堅くしまっている。φ1~5mmの火山灰土粒7%。小礫1%。
- 第11層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質。堅くしまっている。φ1mmの火山灰土粒1%。浮石1%。
- 第12層 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土25%混入。しまりがよく堅い。最大径10cmの炭化材5%。
- 第13層 10YR3/3 暗褐色土 φ5mm~10mmの火山灰土ブロック3%混入。
- 第14層 10YR6/4 にぶい黄褐色土 暗褐色土 (10YR3/3) 30%混入。
- 第15層 10YR6/8 明黄褐色土 堅くしまっている。

SD-17・18



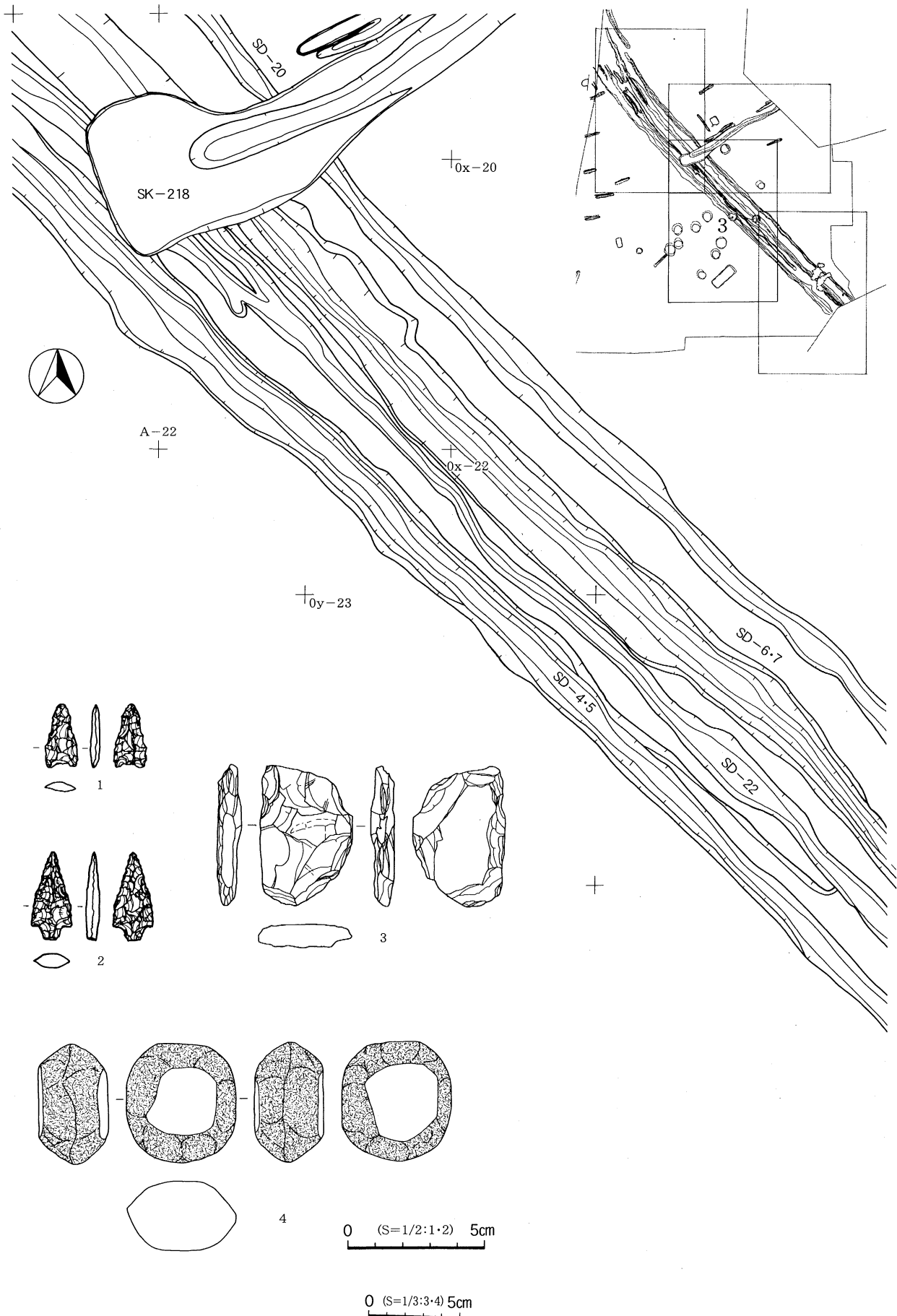
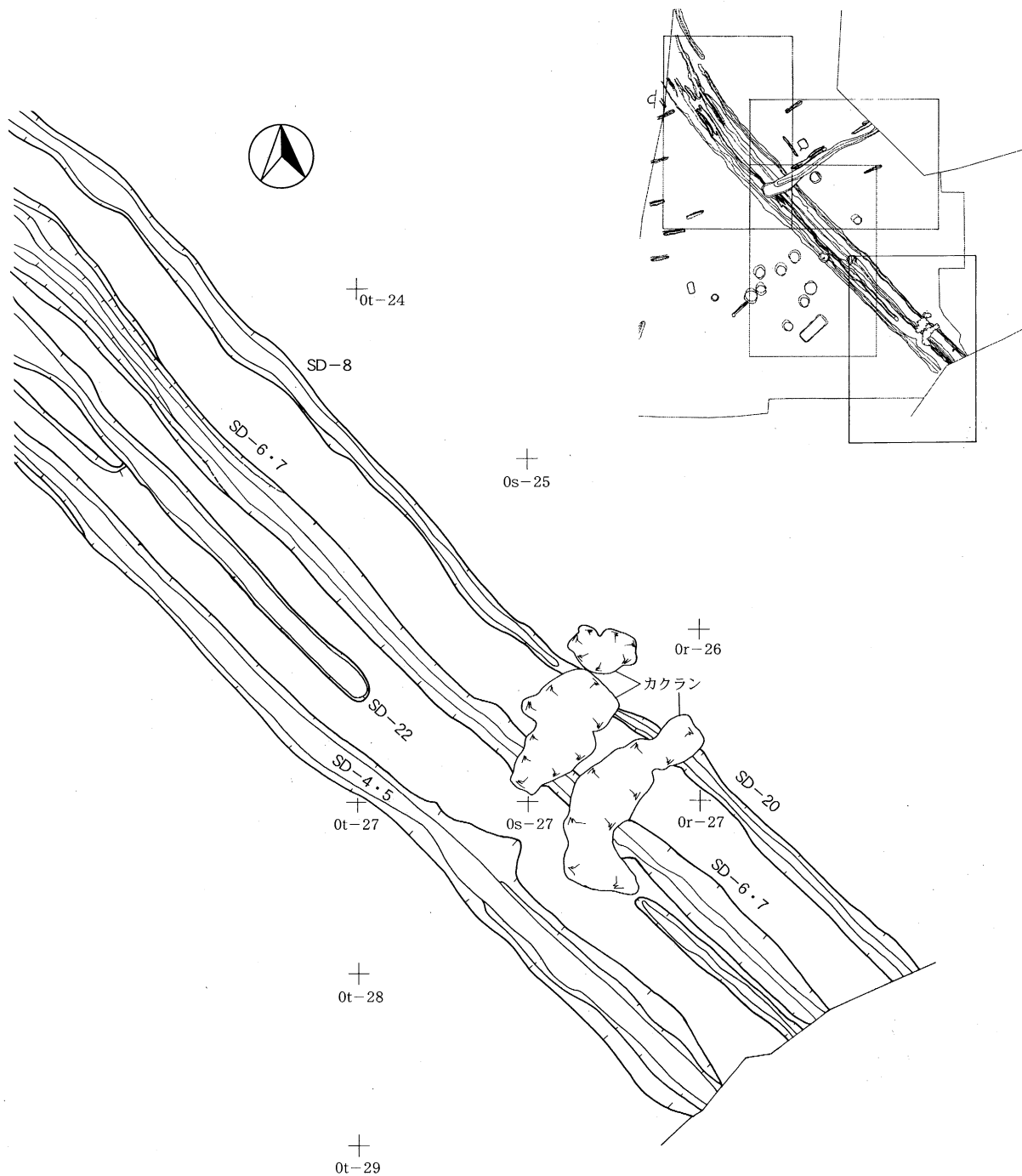


図30 溝跡群 (3) (遺構 : S=1/150 遺物 : S=1/2、1/3)



溝出土遺物観察表

番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
1	SD-9	覆土	石鎌		2.3	1.2	0.3	0.7		
2	SD-4・5	覆土	石鎌		3.3	1.6	0.5	1.8		
3	SD-20	覆土	磨石		7.7	5.1	1.3	61.9	粘板岩	
4	SD-20	覆土	磨石		6.5	6	3.8	272.5	ホルンフェルス	

図31 溝跡群(4) (S=1/150)

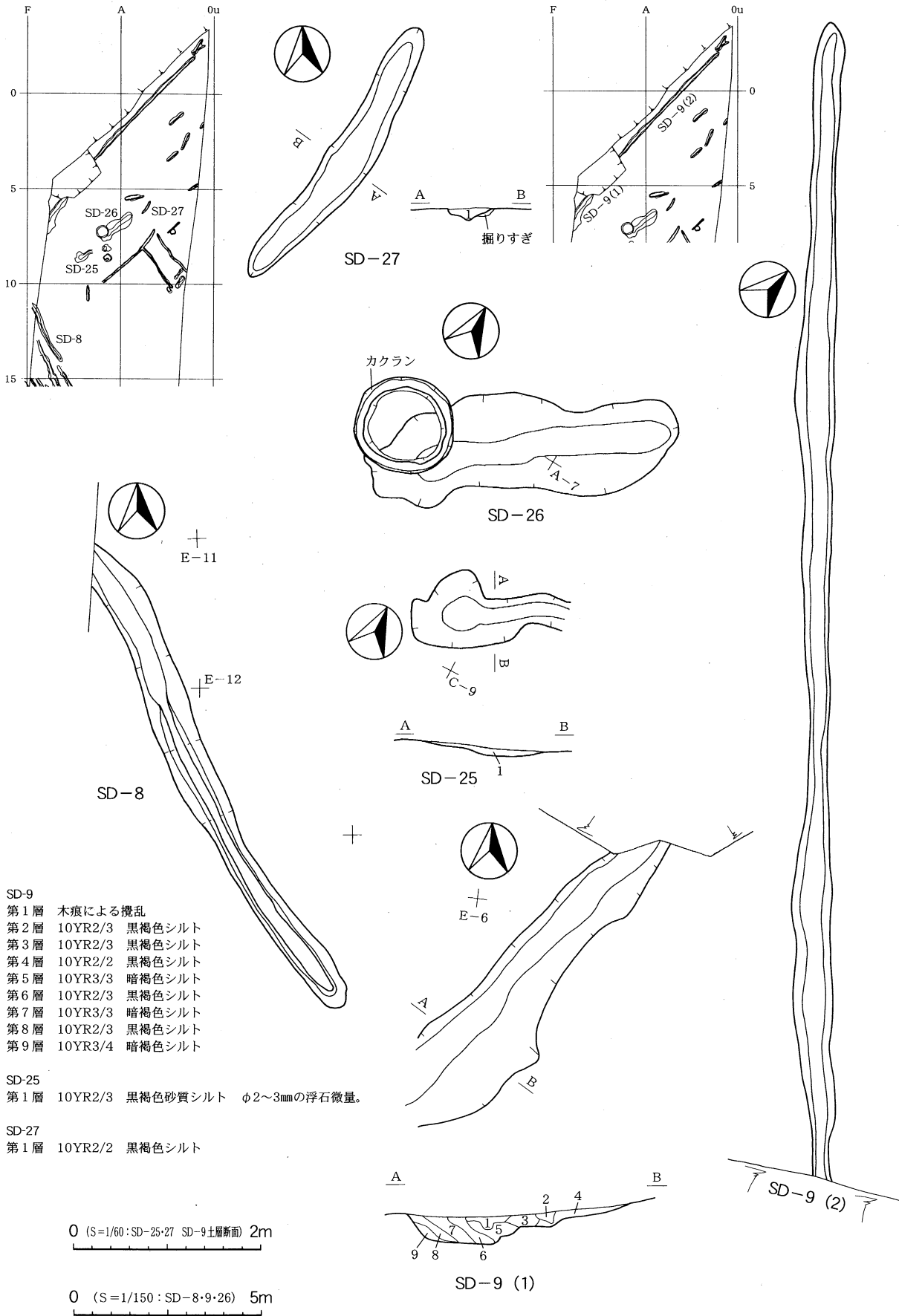


図32 第8・9・25・26・27号溝跡

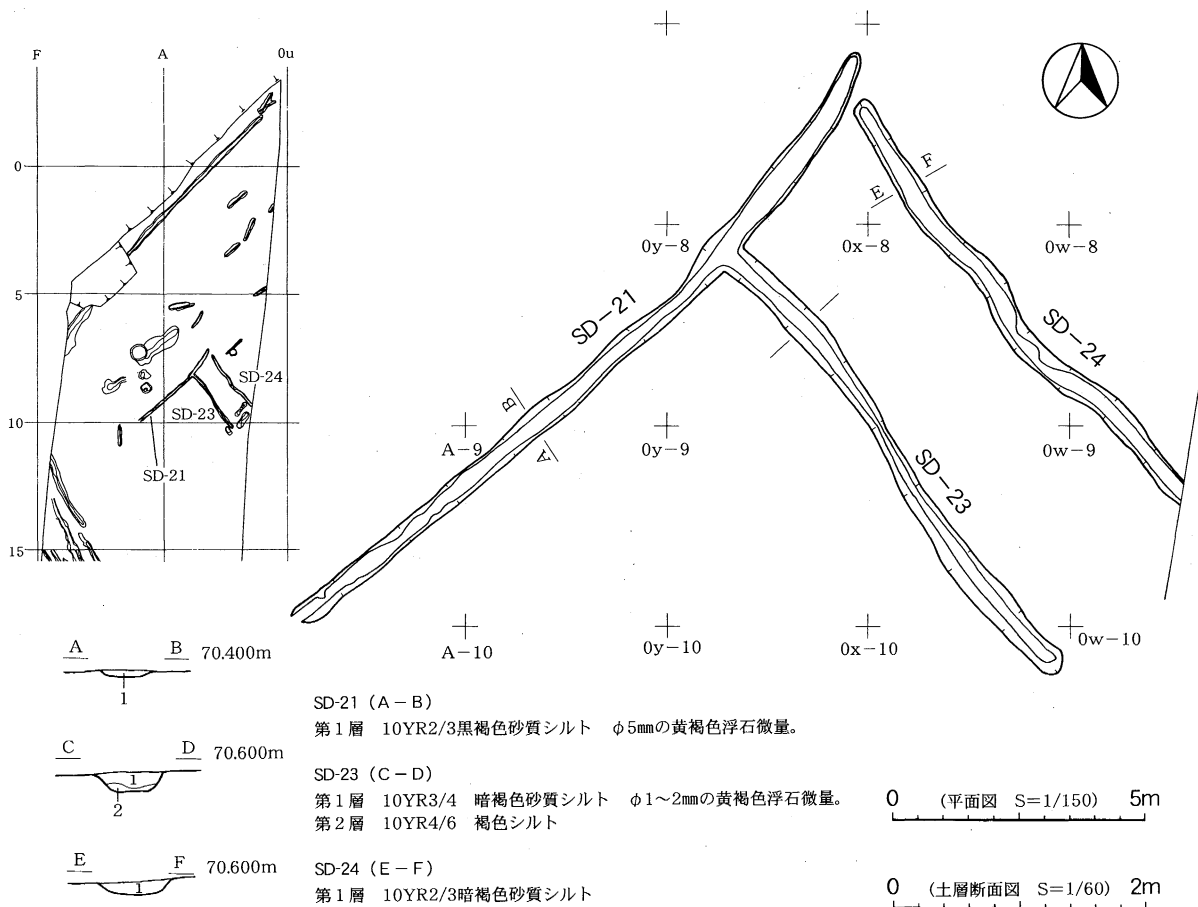


図33 第21・23・24号溝跡

第4章 遺構外出土遺物

平成12（西暦2000）年度の調査で出土した遺物は遺構内・遺構外合わせて土器1,920片、自然礫・石器390点である。尾根上の平坦部は削平された部分が多く、遺物の多くは南側の斜面部で出土した。

第1節 土器（図34～図37）

出土した土器は、縄文時代前期末葉～中期初頭、縄文時代中期中葉・後葉、縄文時代後期初頭、縄文時代後期前葉、縄文時代後期中葉、縄文時代後期末～晩期初頭、弥生時代後期の各時期がある。しかし、量的には縄文時代前期末～中期初頭のものゝ8割を占め、南側の尾根の集落に関連するものゝと考えられる。出土土器のうち、異なるグリッド・層位間で接合したものは*31点（遺構内・遺構外の接合含み、遺構内出土遺物同士の接合は除く）である。平面での最大距離は16.5mで第I層出土遺物同士である。第II層・III層出土遺物のグリッド間接合で最大の距離は8.9mである。

*一点毎の出土位置は記録していないため、ここではグリッドの中心間の距離を以て接合破片の距離の近似値として扱った。

縄文時代前期末葉～中期初頭の土器（図34-1～図36-96） すべて破片資料で、口縁部文様、区画、胴部文様を統一的に理解し分類するのは、質・量ともに難しい。口縁部文様、頸部区画、胴部文様を分類し、それぞれを算用数字、アルファベット、五十音で表す。

口縁部文様	頸部区画	胴部文様
1 絡条体回転文を施すもの（1～4）	A 撚糸側面圧痕（1～5）	ア 単軸絡条体1類（10・25・53・54）
2 撚糸側面圧痕を施すもの（5～21）	B 単軸絡条体1類側面圧痕（5）	イ 単軸絡条体1類+結節回転文（33・51）
3 絡条体圧痕を施すもの（22～24）	C 区画のないもの（6）	ウ 単軸絡条体1A類（6・9・11・12・32・34～50）
4 口唇部と口縁部に隆帯と撚糸側面圧痕を施すもの（26～29）	D 低い隆帯（7～10）	エ 単軸絡条体1A類+結節回転文（18・19）
	E 刺突（16）	オ 多軸絡条体（1～5・24・52・55～64・87）
	F 軽い段（10～13）	カ 羽状縄文（16・20・65～67・69）
	G 軽い段と刺突（18～21）	キ 回転縄文（単節）（70・71・76・77・79・80・81・88）
		ク 回転縄文（単節）+結節回転文（26・72・83～85）
		ケ 回転縄文（複節）（73・74・78・82・90～93）
		コ 異方向縄文（68）

口縁部に縦位の隆帯を施す17・21、あるいは頸部に軽い段が施され、刺突で区画される18～20は円筒下層d2式（江坂 1970）に比定される。1～8は円筒下層d1式に、26～29・31は円筒上層a式に比定される。9～16・22～25・30はd1式・d2式のいずれかに伴うと思われるが、判然としない。胴部破片はこれらに伴うものと思われる。（江坂 1970）によれば、クは円筒下層d2式から出現するとされている。しかし、これに伴う他の文様は十分に明らかにされていない。96は大木式系の土器で中期初頭と思われる。

縄文時代中期中葉・後葉の土器（97～102・150） 97・98は円筒上層d式、99～101は榎林式、102は大木9式平行器の土器である。150は中期後葉の土器の底部と思われる。

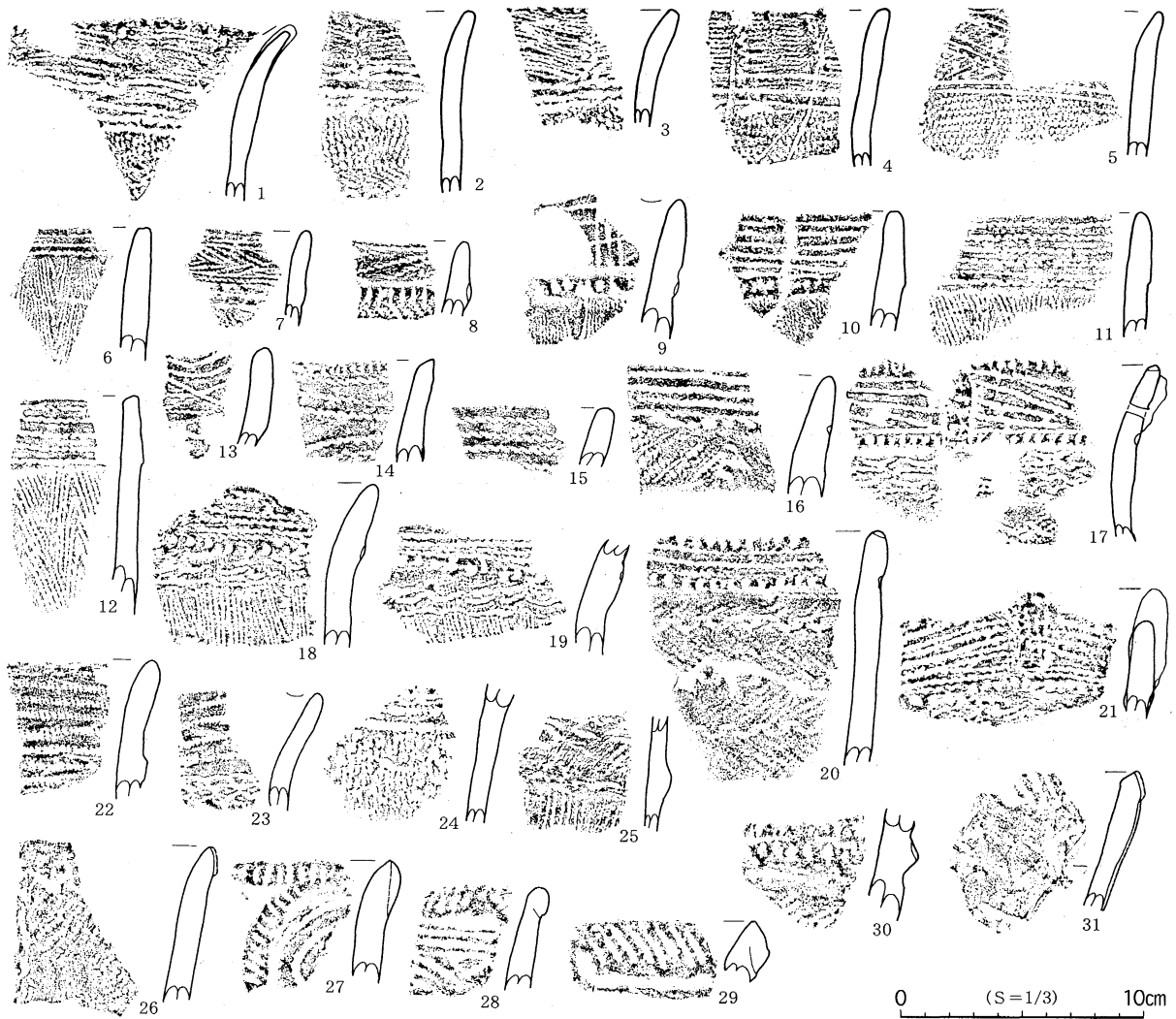


図34 遺構外出土土器 (1)

縄文時代後期初頭・前葉の土器 (103~114) 106~114は十腰内Ⅰ式と思われる。103~105は十腰内Ⅰ式に比べ、焼成は軟質で、施文が粘土の柔らかい段階で行われたと思われ、後期初頭に属すると思われる。

縄文時代後期中葉の土器 (115~132) 116・117は十腰内Ⅱ~Ⅲ式の壺形か注口形土器と思われる。115は器高の上から1/4程度で平行沈線を一条巡らし、これ以上を無文とする深鉢形土器である。119~132はこれに伴う粗製土器で、焼成は硬質で、口唇部付近がやや肥厚する。縄文は晩期のものに比べて大きく、0段多条原体が目立つ。

縄文時代後期末葉~晩期初頭の土器 (133~146) 133・136は宮城県田柄貝塚Ⅵ~Ⅶ群 (宮城県教育委員会 1986a) に相当するものと思われる。134は三叉文が施される晩期初頭の土器。137~146はこれに伴う粗製土器と考えられる。後期中葉のものに比べて縄文原体が細かく、薄手で、焼成もやや軟質である。

弥生時代後期の土器 (147~149) 147~149は弥生時代後期の土器と思われる。

第2節 石器

剥片石器 (図38-1~図39-31)

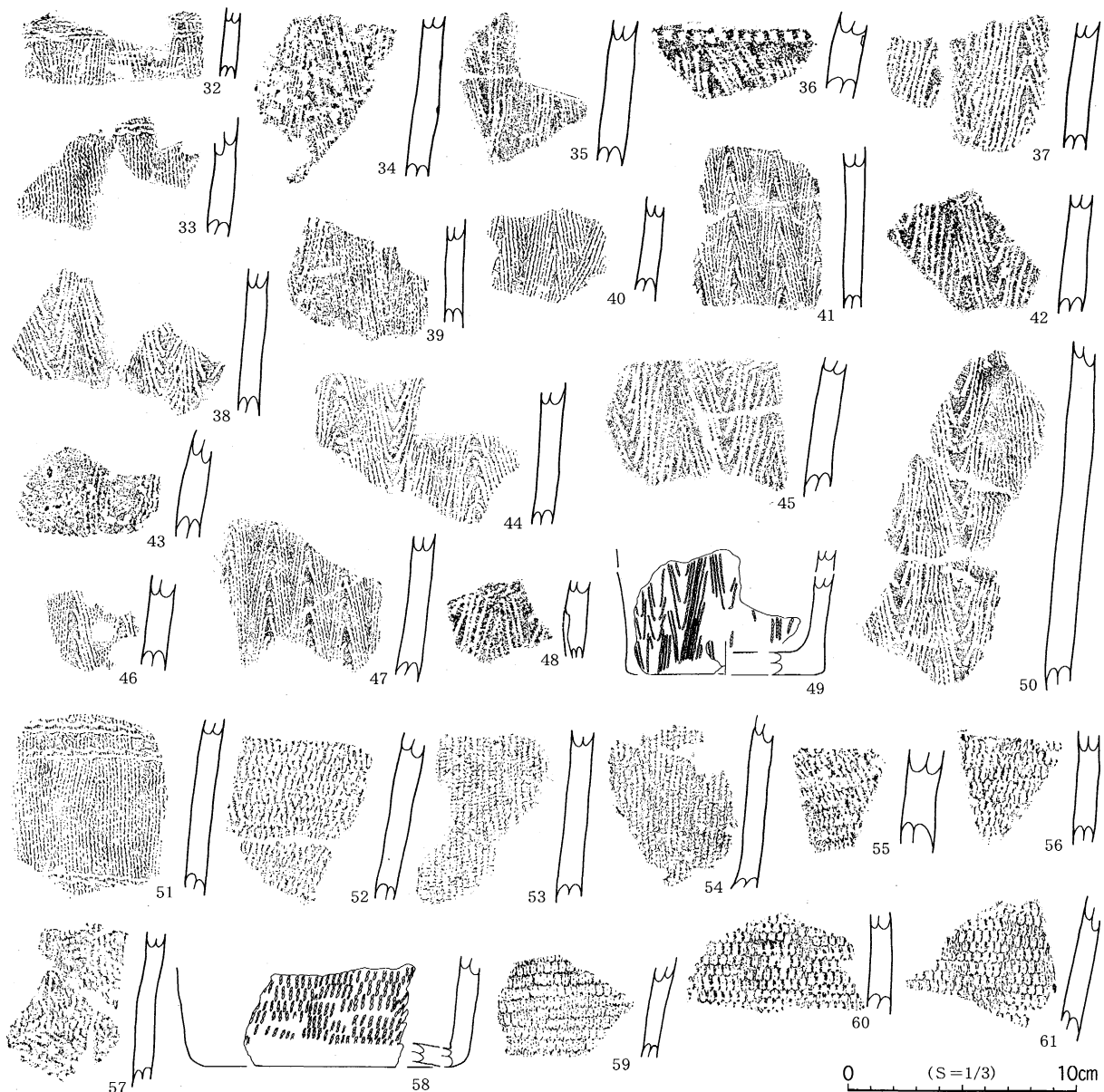


図35 遺構外出土土器（2）

遺構外からは石鏃21点、石匙1点、二次加工のある剥片類6点、その他の剥片類24点、石核1点が出土した。

石鏃（1～21）

1類（1～6） 平基無茎のもの。 2類（7～19） 有茎のもの。 3類（20・21） 尖基無茎のもの。

石匙（22・23） 2点出土した。縦長剥片を用い、バルブ側につまみを作出している。末端は蝶番剥離が認められる。主要剥離面側から左側縁部に軽い二次加工が施され、刃部が作出される。23は、石匙のつまみ部と思われる。

二次加工のある剥片類（24～30）

26は両面から二次加工が施されている。器体の一部を大きく欠いた後も一部加工が施されている。25は縦長剥片のバルブ付近に浅い角度の二次加工が施されている。バルブ除去を意図したものと思われる。30は主要剥離面の湾曲した一側縁に背面側から加工が施されている。

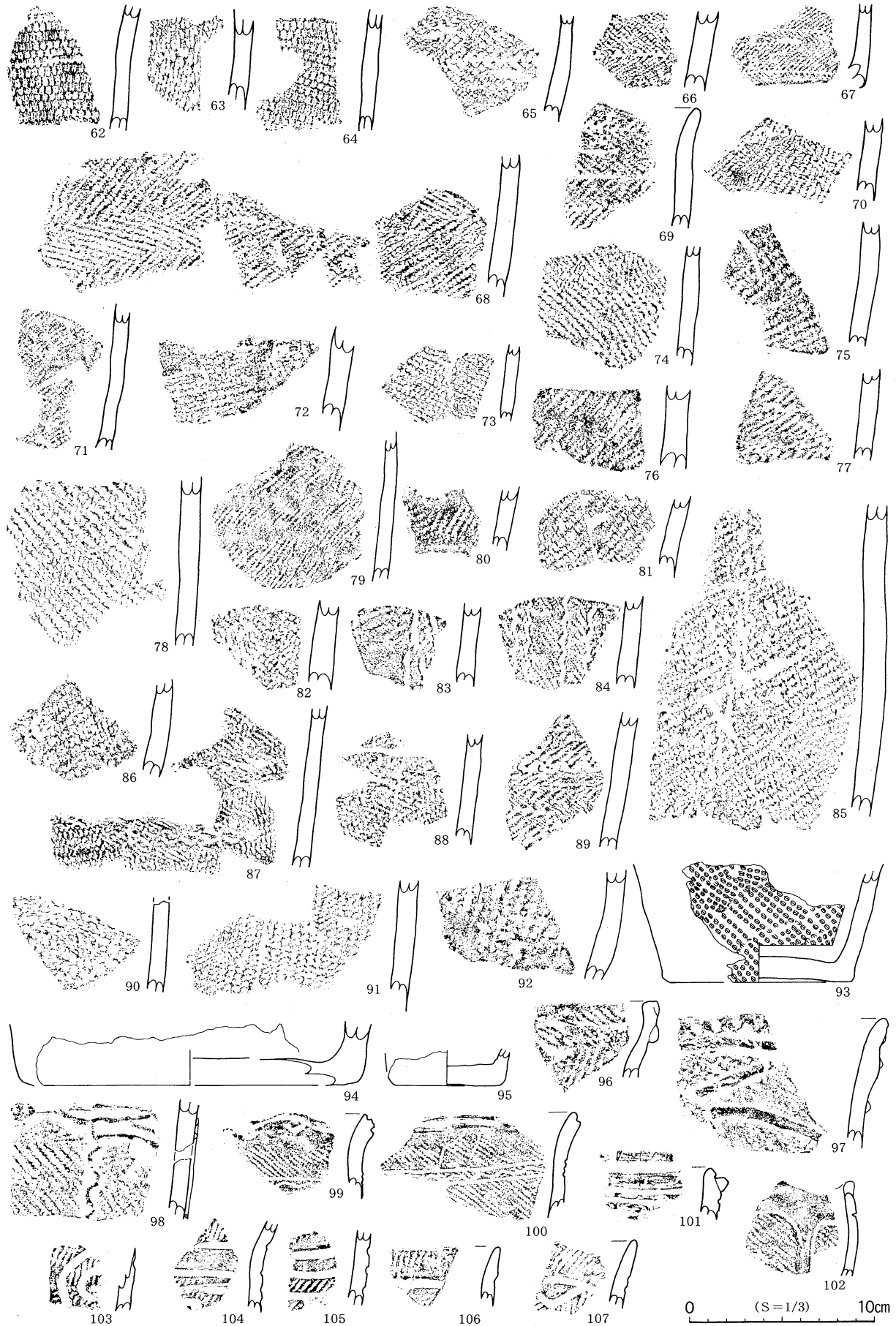


図36 遺構外出土土器(3)

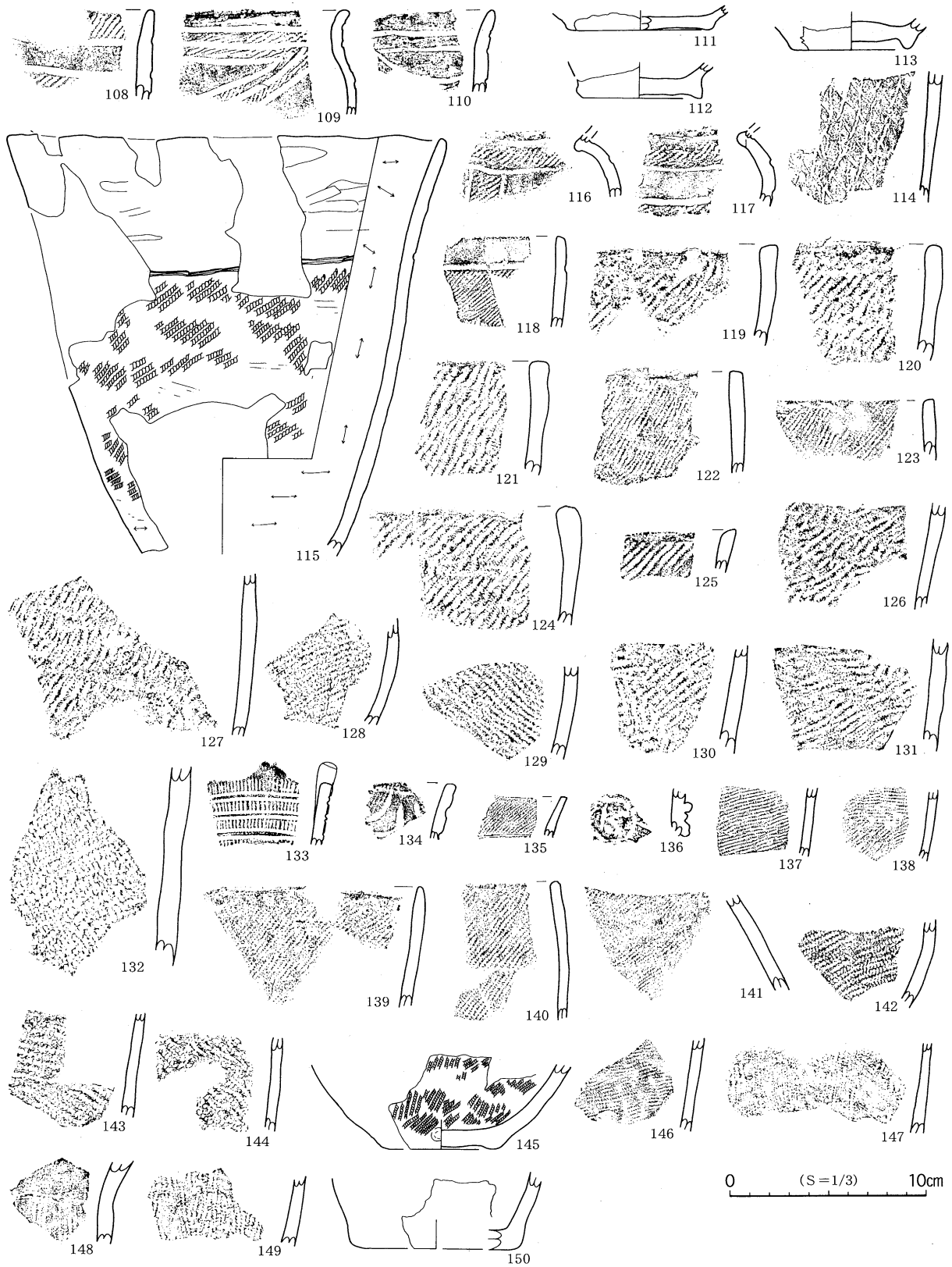


图37 遺構外出土土器 (4)

石核 (31) 径5 cm程度の礫の2面から剥片を剥離している。本資料は接合するが、明瞭な打点は確認できず、分割された原因は人為的なものとは考えられない。石質はやや軟質で、石器制作には不向きである。

礫石器 (図39-32~図44-74)

磨石 (32~52)

1類 (32~41・43~46・50) 扁平な礫の側縁に磨り面をもつもの。32・39は磨り面を持たないものの、素材の形状や加工のあり方が磨面を有するものに類似するので、磨石に含めておく。器体の加工の程度により分類できる。

- a 器体の表裏ほぼ全面に剥離を施すもの。(34~36)
- b 器体の1面の全面に破剥離を施し、残る1面は1/2以下の加工にとどまるもの。(34・37・38)
- c 器体の表裏とも1/2以下の加工にとどまるもの。(33・39~41・43~46)
- d 表裏とも加工せず、側縁部分に磨面をもつもの。

2類 (42・47~49) 断面三角形の柱状の礫の側縁に磨面を持つもの。磨面に隣接する二面に剥離痕を持つが、器体の変形が全面に及ぶような加工は施されない。49は側縁部の磨面に隣接する1面にも磨痕がある。

3類 (51・52・68) 礫の平坦面に磨り面をもつもの。側縁部は利用されない。

凹石 (56~59・61~63・65~70) 形状は機能面の裏面が平坦なものや平坦でないものがある。

敲磨器類 (53~56・60・65~67・69) 磨面と敲打痕を併せもつもの。

石皿・台石類 (68・71~73) 72は被熱し、破碎した状態で計31片出土した。B-27・28グリッド第Ⅰ・Ⅱ層、A-31グリッド第Ⅱa層から出土しており、1片を除いてB-27・28グリッドから出土した。帰属時期と、被熱・破碎の時期は明らかでない。

磨製石斧 (74・75) 74は成形時の敲打痕を残している。

石製品 (図44-76)

石刀 (75) 75は石刀の一部かと思われる。剥離による成形痕を残している。

その他の礫 (図43-64、図44-76・77)

64は被熱礫である。このほかに3点出土しているが、第Ⅰ・Ⅱa層の出土で、その帰属時期は不明である。76・77は、縄文時代中期の遺跡にしばしば見られる石材で、加工痕・使用痕の認められないものも多い。加工痕・使用痕のないものも搬入礫と考えられる。76は磨面が認められるが、これが使用痕であるのか加工痕であるのかの判断は難しく、礫石器・石製品以外のその他の礫に含めた。

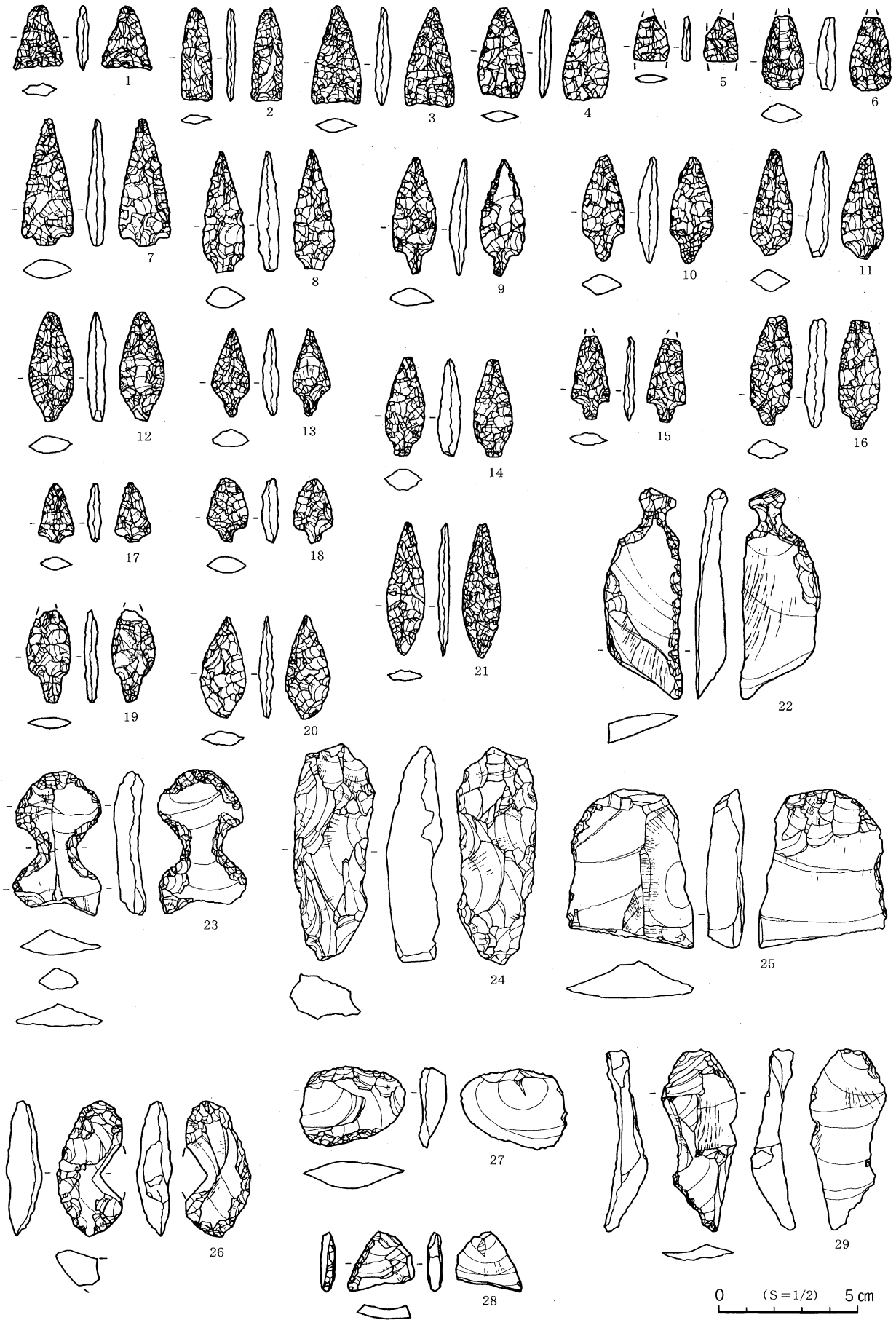


图38 遺構外出土石器 (1)

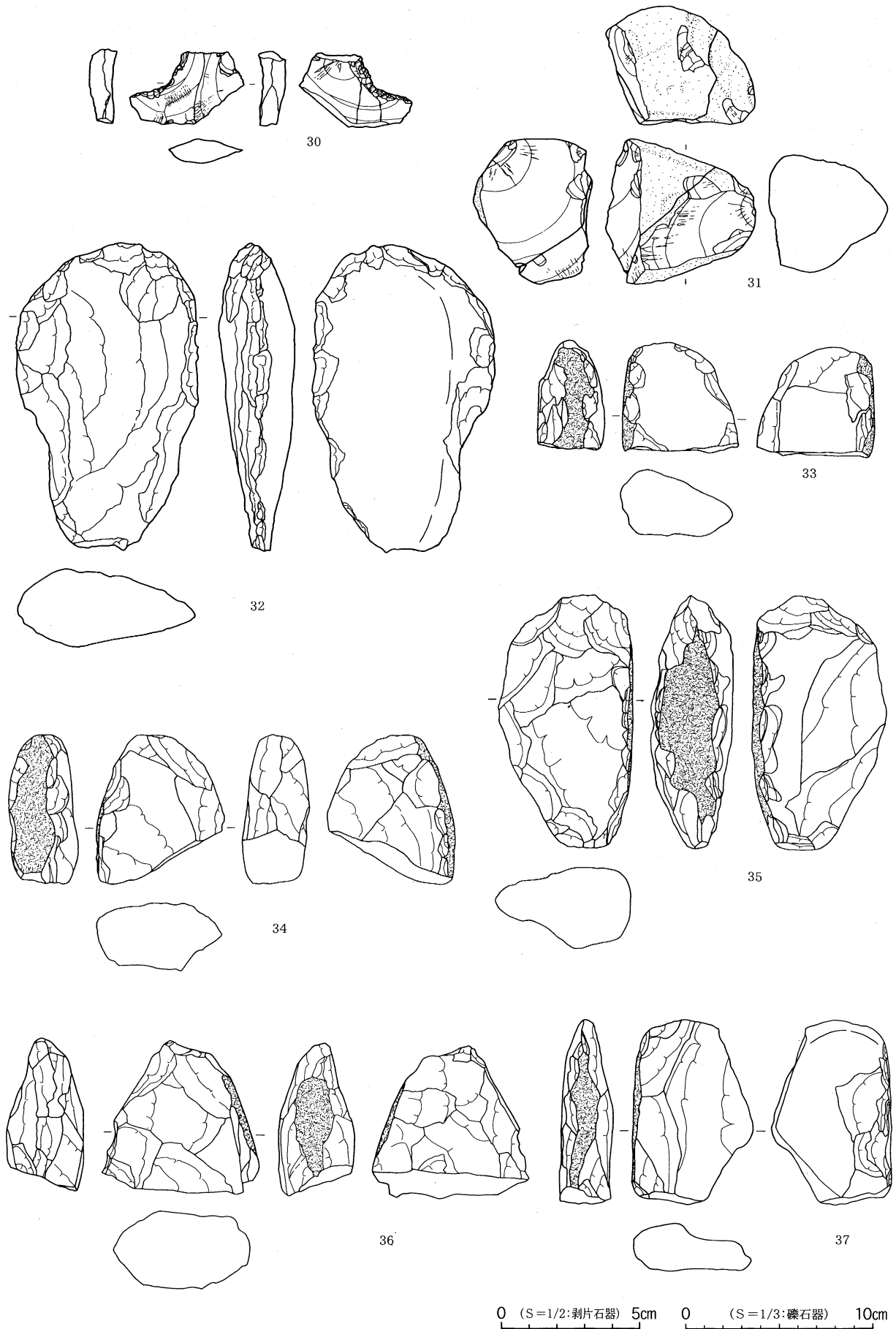


図39 遺構外出土石器(2)

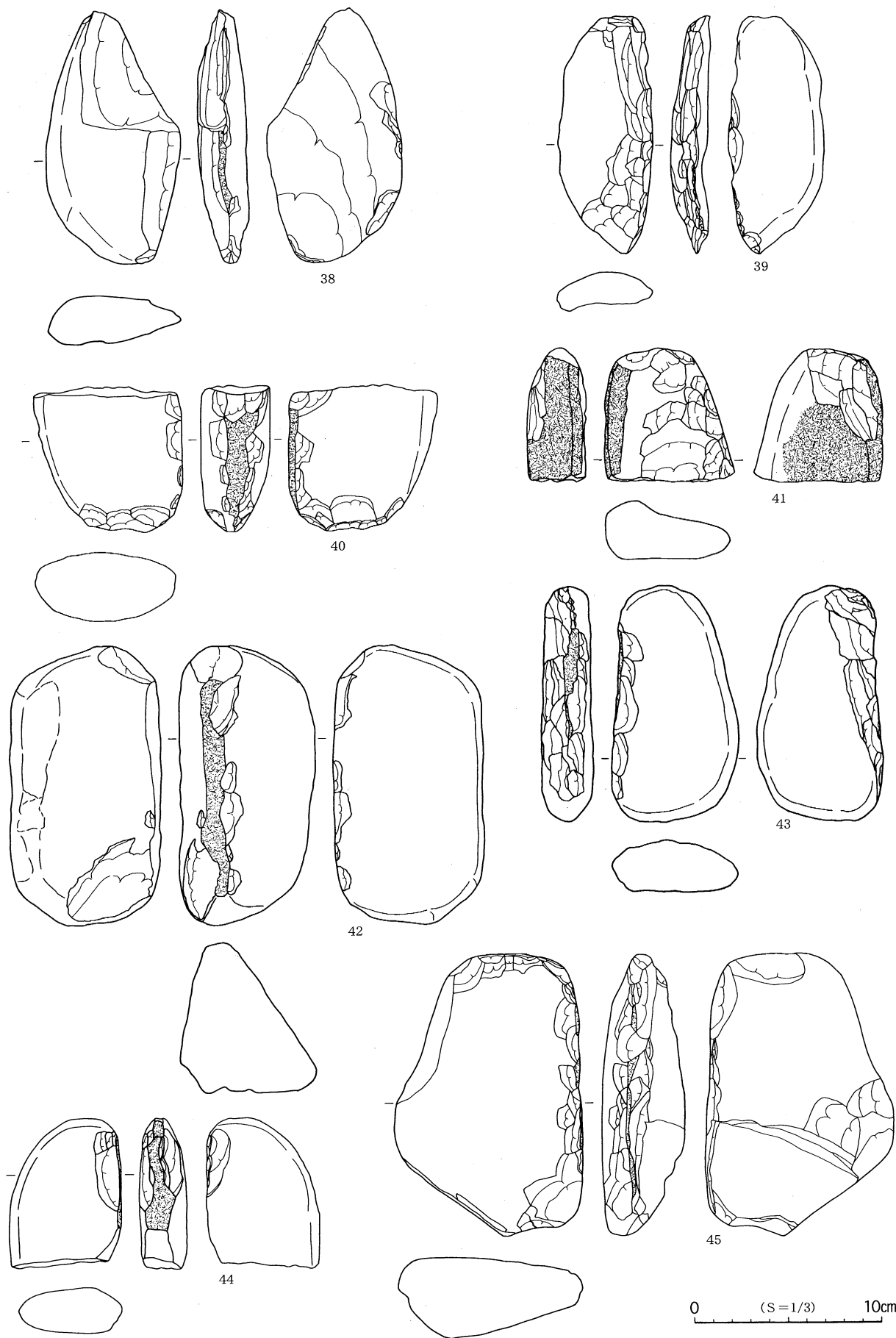


图40 遺構外出土石器 (3)

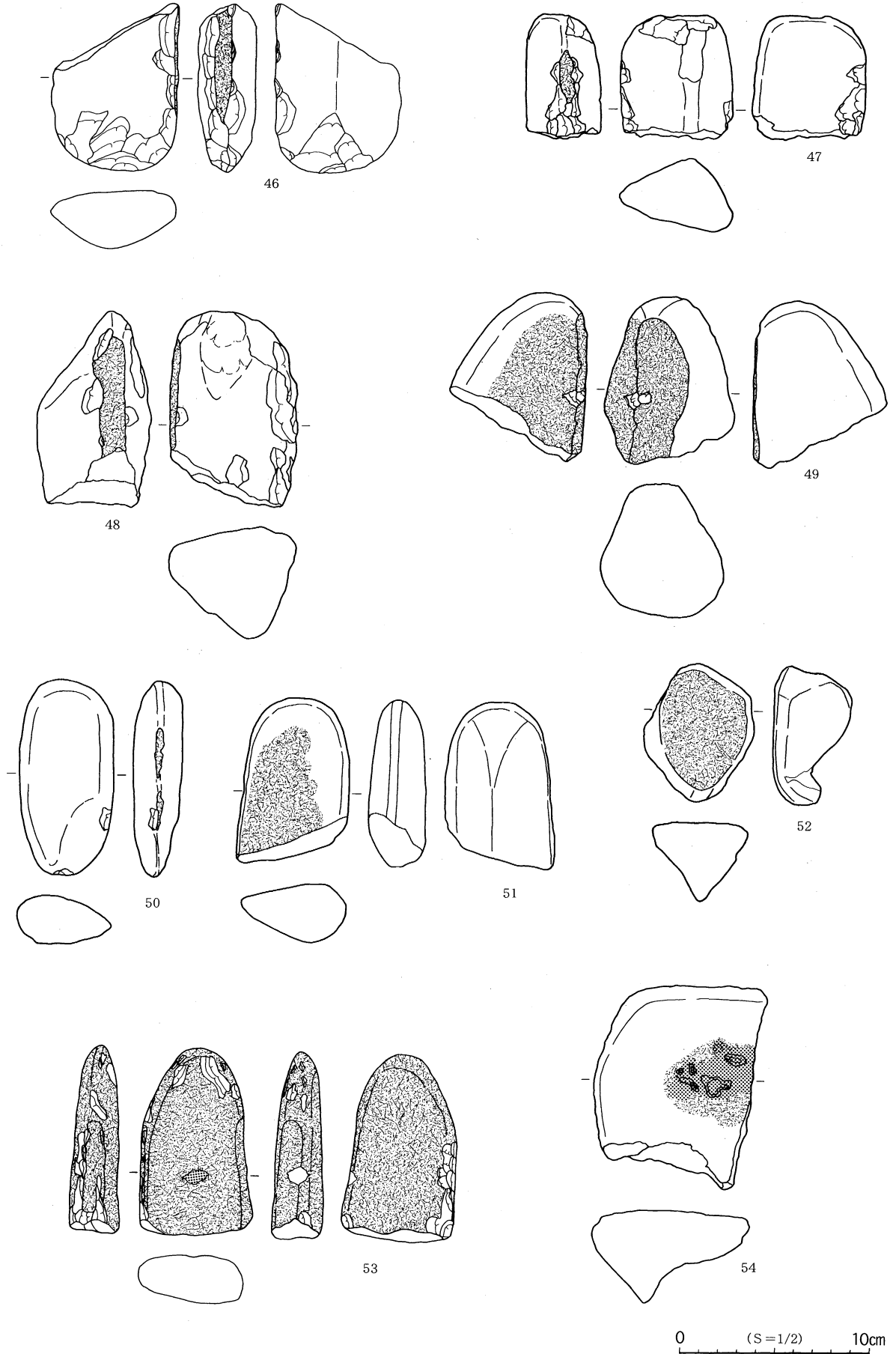


図41 遺構外出土石器(4)

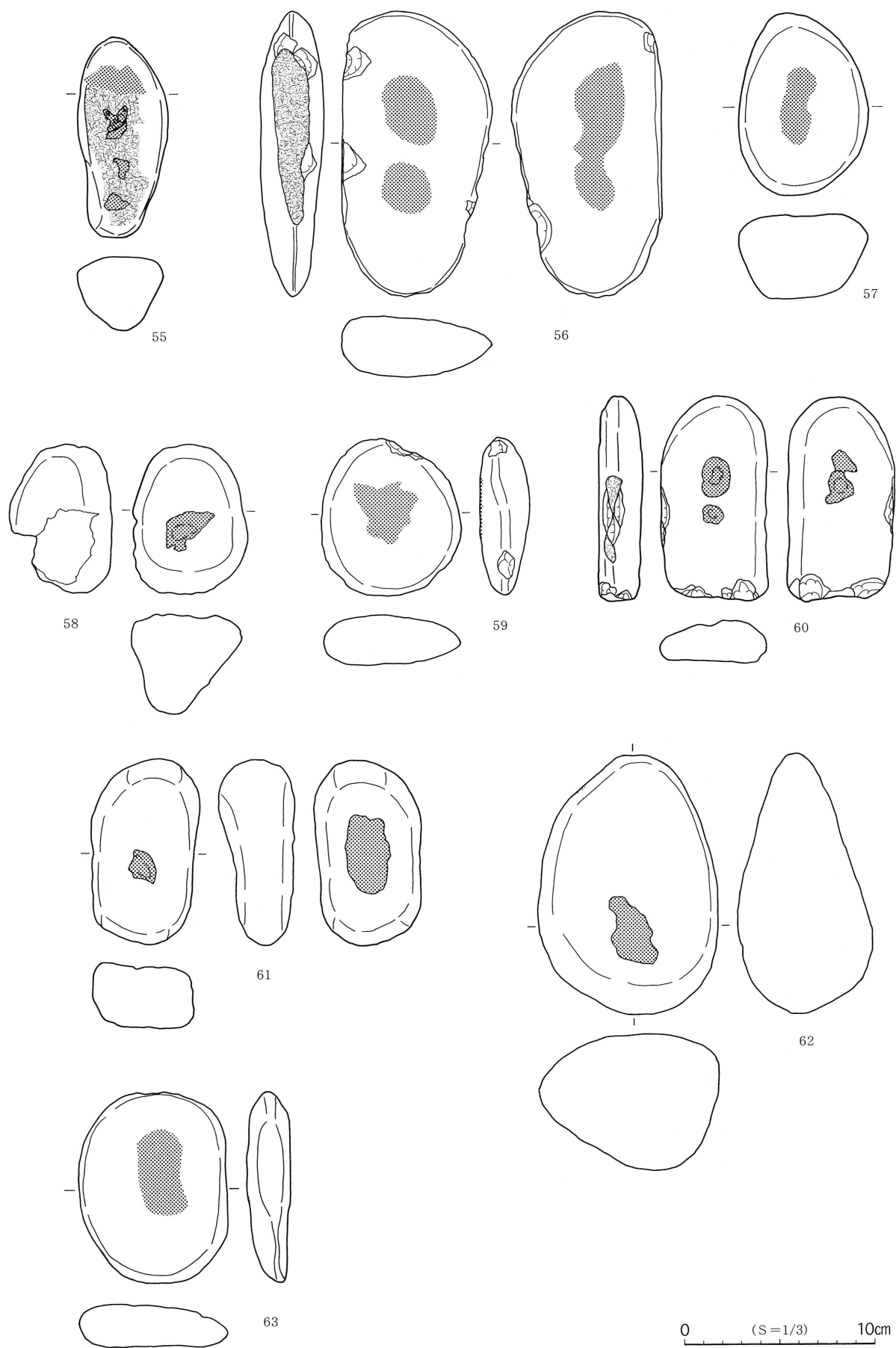


図42 遺構外出土石器 (5)

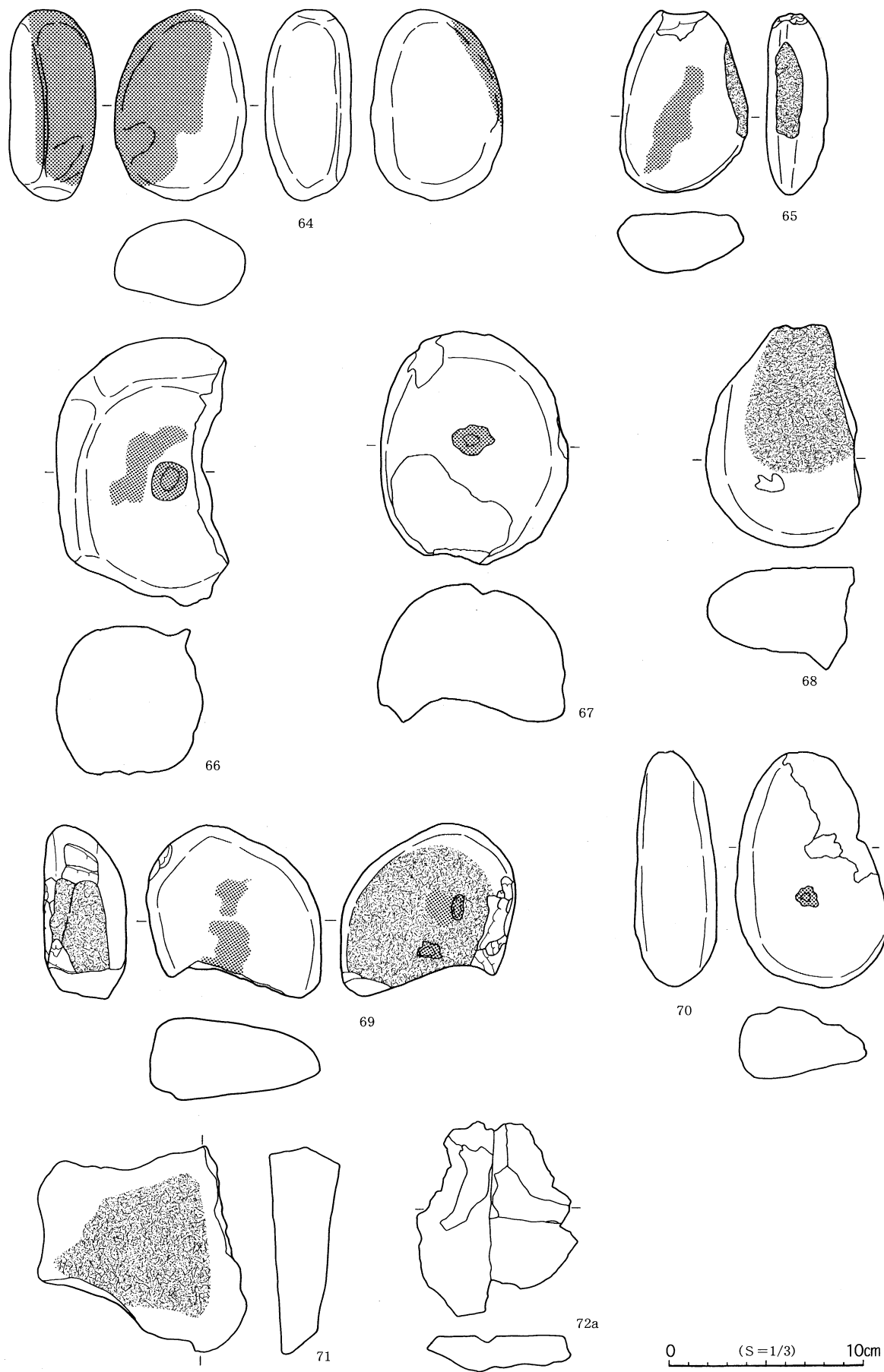


図43 遺構外出土石器(6)

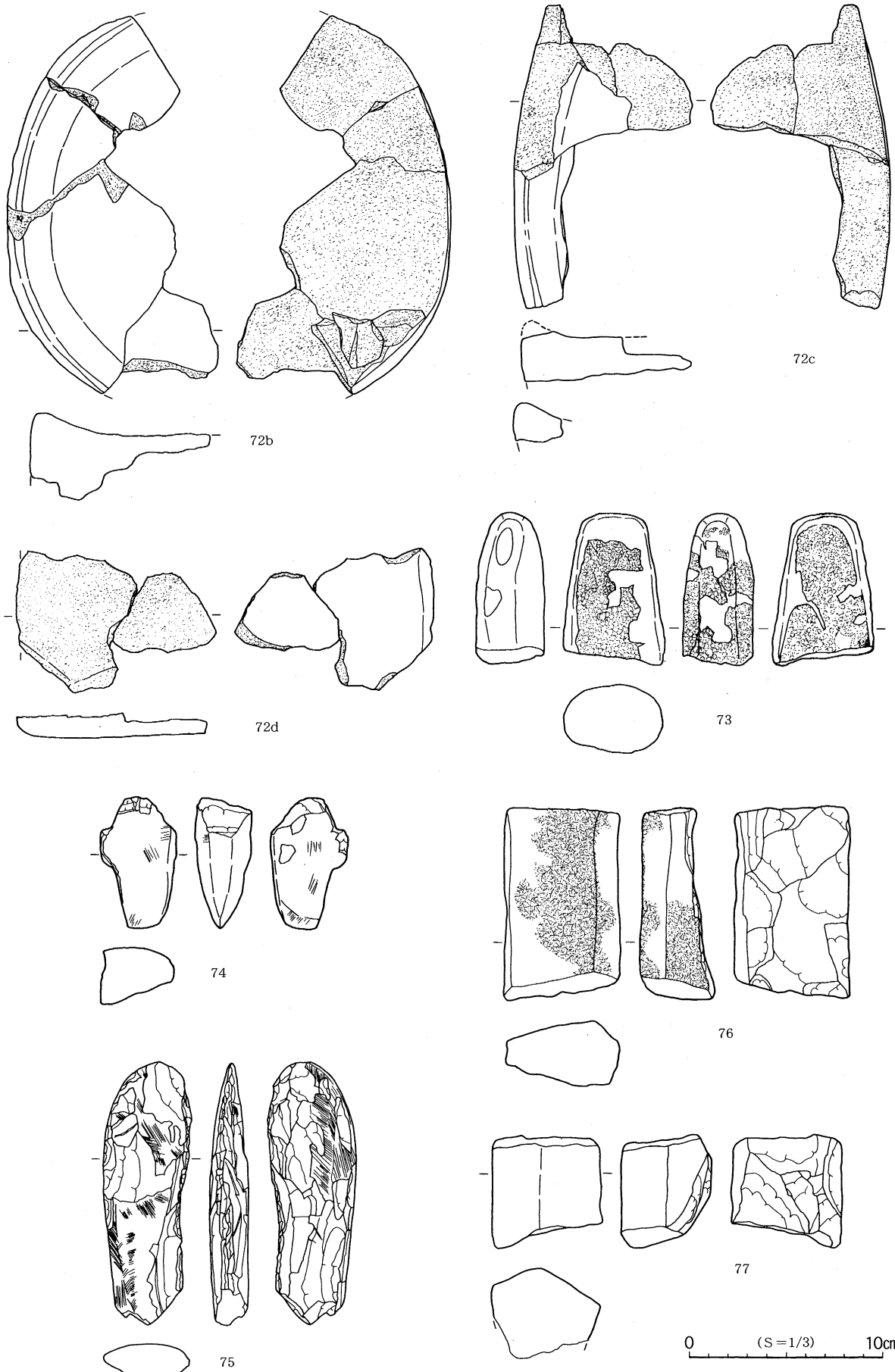


图44 遺構外出土石器 (7)

遺構外出土土器

番号	出土位置	外面文様等	内面調整等	胎土	備考
34-1	0s-22Ⅱ層	口縁:単軸GA(R)横位 頸:RL-LR結束第1種側面圧痕 胴:多軸(L)縦位	横位ナデ	織鉄浮石英	
34-2	0s-22Ⅱ層 0q-22Ⅱ層	口縁:単軸GA(R) 頸:RL-LR結束第1種側面圧痕 胴:多軸縦位・羽状結束1種	縦位ナデ	織鉄鉄浮	
34-3	0s-24Ⅱ層	口縁:単軸GA(R) 頸:RL-LR結束第1種側面圧痕 胴:多軸縦位回転	風化 横位ナデ?	織鉄浮石英黒黒	
34-4	0y-23Ⅱ層	口縁:単軸GA(R) 頸:RL側面圧痕 胴:多軸縦位回転	横位ナデ	織鉄浮石英黒岩	
34-5	0y-25Ⅰ層 0x-25Ⅱ層 A-25Ⅱ層	口縁:LR側面圧痕 頸:多軸側面圧痕 胴:多軸縦位回転(R+R二本一組)	横位工具ナデ	織鉄黒岩	
34-6		口縁:LR側面圧痕 胴:単軸1A(R)縦位	横位工具ナデ	織鉄石英	
34-7	C-6カクラン	口縁:LR側面圧痕による矢羽根状文 頸:横長の刺突 胴:RL横位	風化	織鉄浮	
34-8	0t-30Ⅱ層	口縁:LR側面圧痕 頸:微隆帯上ヘラ刻み 胴:RL横位	横位ミガキ	浮石英	
34-9	0t-29Ⅱ層	口縁:LR側面圧痕 頸:隆帯上半載竹管による刻み 胴:単軸1A縦位(R)	横位工具ナデ	骨石英	
34-10	0v-26Ⅱ層	口縁:LR側面圧痕 頸:隆帯上刻み 胴:単軸1類(R)縦位	やや風化 横~斜位ナデ	鉄浮石英岩	
34-11	0s-29Ⅱ層	口縁:LR側面圧痕 頸:軽い段 胴:単軸1A(L)縦位回転	横位ナデ	鉄岩	
34-12	0t-22Ⅲ層上面	口縁:LR側面圧痕 頸:軽い段 胴:単軸1A(L)縦位	口縁:横位ナデ 以下風化	鉄岩	
34-13	0s-30	口縁:LR側面圧痕	横位ナデ	骨鉄石英黒	
34-14	E-25Ⅲ層	口縁:LR側面圧痕 頸:隆帯上ヘラ刻み	横位ナデ	骨石英	
34-15	G-29Ⅱ層	口縁:LR側面圧痕	横位ミガキ	骨石英	
34-16	0s-24Ⅱ層	口縁:LR側面圧痕(LR) 頸:左方向の棒状工具による刺突 羽状結束1種付加条付(LR+L RL+R)	横位ミガキ	織鉄鉄石黒	
34-17	SD-20覆土(0v-24)	口唇:ヘラ刻み 口縁:微隆帯,LR側面圧痕 頸:段をなす,段の下端に半載竹管工具による刻み 胴:結節回転文(LR)	口縁部横方向,頸部以下斜方向の刻み	織鉄石黒	
34-18	0v-27Ⅱ層	口縁:LR側面圧痕 頸:竹管による刺突 胴:結節回転文(L),単軸1A(L・R)縦位回転		織鉄浮石英長岩	
34-19	0v-27Ⅱ層	口縁:LR側面圧痕 頸:隆帯上竹管による刺突 胴:結節回転文(L)横位,単軸1A(L・R)縦位	風化	浮長岩	
34-20	0t-26Ⅱ層 0t-27Ⅱ層	口唇:燃糸による刻み 口縁:LR側面圧痕 頸:半載竹管による刺突 羽状結束2種縦位回転	口縁~頸:縦位ミガキ 胴:横位ミガキ	織鉄浮石英岩	
34-21	0v-20Ⅱ層	口縁部:隆帯,LR側面圧痕 頸部:竹管による刺突 胴部:結節回転文(L)	風化	浮石英長岩	
34-22	0w-24Ⅲ層上面	口縁:単軸(L)側面圧痕	横位ミガキ	織鉄鉄石	
34-23	0y-29Ⅰ層	口縁:多軸(R)側面圧痕 頸:結節回転文(LR)	横位ナデ	石英岩	
34-24	A-25Ⅱ層	頸部:単軸1圧痕(自纏自巻) 多軸縦位(R二本一組)	縦位ミガキ	織鉄浮石英	
34-25	0w-30Ⅲ層	口縁:R結節回転文 頸:断面三角形の隆帯 胴:単軸1(L)縦位	風化 縦位ナデ	浮石英岩	
34-26	D-26Ⅱ層	LR横位 結節回転文(R)縦位	やや風化 横位ナデ?	浮鉄石	
34-27	C-33Ⅰ層	弧状隆帯,燃糸側面圧痕による刻み LR側面圧痕	やや風化 横方向のミガキ	骨石英	
34-28	0y-26Ⅰ層	口縁:LR側面圧痕	風化	石黒	
34-29	G-33Ⅱb層	口唇:隆帯上LR側面圧痕	風化	石岩	
34-30	B-27Ⅰ層	口縁:LR側面圧痕 頸:隆帯上LR側面圧痕,隆帯下横ナデ 胴:LR横位	風化	骨鉄石英岩	
34-31	C-32Ⅱb層	剥落顯著 R側面圧痕	横~斜位のナデ	骨鉄石英黒	
35-32	A-28Ⅲ層上面	頸部:燃糸側面圧痕(L・R二本一組) 胴部:単軸1A縦位(L・R)	横~斜位ミガキ	織鉄岩	
35-33	A-26Ⅱ層	頸部:結節回転文(R) 胴部:単軸1類縦位(R)	風化	織鉄浮石英黒	
35-34	0s-29Ⅱ層	単軸1A縦位(R・L)	横~斜位のナデ	織鉄浮石英岩	
35-35	0s-29Ⅱ層	単軸1A縦位(R・L)	煤付着 縦位ナデ?	浮石黒	
35-36	0s-24Ⅱ層	口縁:LR側面圧痕 頸:コ字状刺突 胴部:単軸1A(R)縦位	縦方向のミガキ	織鉄石英黒岩	
35-37	0t-22Ⅱ層 0v-23Ⅱ層	単軸1A縦位(R・L二本一組)	縦位ミガキ	織鉄浮石英岩	
35-38	0Q-21Ⅱ層 0Q-23Ⅱ層	単軸1A縦位(L)	風化 縦位ミガキ?	織鉄浮石英黒岩	
35-39	B-6カクラン	単軸1A縦位(R・L)	煤付着,風化 縦位ナデ?	織鉄浮石英岩	
35-40	A-28Ⅱ層	単軸1A縦位(R・L)	縦位ナデ	織石	
35-41	B-29Ⅰ層	単軸1A縦位(R・L二本一組)	縦位ナデ	織鉄浮石英黒岩	
35-42	0s-24Ⅱ層	単軸1A縦位(L)	縦位ミガキ	織鉄浮鉄石黒	
35-43	0t-30Ⅰ層	単軸1類縦位(R)	斜位のミガキ	織鉄浮	
35-44	0s-23Ⅱ層	単軸1A縦位(R)	斜~縦位ミガキ	織鉄浮石英黒	
35-45	0s-24Ⅱ層	単軸1A縦位(R・L二本一組)	横位ミガキ	織鉄浮石英岩	
35-46	0v-20Ⅱ層	単軸1A縦位(R・L)	縦位ミガキ	織鉄浮鉄石黒	
35-47	B-29Ⅰ層	単軸1A縦位(R・L二本一組)	縦位ミガキ	織鉄浮石英黒	
35-48	0s-25Ⅱ層	単軸1A縦位(R・L二本一組)	縦位ミガキ	織鉄浮鉄石黒	
35-49	0v-29Ⅰ層	単軸1A縦位(R・L二本一組)	やや風化 横位ナデ	織鉄浮石黒	
35-50	0s-23Ⅱ層	単軸1A縦位(R)	横~斜位ミガキ	織鉄浮石黒	
35-51	A-26Ⅱ層	単軸1類縦位(R) 結節回転文横位(R)	風化	織鉄浮石英黒	
35-52	0v-30Ⅰ層	多軸縦位(L)	縦位ミガキ	織鉄浮石英黒	
35-53	A-26Ⅱ層	単軸1類縦位(自纏自巻?)	縦位ミガキ	織鉄鉄	
35-54	A-26Ⅱ層	単軸1類縦位(自纏自巻?)	縦位ミガキ	織鉄鉄	
35-55	0v-02Ⅱ層	多軸縦位(R)	やや風化 横位ナデ?	織鉄浮鉄	
35-56	0y-23Ⅰ層	多軸縦位(R)	縦位ミガキ	織鉄鉄黒	
35-57	0s-22Ⅱ層 0s-23Ⅱ層	多軸(R)縦位	風化 縦位のナデ	織鉄浮石英黒	
35-58	0v-30Ⅰ層	単軸1類縦位(自纏自巻)	横位ミガキ	織鉄岩	
35-59	0s-25Ⅱ層	多軸縦位(R・L二本一組)	縦位ミガキ	織鉄浮石英	
35-60	0x-24Ⅲ層上面 0v-23Ⅱ層	多軸縦位(R・L二本一組)	縦位ミガキ	織鉄浮石英黒	
35-61	A-25Ⅱ層	多軸縦位(R・L二本一組)	縦位ミガキ	織鉄浮石英	
36-62	A-24Ⅱ層	多軸縦位(R・L二本一組)	縦位ナデ	織鉄浮鉄石黒	
36-63	0y-24Ⅰ層	多軸縦位(R)	縦位ミガキ	織鉄浮石英黒	
36-64	0x-24Ⅲ層上面	多軸縦位(R・L二本一組)	縦位ミガキ	織鉄浮鉄石黒	
36-65	0s-29Ⅱ層	羽状結束1種(RL+LR)横位	剥落顯著 風化	石黒黒岩	
36-66	D-31Ⅱa層	羽状結束1種(RL+LR)横位	縦位のミガキ	織鉄浮鉄石黒	
36-67	0r-30Ⅲ層	羽状結束1種(RL+LR)横位	上半:縦位ミガキ 下半:横位ミガキ	織鉄石黒	
36-68	0s-22Ⅱ層	RL横位・RL縦位を帯状に繰り返す。	縦位ミガキ	織鉄石黒	
36-69	A-26Ⅱ層	羽状結束1種(RL+LR)横位	風化 口縁:横位のナデ	織鉄石	
36-70	0v-29Ⅱ層	LR横位 結節回転文(R)横位・縦位	縦位ミガキ	織鉄石英黒	
36-71	E-34Ⅱb層	LR横位	縦位のナデ	石英黒岩	
36-72	G-33Ⅱb層	LR横位 結節回転文(R)縦位	横~斜位のミガキ	鉄石英黒長岩	
36-73	0y-25Ⅰ層 0y-25Ⅱ層	RLR横位	縦位ミガキ	織鉄浮鉄石黒	
36-74	0s-22Ⅱ層	RL縦位 RLR横位	縦位のミガキ	織鉄石英黒	
36-75	C-27Ⅱ層	LR横位	縦位ミガキ	骨石英	

番号	出土位置	外面文様等	内面調整等	胎土	備考
36-76	G-31 II層	LR横位	横位ミガキ	骨鉄石英黒	
36-77	Os-29 II層	LR横位 結節回転文(R)	風化	骨石英黒岩	
36-78	C-6カクラン	RLR横位	風化 縦位ミガキ	縞骨鉄岩	
36-79	G-33 IIa層	LR横位	煤付着 縦位ナデ	縞鉄岩黒	
36-80	A-27 I層	LR横位	縦位ナデ	石英黒岩	
36-81	E-34 IIb層	LR横位	風化	鉄石英岩	
36-82	F-30 I層	RLR横位、結節回転文(LR)縦位	斜位のナデ	骨鉄石英黒岩金	
36-83	F-32 IIb層	RL縦位 結節回転文(LR)縦位	縦位ミガキ	縞鉄石英黒	
36-84	Ot-24 II層	LR縦位 結節回転文(LR)縦位	斜位ミガキ	骨鉄石英黒岩	
36-85	E-33 IIb層	LR横位 結節回転文(LR)縦位	風化 縦位ナデ	縞骨鉄石英黒岩	
36-86	D-26 II層	LR横位 結節回転文(R)縦位	縦位のミガキ	縞骨鉄石英	
36-87	Os-22 II層 Os-24 II層	多軸縦位(R) 結節回転文(RL)横位	風化 縦位ナデ?	縞骨鉄石英黒	
36-88	Os-22 II層 Os-23 II層	LR横位 結節回転文(RL)横位	やや風化 縦位のナデ	縞鉄石英	
36-89	Os-29 II層	上半:結末2種を伴うLR+LR横位 下半:羽状結末第1種(RL+LR)横位	斜位ミガキ	縞浮骨	
36-90	Ox-29 II層	RLR横位	縦位のナデ	縞浮鉄石英	
36-91	A-26 I層 A-26 II層 Oy-27 II層	RLR縦位	縦位ミガキ	縞鉄岩	
36-92	D-29 I層	LRL横位	縦位ミガキ	骨鉄石英長黒岩	
36-93	Os-22 II層	RLR横位	風化	縞鉄石英黒岩	
36-94	G-32 IIb層	横方向のナデ	ミガキ	鉄石英黒岩	
36-95	Ox-29 I層	ナデ	ナデ	骨鉄石英黒岩	
36-96	Ot-30 II層	口縁:ハの字状隆帯、折り返し口縁 口唇~隆帯下端:RL横位 以下RL縦位	横位のミガキ	浮骨石英黒岩	
36-97	A-28 I層	RLR横位 隆帯貼付 隆帯上燃糸側面圧痕(RLR)	横~斜位ミガキ	骨浮石英黒	
36-98	A-27 I層	RL横位 細い貼り付け隆帯	斜位ナデ	骨浮石英黒	
36-99	Ox-29 II層	口唇:渦巻状沈線 頸:平行沈線間に波状沈線 地紋:LR縦位	風化	浮鉄石英	
36-100	Ox-29 II層 Ox-30 II層	口唇:沈線 頸:平行沈線間に波状沈線 地文:LR縦位	やや風化 横~斜位ミガキ	浮鉄石英黒	
36-101	Ox-30 I層	口唇:沈線・粘土紐貼付 口縁・頸:平行沈線(幅2.5mm)	横位ミガキ	鉄石英	
36-102	F-28 I層	断面V字形の沈線による楕円形区画内にLR縦位回転	縦位ナデ	骨石英	
36-103	Ot-30 I層	沈線による渦巻文 L充填	横位ナデ	石英黒	
36-104	Ot-30 I層	沈線による区画内にLR横位	斜位ミガキ	石英黒	
36-105	Ot-30 I層	沈線による曲線文間にL横位	横位ナデ	石英黒岩	
36-106	A-27 II層	沈線による曲線文の中にL	横位ナデ	石英岩	
36-107	A-27 II層	沈線による曲線文の中にL	斜位ミガキ	石英	
37-108	Ot-30 I層	二本の沈線間を無文とし、上下はL横位	横位のミガキ	石英黒岩	
37-109	Ot-21 II層	沈線による曲線文の中にL横位	口縁:横位のミガキ 頸:指押さえの後、横位ナデ 胴:斜~縦位のナデ	石英黒岩	
37-110	E-25 II層	沈線による曲線文	横~斜位ナデ	石英黒岩	
37-111	D-24 II層	ミガキ	ナデ	鉄石英長黒岩	
37-112	B-27 I層	ナデ・指押さえ	ナデ	石英岩	
37-113	F-25 II層	ナデ	ナデ	岩	
37-114	C-25 II層	単軸5類縦位	斜~縦位ミガキ	浮鉄石英黒	
37-115	F-31・IIa・IIb層	口縁:工具ナデ 頸:沈線 胴:LR横位	口縁部:工具ナデ	骨浮石英黒	
37-116	Os-29 II層	沈線による区画内にLR横位	横位ナデ	骨鉄石英	
37-117	Os-29 II層	沈線による区画内にLR横位	横位ナデ	骨鉄石	
37-118	A-22 III層上面 Oy-22 II層	口縁部:無文 頸部:平行沈線 胴部:LR横位	縦位ミガキ	鉄岩	
37-119	E-24 II層E-28 I層	0段多条LR横位	横位ナデ	骨石英黒岩	
37-120	E-24 II層	0段多条LR横位	工具ナデ	鉄石英黒岩	
37-121	E-24 II層	0段多条LR横位	縦位ナデ	骨鉄石英黒岩	
37-122	Ox-29 I層	LR横位	横位ナデ	鉄石英黒	
37-123	Ox-28 I層	LR横位	横位ナデ	石英黒岩	
37-124	E-24 II層	0段多条LR横位	風化 横位のナデ?	骨鉄石英黒岩	
37-125	Ox-29 II層	LR横位	横位ナデ	石英岩	
37-126	E-24 II層	0段多条LR横位	縦位ナデ	骨鉄石英黒岩	
37-127	F-26 III層 E-24 II層	0段多条LR横位	縦~横位ナデ	石英黒岩	
37-128	E-20 II層	LR横位	横位ナデ	石英黒岩	
37-129	Ov-25 II層	RL横位	横位ナデ	浮石英黒	
37-130	D-22 II層	0段多条LR横位~斜位	煤付着 縦位ナデ	骨鉄石英長岩	
37-131	D-22 II層	0段多条LR横位~斜位	横位ナデ	鉄石英黒岩	
37-132	D-26 I層	LR横位	縦位ミガキ	縞骨鉄石英黒	
37-133	E-21 I層	突起 平行沈線(幅2mm)間に縦位のヘラ刻み	横~斜位のナデ	石英黒岩	
37-134	Ox-26 I層	沈線による区画内にLR横位	斜位ミガキ	石英	
37-135	C-28 II層	LR横位	横位ミガキ	石英岩	
37-136	Ot-30 I層	ボタン状貼付 貼付上三方向からヘラ刻み	縦位のナデ	石英岩	
37-137	D-16 II層	LR横位	ハジケ	鉄石英黒	
37-138	D-16 II層	LR横位~斜位	剥落多	石英岩	
37-139	F-25 II層	LR横位	横位ナデ	鉄石英長黒岩	
37-140	F-25 II層	LR横位	横位ナデ	石英岩	
37-141	A-26 I層	LR横位	横~斜位ナデ	石英黒岩	
37-142	E-21 I層	LR横位	横~斜位ナデ	石英黒岩	
37-143	C-22 II層	RL横位	斜位ナデ	石英黒岩	
37-144	C-21 I層 C-22 II層	RL横位	縦位ナデ	石英黒岩	
37-145	C-26 I層 C-27 II層 D-26 I層 D-27 I層 D-28 I層	LR横位回転・指押さえ	縦位ミガキ	鉄石英岩	
37-146	D-16 II層	LR横位	縦位ナデ	石英黒岩	
37-147	SD-7-8(D-17)覆土 B-17 II層	RL斜位	横方向のナデ	石英黒岩	
37-148	D-17 II層 D-19 II層	頸:横方向のナデ 胴部:RL斜位	縦位ナデ	鉄石英黒	
37-149	D-17 II層	RL斜位	内面風化	石英黒岩	
37-150	B-27 I層	横方向のナデ	ナデ	石岩	

遺構外出土石器

番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考
38-1	0v-27	Ⅲ	石鏃	1	2.4	1.8	0.4	1.4	珉質頁岩	
38-2	F-31	Ⅱa	石鏃	1	3.4	1.1	0.3	1.4	珉質頁岩	
38-3	G-30	Ⅱ	石鏃	1	3.6	1.8	0.5	2.4	玉髓	
38-4	C-32	Ⅰ	石鏃	1	3.3	1.7	0.4	1.9	玉髓	
38-5	0v-27	Ⅲ	石鏃	1	1.6	1.3	0.3	0.6	珉質頁岩	
38-6	F-30	Ⅰ	石鏃	1	2.6	1.5	0.7	2.6	珉質頁岩	
38-7	0s-23	Ⅱ	石鏃	2	4.6	1.9	0.7	4.7	珉質頁岩	
38-8	B-28	Ⅱ	石鏃	2	4.4	1.5	0.7	3.8	緑細凝	
38-9	0s-21	Ⅲ上面	石鏃	2	4	1.5	0.7	3.5	珉質頁岩	
38-9	F-33	Ⅰ	石鏃	2	4.3	1.6	0.6	3.3	珉質頁岩	
38-10	0y-27	Ⅱ	石鏃	2	3.9	1.5	0.7	3.1	珉質頁岩	
38-11	0y-29	Ⅱ	石鏃	2	3.9	1.5	0.7	2.5	珉質頁岩	
38-12	0s-29	Ⅱ	石鏃	2	4	1.6	0.7	4.1	珉質頁岩	
38-12	G-32	Ⅱb	石鏃	2	3.6	1.4	0.8	3.2	珉質頁岩	
38-13	0v-02	Ⅱ	石鏃	2	3.2	1.4	0.6	1.7	珉質頁岩	
38-15	C-32	Ⅰ	石鏃	2	3.1	1.3	0.4	1.3	珉質頁岩	
38-17	E-33	Ⅰ	石鏃	2	2.2	1.2	0.4	0.9	玉珪	
38-18	F-31	Ⅱb	石鏃	2	2.3	1.5	0.7	1.8	玉珪	
38-19	G-34	Ⅰ	石鏃	2	3.4	1.6	0.4	2.1	珉質頁岩	
38-20	0v-28		石鏃	3	3.7	1.6	0.5	2.5	珉質頁岩	
38-21	0u-20	Ⅱ	石鏃	3	4.9	1.4	0.4	2.5	珉質頁岩	
38-22	0x-03	Ⅱb	石匙		7.7	2.9	1.1	14.5	珉質頁岩	
38-23	0y-20	Ⅱ	石匙		5.2	3.2	1.1	13.8	珉質頁岩	
38-24	0s-23	Ⅱ	二次加工のある剥片		7.9	2.9	2	42.5	珉質頁岩	
38-25	0s-24	Ⅱ	二次加工のある剥片		1.8	1.9	0.7	1.8	珉質頁岩	
38-26	0s-23	Ⅱ	二次加工のある剥片		4.9	2.4	1.3	11.2	珉質頁岩	
38-27	0y-28	Ⅱ	二次加工のある剥片		2.9	3.9	1	8.8	珉質頁岩	
38-28	0s-23	Ⅱ	二次加工のある剥片		2.2	2.4	0.5	2.2	珉質頁岩	
38-29	A-27	Ⅲ上面	二次加工のある剥片		6.6	2.8	1.1	11.6	珉質頁岩	
39-30	0y-29	Ⅰ	二次加工のある剥片		2.7	4.1	1	7.3	珉質頁岩	
39-31	B-17	Ⅱ	石核		3.9	3	0.8	8.6	玉珪	
39-32	C-20	Ⅰ	磨石	1	16.7	9.9	4.2	668.6	花崗岩	
39-33	0s-28	Ⅱ	磨石	1	8	6.9	3.7	249.5	砂岩	
39-34	F-32	Ⅱ b	磨石	1	5.9	6.3	3.6	185.4	安山岩	
39-35	D-19	Ⅰ	磨石	1	13.8	7.3	4.5	539.9	輝緑岩	
39-36	C-18	Ⅰ	磨石	1	8.2	8.5	4.2	332.9	輝緑岩	
39-37	A-30	Ⅱ b	磨石	1	10	6.6	2.9	223.2	砂岩	
40-38	0x-30	Ⅱ	磨石	1	13.7	7.2	2.7	299.7	輝緑岩	
40-39	0t-24		磨石	1	12.9	5.1	2.1	143.5	ホルンフェルス	
40-40	0s-	Ⅱ	磨石	1	7.9	8	3.8	360.5	砂岩	
40-41	G-32	Ⅱ b	磨石	1	7.2	7	3.2	240.3	安山岩 (古期)	
40-42	B-21	Ⅰ	磨石	2	15	7.3	8.1	1220.8	砂岩	
40-43	0w-29	Ⅱ	磨石	1	12.7	6.8	2.8	349.6	チャート	
40-44	0u-25		磨石	1	8.1	6.1	2.6	203.7	砂岩	
40-45	0t-25		磨石	1	15.2	10.2	4.5	814.6	輝緑岩	
41-46	0s-26	Ⅱ	磨石	1	9	6.7	3.1	222.8	安山岩 (古期)	
41-47	A-18	Ⅰ	磨石	2	6.6	6	3.9	212.1	安山岩	
41-48	0b-23	Ⅰ	磨石	2	10.4	6.8	6	500.7	安山岩 (古期)	
41-49	B-20	Ⅰ	磨石	2	8.9	6.9	7.1	432.7	流紋岩 (古期)	
41-50	0s-24	Ⅱ	磨石	1	10.3	5	2.6	204.2	安山岩	
41-51	0w-30	Ⅱ	磨石	3	8.8	5.9	3.1	200.1	砂岩	
41-52	F-33	Ⅱ b	磨石	3	7.4	5.9	4.2	161.5	石英安山岩	
41-53	0u-24	Ⅱ	敲磨器		9.9	6	2.7	240.2	流紋岩	
41-54	B-21	Ⅰ	敲磨器		10.8	9.1	4.9	538.2	凝灰岩	
42-55	0x-29	Ⅱ	敲磨器		10.6	4.9	3.9	265.1	石英安山岩	
42-56	0x-36	Ⅱ	凹石		15.2	8	3.3	547.6	安山岩	
42-57	A-16	Ⅱ	凹石		9.7	7	4.5	421.3	安山岩	
42-58	A-26・B-29	Ⅰ・Ⅱ	凹石		8	6.2	5.5	251.2	凝灰岩	
42-59	0u-24	Ⅱ	凹石		8.4	7.4	2.7	229.3	凝灰岩	
42-60	0t-25		敲磨器		10.9	5.7	2.3	216	砂岩	
42-61	F-32	Ⅱ a	凹石		9.8	5.7	4.1	319.6	石英安山岩	
42-62	G-32	Ⅱ b	凹石		13.7	9.5	7.2	1131.4	石英安山岩	
42-63	G-34	Ⅱ	凹石		10.1	8	2.4	295.7	安山岩	
43-64	C-25	Ⅰ	被熱礫		10	6.9	4.5	438.2	チャート	
43-65	0s-24	Ⅱ	凹石		9.6	6.7	3.2	289.7	安山岩	
43-66	0t-25	Ⅱ	凹石		14	9	8.5	1359.1	安山岩	
43-67	G-30	Ⅱ	凹石		12.2	9.8	7.2	1164.9	安山岩	
43-68	A-22	Ⅱ	石皿・台石		11.6	8.1	5.4	592.6	凝灰岩	
43-69	0u-24	Ⅱ	凹石		9	9.2	4.3	459.2	砂岩	
43-70	0v-30	Ⅰ	凹石		12.3	7.9	4.3	486.2	安山岩	
43-71	0v-28		石皿・台石		11	10.8	3.8	539.4	安山岩	
44-72	B-27・28	Ⅰ・Ⅱ	石皿・台石		19.8	11.1	4.6	332.9	凝灰岩	被熱
44-73	0t-26	Ⅱ	磨製石斧		8	5.3	3.6	228.4	凝灰岩	
44-74	0s-30	Ⅰ	磨製石斧		6.8	4	3	92.7	安山岩	
44-75	0u-25		石刀		13.6	4.6	2	153.7	粘板岩	
44-76	F-30・33	Ⅰ・Ⅱb	その他		10.1	6.1	3.9	295.8	流紋岩	
44-77	F-33	Ⅱ b	その他		5.9	5.8	4.7	183.8	流紋岩	

縄文時代前期末葉～中期初頭

	G	F	E	D	C	B	A	0y	0x	0w	0v	0u	0t	0s	0r	0q	0p	0o
05																		
04																		
03																		
02											1							
01										10								
00																		
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6						5												
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18						2												
19					7													
20																		
21					13			10					1			2	13	
22					1								7	85			5	
23							1						25	5		9		
24		2		1	3		4		14	1		4	6	61				
25						2	41	3					8			2		
26			1	5	17		1	52	8	5	7	14		18	10			
27						10	4	1	3	2	4	6	26	1	10			1
28									11	3		2	7					
29		1				5			1		8	1	9	5	4	28	13	
30		3					10		2		7	3	7			7	2	1
31	10	11				7												
32	13	9																
33	51	35	14	1														
34	11	16	17	6														
計	89	74	37	52	28	16	114	27	38	30	64	18	78	193	16	27	1	902

縄文時代後期初頭～前葉

	G	F	E	D	C	B	A	0y	0x	0w	0v	0u	0t	0s	0r	0q	0p	0o
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		
21																		1
22																		
23						1												
24					1													4
25			1	1		1												1
26				1							1							
27							2			1								
28						1						1						
29																		1
30																		
31																		
32																		
33																		
34				1														
計		1	3	1	2	3	3	2	2	1	6	1	20					

弥生後期

	G	F	E	D	C	B	A	0y	0x	0w	0v	0u	0t	0s	0r	0q	0p	0o
15																		
16				2														
17				5		1												
18																		
19																		
20																		
21											1							
22						5												
23																		
24																		
25			5															
26					1													
27						2												
28						1												
29																		
30																		
31																		
32																		
33																		
34																		
35																		
計		5	8	8	1	1	1			1								23

第Ⅱ・Ⅲ層出土土器破片数を集計した。
遺物の出土していないグリッドは表中から除いている場合がある。
第Ⅱ層中で14点の時期不明遺物がある。

縄文時代中期中葉～後葉

	G	F	E	D	C	B	A	0y	0x	0w	0v	0u	0t	0s	0r	0q	0p	0o		
15																				
16																				
17																				
18												1								
19																				
20																				
21																				
22													16							
23													1							
24														1						
25															1					
26																				
27																				
28															1			1		
29																2				
30															2			2		
31																				
32																				
33																				
34																				
計							2	20					2		1		4	2	2	23

縄文時代後期中葉

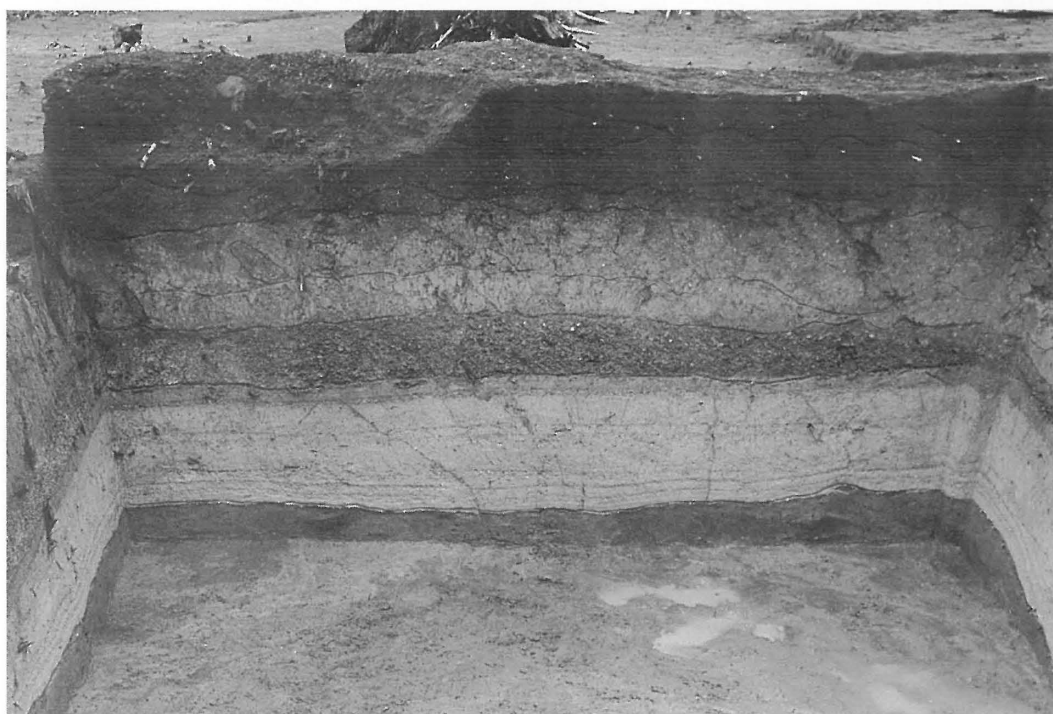
	G	F	E	D	C	B	A	0y	0x	0w	0v	0u	0t	0s	0r	0q	0p	0o		
15																				
16																				
17						2						1								
18																				
19												1								
20																				
21															2					
22															2					
23																				
24																				
25																				
26																				
27																				
28																				
29																				
30																				
31																				
32																				
33																				
34																				
計							49	24	12	62	6	5	4	11	13	3	1	7	7	204

縄文時代後期後葉～晩期初頭

	G	F	E	D	C	B	A	0y	0x
--	---	---	---	---	---	---	---	----	----

参考文献

- 青森県教育委員会 2001 『笹ノ沢(2)・(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第305集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『秋浦Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第346集
- 江坂 輝彌 1970 『石神遺跡』ニュー・サイエンス社
- 大池 昭二・中川 久夫 1979 『三戸地域広域農業開発』基本調査地形並びに表層地質調査報告書
- 中村 哲也 2001 「第5章 まとめ」『松ヶ崎遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第291集 青森県教育委員会
- 松山 力 1983 『八戸の地質』文化財シリーズ第24号 八戸市教育委員会
- 北上市教育委員会 1983 『滝ノ沢遺跡』北上市文化財調査報告第33集
- 1990 『滝ノ沢遺跡Ⅱ』北上市文化財調査報告第60集
- 宮城県教育委員会 1986 a 『田柄貝塚Ⅰ 遺構・土器編』宮城県文化財調査報告書第111集
- 1986 b 『小梁川遺跡 遺物包含層土器編』宮城県文化財調査報告書第117集



1. 0x-3 グリッド基本層序 (南から)



2. フラスコ状土坑群配置状況 (南から)



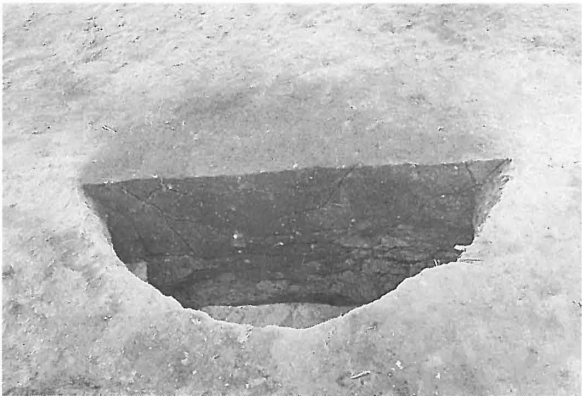
3. フラスコ状土坑群空中写真
(画面左端は橋脚工事のための優先調査区域で既に掘削されている。)



4. フラスコ状土坑群配置状況（南から）



5. 縄文集落区域近景（南から）



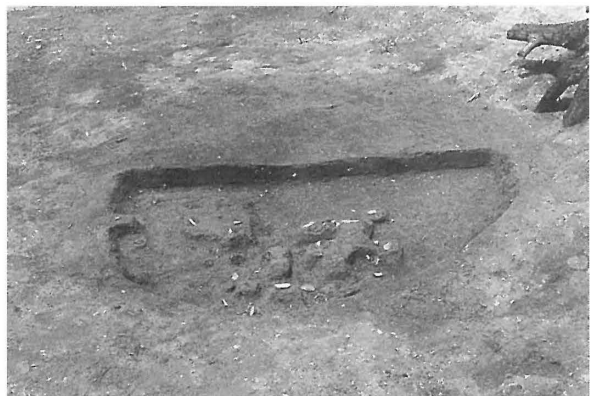
6. 第198号土坑セクション（南から）



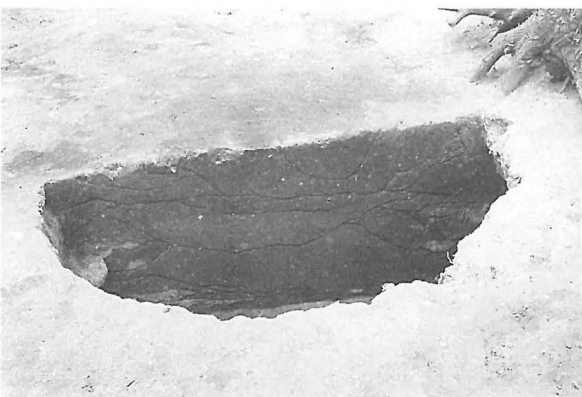
7. 第198号土坑完掘状況（東から）



8. 第197号土坑完掘状況（南から）



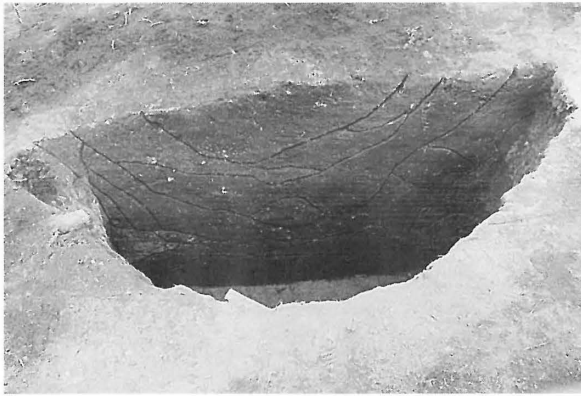
9. 第199号土坑遺物出土状況（東から）



10. 第199号土坑セクション（東から）



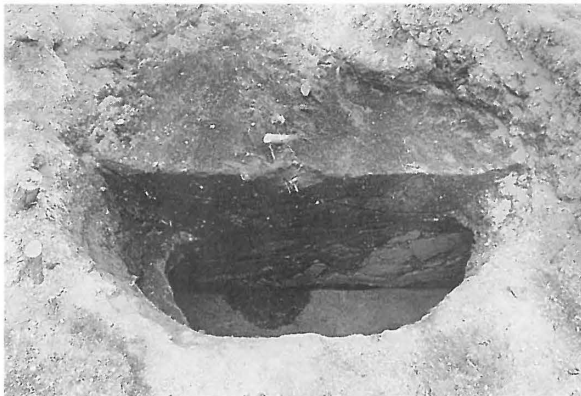
11. 第199号土坑完掘状況（東から）



12. 第200号土坑セクション（東から）



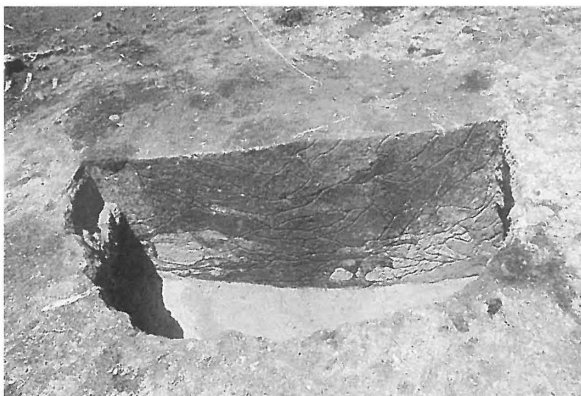
13. 第200号土坑完掘状況（東から）



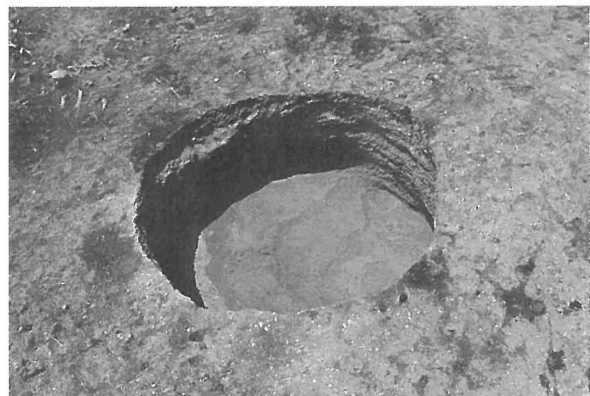
14. 第201号土坑セクション（南東から）



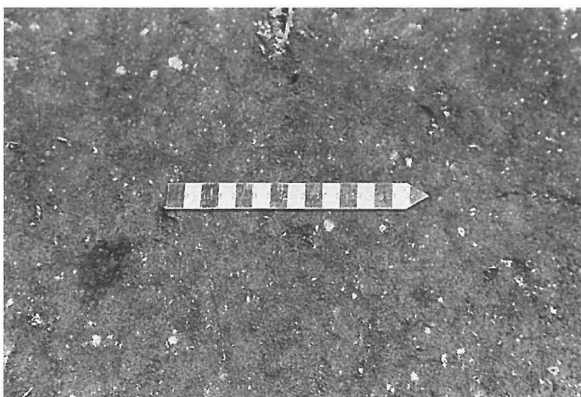
15. 第201号土坑完掘（南東から）



16. 第202号土坑セクション（東から）



17. 第202号土坑完掘状況（東から）



18. 第202号土坑堆積土斑状構造



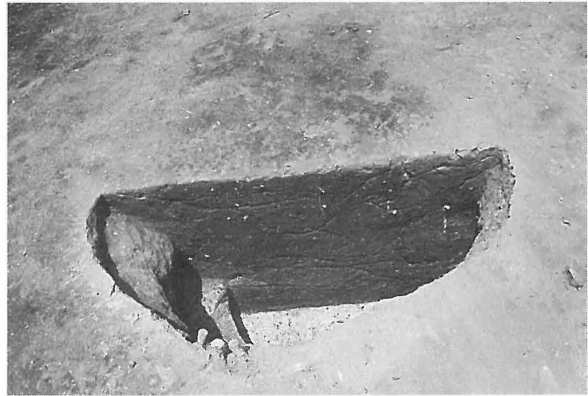
19. 第203号土坑セクション (南から)



20. 第203号土坑完掘状況 (南から)



21. 第204号土坑セクション (南西から)



22. 第205号土坑セクション (東から)



23. 第205号土坑完掘状況 (東から)



24. 第206号土坑完掘状況 (東から)



25. 第207号土坑セクション (東から)



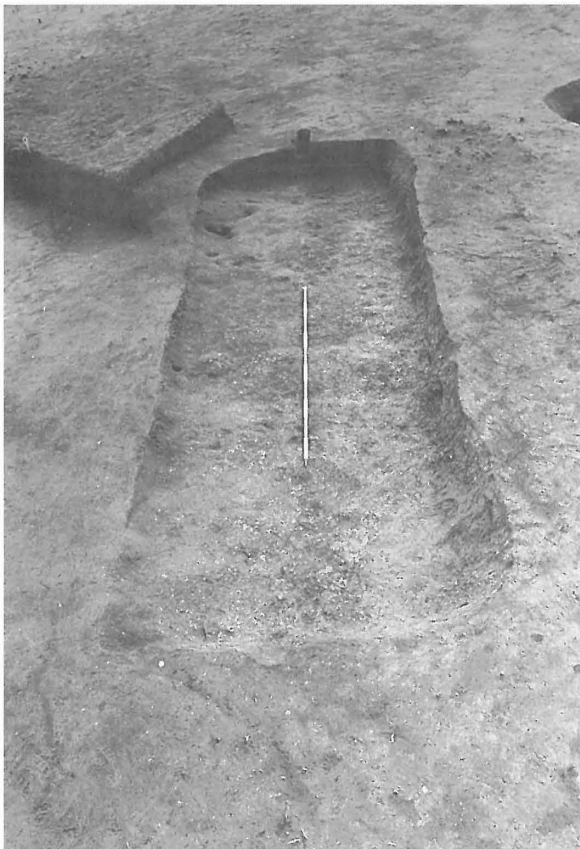
26. 第207号土坑完掘 (東から)



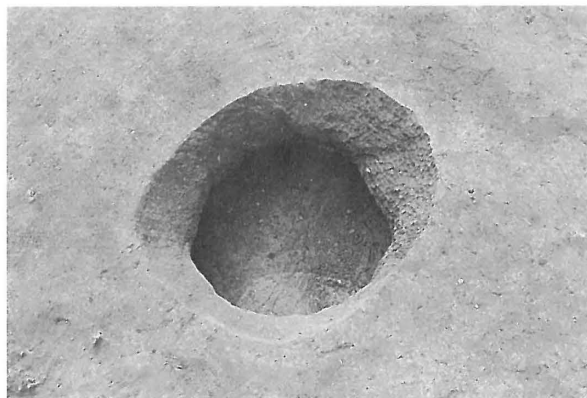
27. 第208号土坑中央南側炭化物出土状況



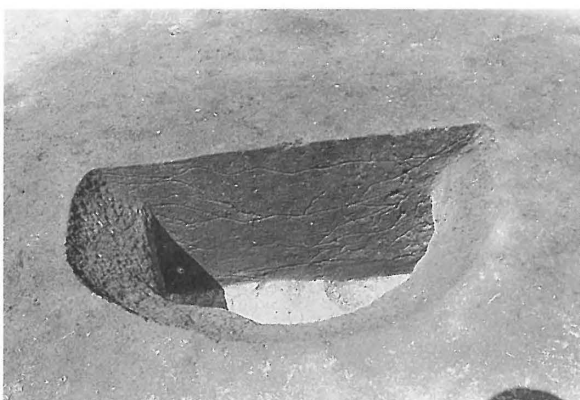
28. 第208号土坑炭化物出土状況（北東から）



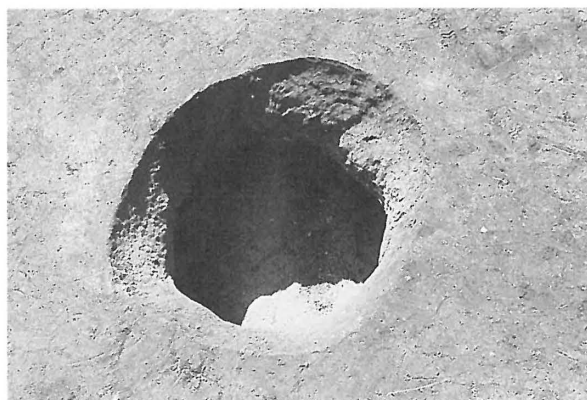
29. 第28号土坑完掘状況（北東から）



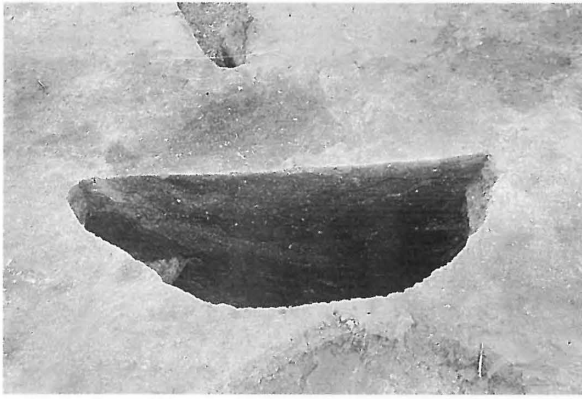
30. 第213号土坑完掘状況（東から）



31. 第213号土坑セクション（東から）



32. 第213号土坑完掘状況（東から）



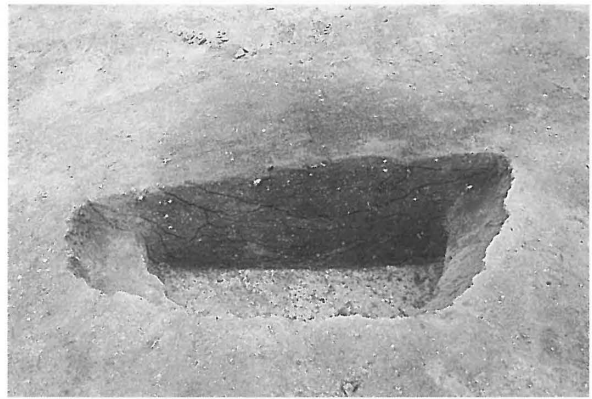
33. 第214号土坑セクション（東から）



34. 第215号土坑完掘状況（東から）



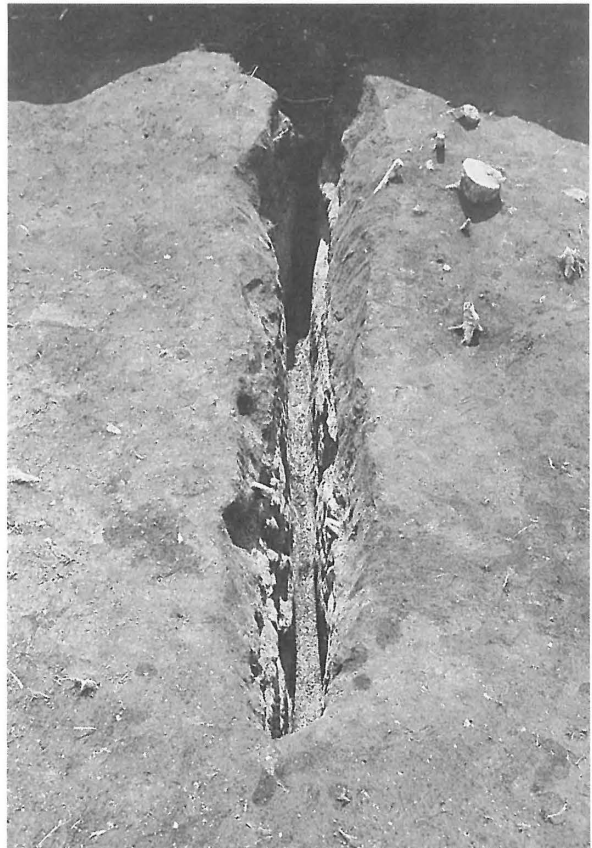
35. 第215号土坑セクション（東から）



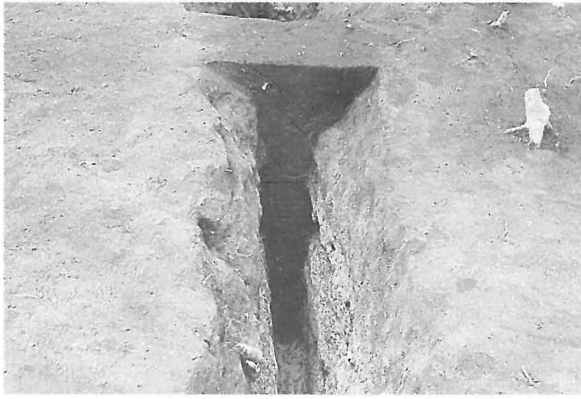
36. 第215号土坑セクション（東から）



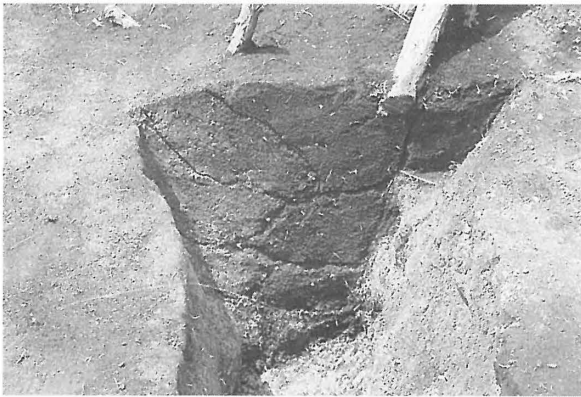
37. 第4号溝状土坑完掘状況（西から）



38. 第49号土坑溝状土坑完掘状況（東から）



39. 第49号溝状土坑セクション（東から）



40. 第52号溝状土坑セクション（東から）



41. 第52号溝状土坑完掘状況（東から）



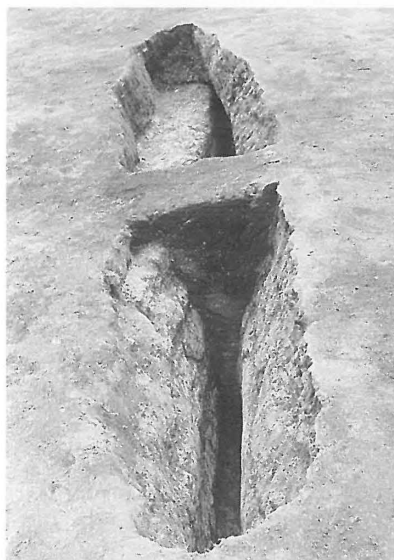
42. 第53号溝状土坑セクション（東から）



43. 第53号溝状土坑セクション（東から）



44. 第54号溝状土坑遺物出土状況(南から)



45. 第54号土坑溝状土坑セクション(東から)



46. 第54号溝状土坑(東から)



47. 第55号溝状土坑セクション(東から)



48. 第55号溝状土坑下半部完掘状況(東から)



49. 第56号溝状土坑セクション(北から)



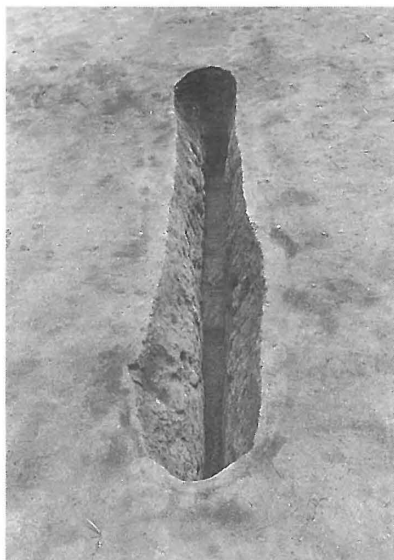
50. 第56号溝状土坑完掘状況(北から)



51. 第56号溝状土坑下半部完掘状況(北から)



52. 第57号溝状土坑セクション (東から)



53. 第57号溝状土坑完掘状況 (北東から)



54. 第57号溝状土坑下半部確認状況(北東から)



55. 第57号溝状土坑下半部セクション(南西から)



56. 第58号溝状土坑セクション (南西から)



57. 第59号溝状土坑セクション (東から)



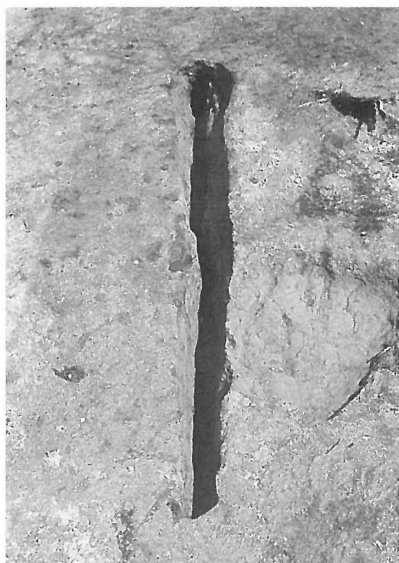
58. 第59号溝状土坑完掘状況 (東から)



59. 第60号溝状土坑セクション (北東から)



60. 第60号溝状土坑完掘状況 (北東から)



61. 第61号溝状土坑完掘状況 (南西から)



62. 第62号溝状土坑セクション (西から)



63. 第63号溝状土坑セクション (南西から)



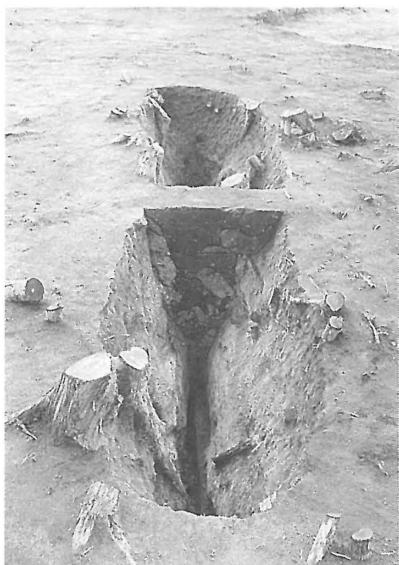
64. 第63号溝状土坑完掘状況 (北東から)



65. 第64号溝状土坑セクション (南西から)



66. 第64号溝状土坑完掘状況 (南西から)



67. 第65号溝状土坑セクション (北東から)



68. 第65号溝状土坑上半部完掘状況 (北東から)



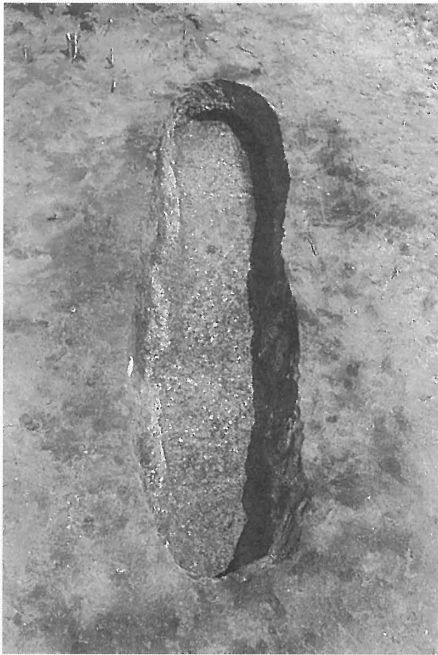
69. 第65号溝状土坑下半部完掘状況 (北東から)



70. 第67号溝状土坑セクション (西から)



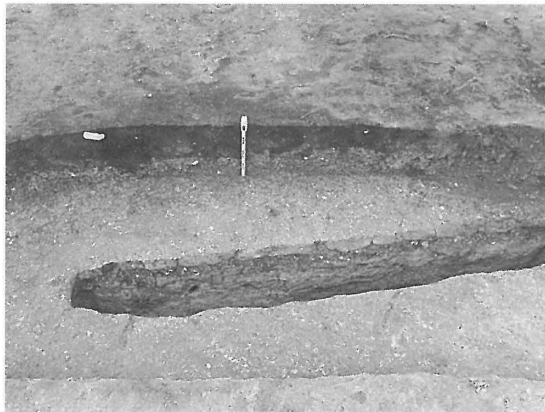
71. 第67号溝状土坑下半部セクション (西から)



71. 第67号溝状土坑完掘状況 (西から)



73. 第67号溝状土坑下半部完掘状況 (西から)



74. 第67号溝状土坑
北側壁面 (南から)



75. 第68号溝状土坑セクション（南から）



76. 第68号溝状土坑完掘状況（南から）



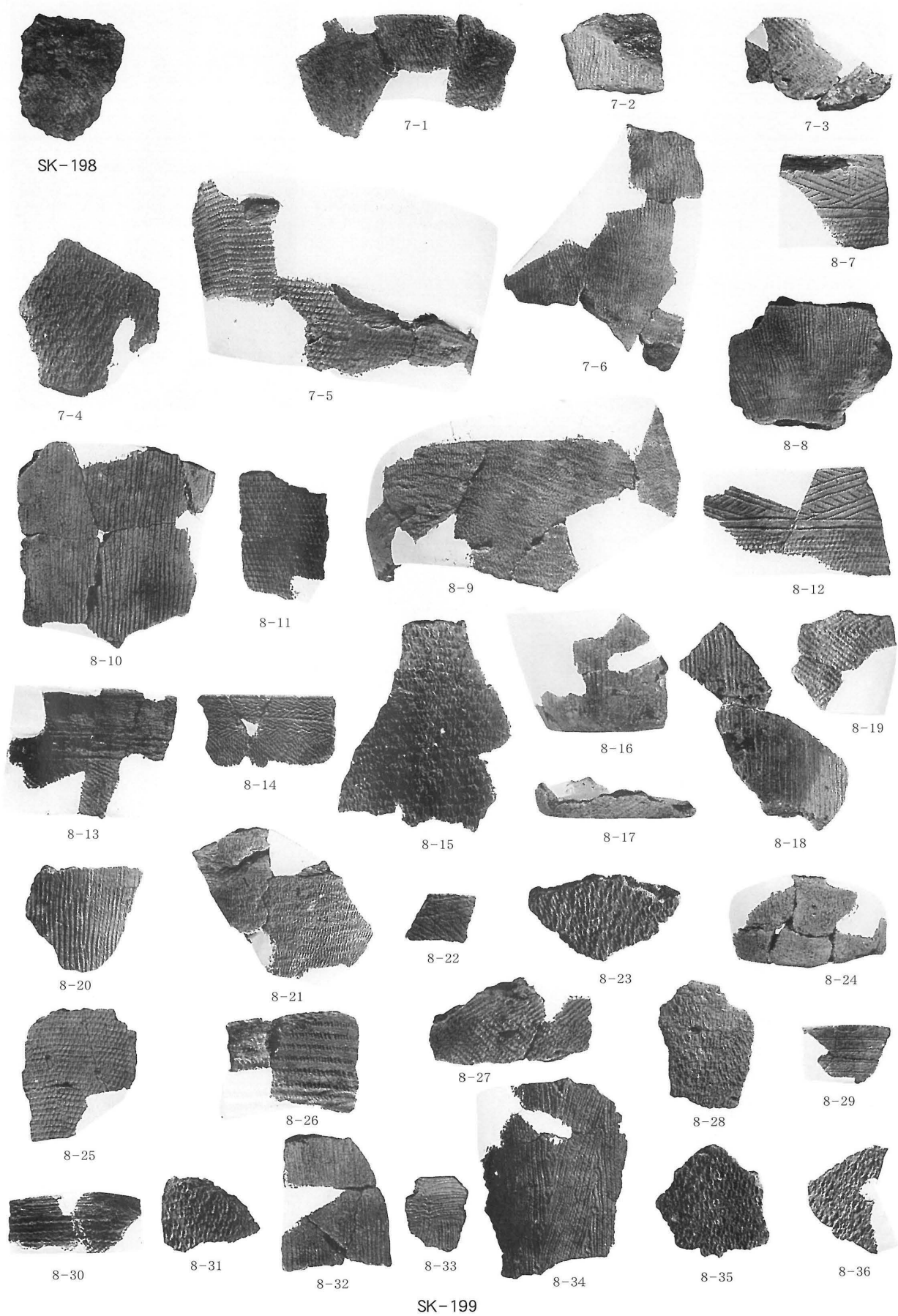
77. 第69号溝状土坑セクション（南西から）



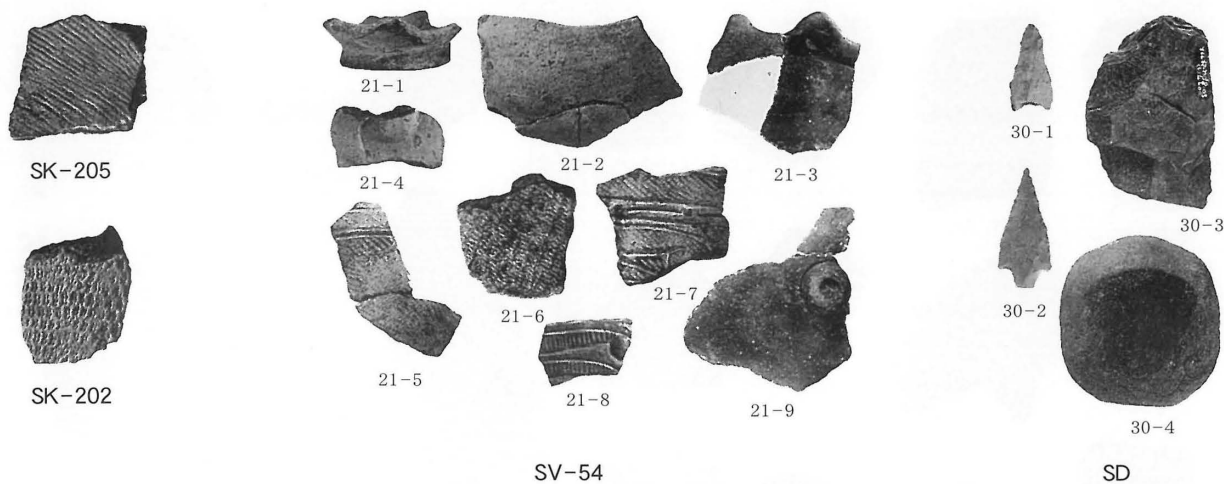
78. 第70・71号溝状土坑セクション（西から）



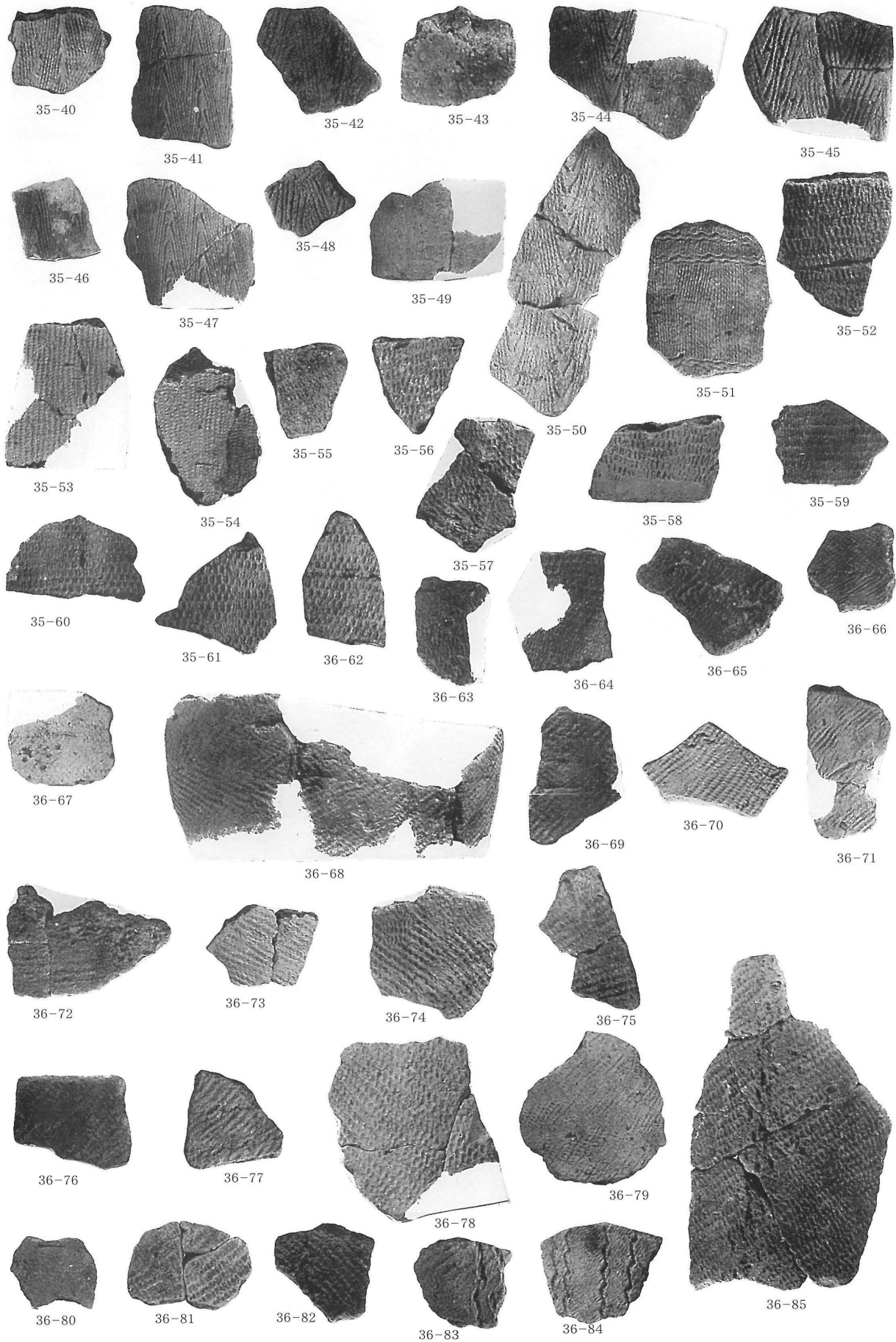
79. 第70・71号溝状土坑完掘状況（西から）



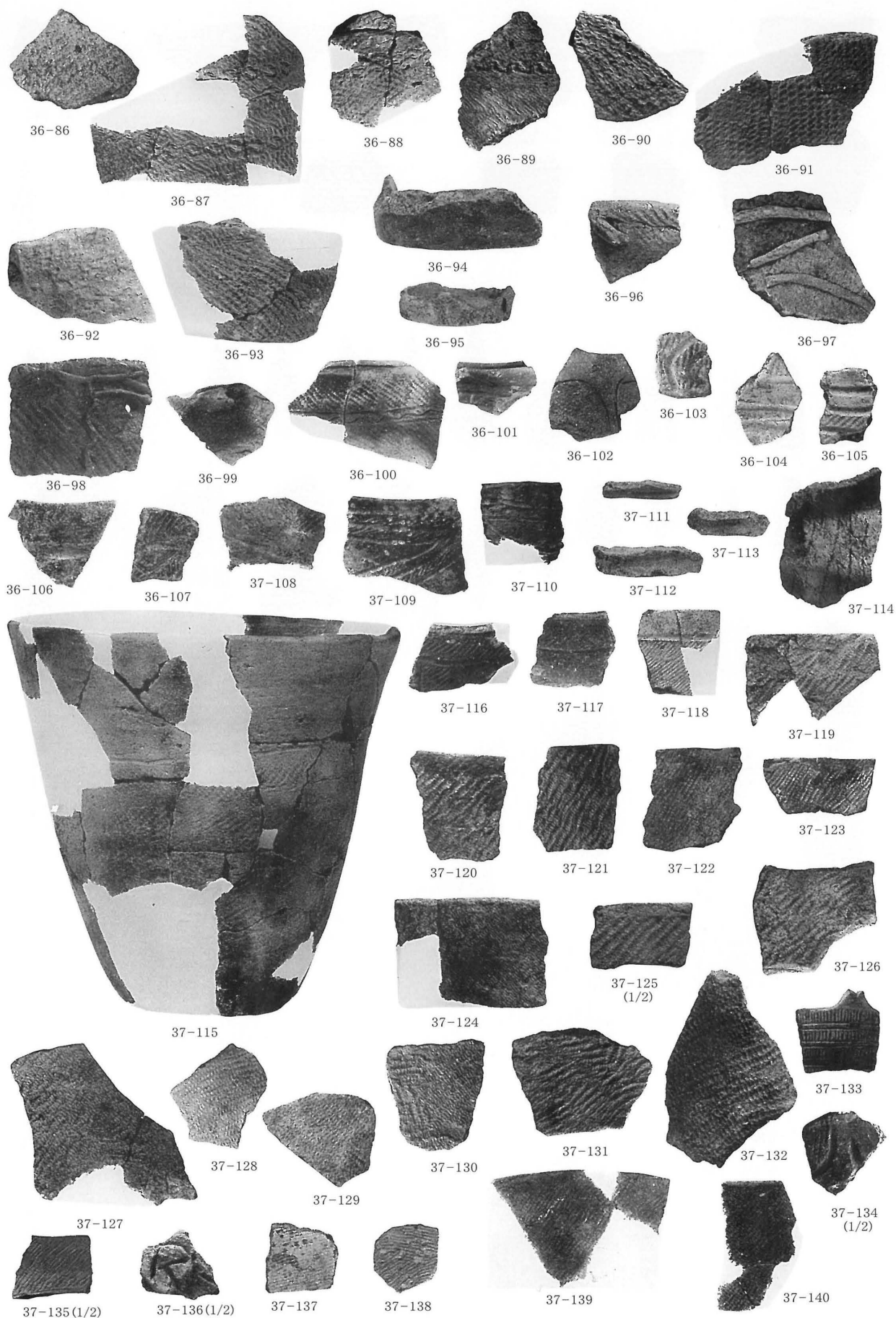
写真図版 14 遺構内出土遺物 (1)



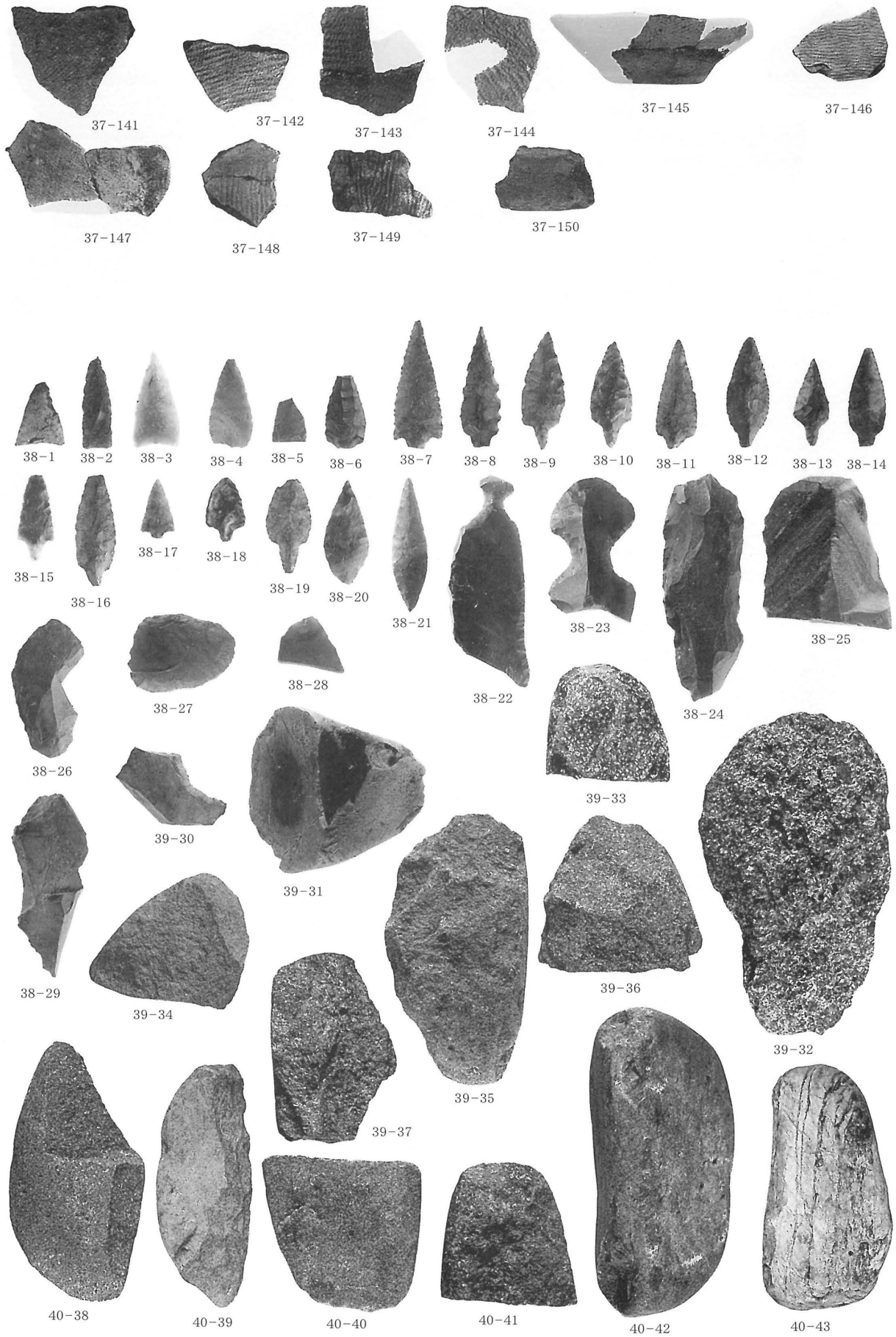
遺構外



写真図版 16 遺構外出土土器 (2)



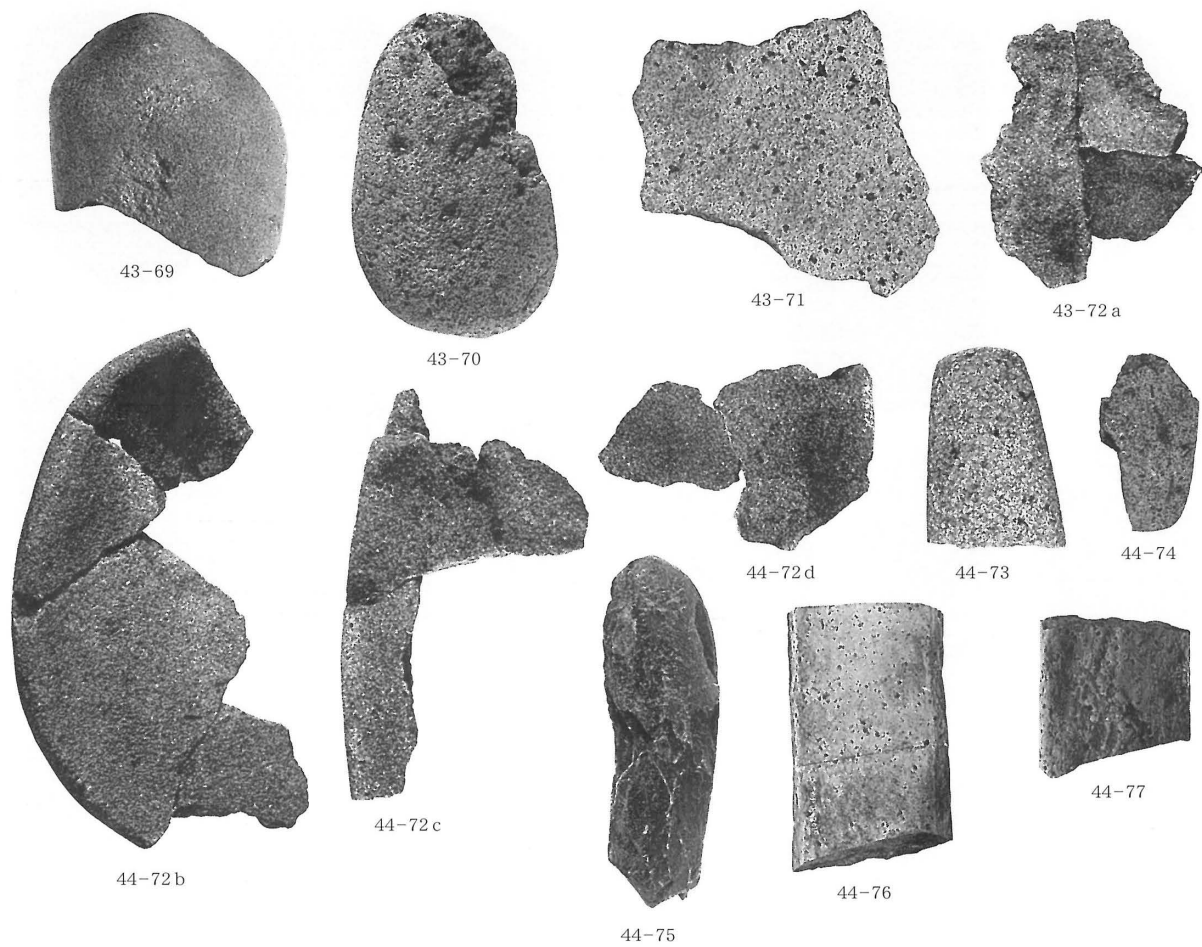
写真図版 17 遺構外出土土器 (3)



写真図版 18 遺構外出土土器(4)・遺構外出土石器(1)



写真図版 19 遺構外出土石器 (2)



報告書抄録

ふりがな	さきのさわかつこさんいせき 笹ノ沢(3)遺跡							
副書名	八戸環状道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第318集							
編著者名	中村 哲也							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森市新城字天田内152-15 TEL017-788-5701 FAX017-788-5702							
発行年月日	平成14年2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さきのさわかつこさん 笹ノ沢(3) いせき 遺跡	あおもりけんはちのへし 青森県八戸市 おおあざしりうちまちあざしも 大字尻内町字下 けあいしみず ほか 毛合清水、外	02-203	03-042	40° 30′ 03″	141° 08′ 53″	000418 ～ 000914	8,400㎡	八戸環状道路建設事業に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
さきのさわかつこさん 笹ノ沢(3) いせき 遺跡	集落跡	縄文時代 前期末葉～中期初頭 縄文時代後期以降	フラスコ状土坑 12基 溝状土坑 24基		土器・石器			

青森県埋蔵文化財調査報告書第318集

笹ノ沢(3)遺跡Ⅱ

－八戸環状道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－

発行年月日 平成14年2月28日

発行 青森県教育委員会

〒030-0801 青森市新町二丁目3-1

編集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市新城字天田内152-15

TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702

印刷 株式会社 サンエイ

〒030-0121 青森市妙見三丁目2-19

TEL 017-738-0040 FAX 017-738-0880



活彩あomor
—輝くあomor新時代—